

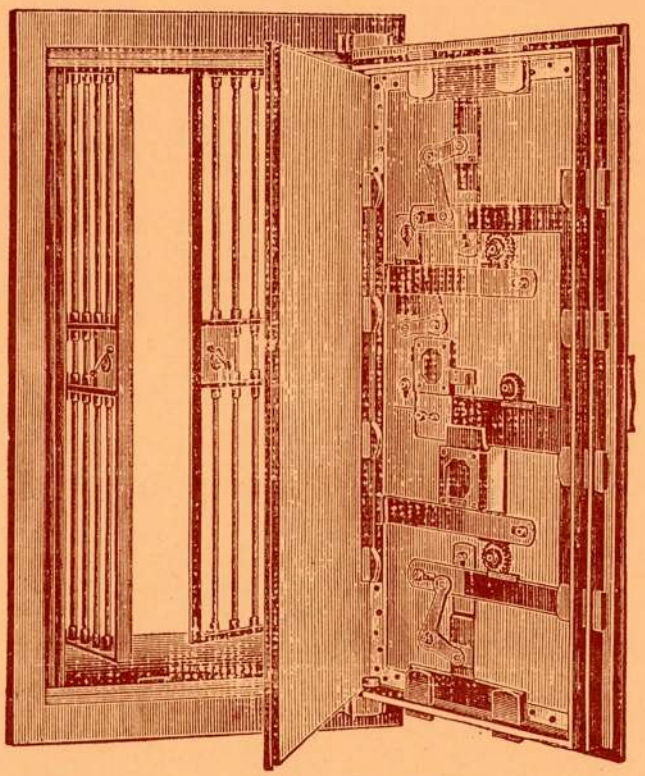
建築ト社會

第七輯第十一号

日本建築協會

大正十三年十一月一日

耐震
耐火 理想鐵扉の出現



金庫扉 金庫 製造界の權威

大谷金庫店

店主 大谷榮之介
顧問工學博士 細木松之介
獨逸人技師 ア・シューハルト

工場 東京第一工場 東京市京橋區佃島壹丁目
全 第二工場 全 深川區東元町
京都分工場 京都市松原通り大宮西入

營業所 東京市京橋區岡崎町二丁目
京都市松原通東洞院東入
大阪市東區淀屋橋筋（道修町）
神戸市楠町六交叉點西

高級昇降機

エー.ビー.シー

現在ノ最大建築ニ使用サレ！

今後ノ高層建築ニ採用サレントス！

最近御採用御先方報告

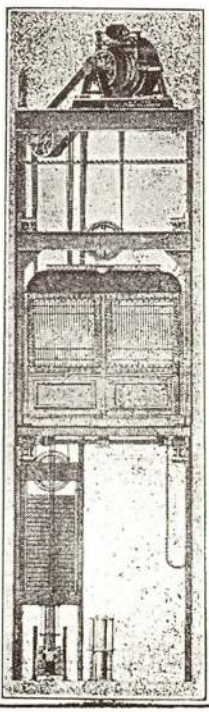
丸ノ内ビルデンク	十一臺
日本郵船	八臺
日本興業銀行	四臺
中外商業新報社	一臺
特許局	一臺
阪急電鐵	一臺
泉尾土地會社	二臺
大學病院	二臺
松竹キネマ座	二臺
神戸商船ビルヂング	四臺
明治海運ビルヂング	四臺
淺野物産	一臺
村井銀行神戸支店	一臺
プラナモンド社	二臺
内田ビルヂング	三臺
明治屋	二臺
其ノ他	拾臺

A,B,See!

ELECTRIC ELEVATOR CO.

220 Broad Way New York

ESTABLISHED IN 1883





Esteemed enquiries solicited!

東洋總代理店

内田商事株式會社機械部

東京　神戸　大阪

建築と社會　第七輯第十一號目次

口　繪　◇懸賞當選　大阪市淀屋橋及大江橋設計圖案

◉卷　頭……生くるとは

論說

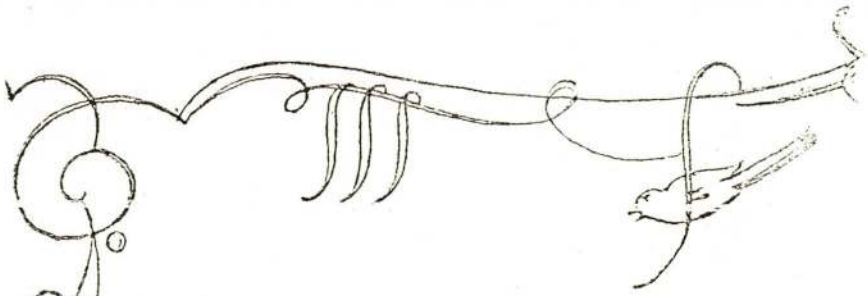
營繕事務統一に就いて……工學士　葛野壯一郎・二
建築設計に於ける强度計算報酬規定に就いて……工學士　增田　淸・七

研究

建築設計と希臘建築に於ける對稱及均勢「ハンビッチ」氏の法則……伊藤正文・三
歐米の都市計畫法制……田中淸志・二〇

市部

大阪市及接續町村に於ける衛生地區の乳兒死亡に及ぼす影響に就ての一考察（續）……楠原祖一郎・二五
都市計畫展覽會出品評……大屋靈城・三四



資料

拜禮島＝大石堰堤＝窟墓＝象島……工學博士　天沼俊一・三八
——續埃及遊記（十）——
大阪都市計畫廣路橋梁設計懸賞當選案審査評……審査員　G　T・五五

漫錄

古寺巡り……宮飼克二・五七
歐米の牧場を訪ふて……津田　鑿・六四
それからそれへ……三島沒虛・七

創作

踊る女の耳……柿の舍主人・八三

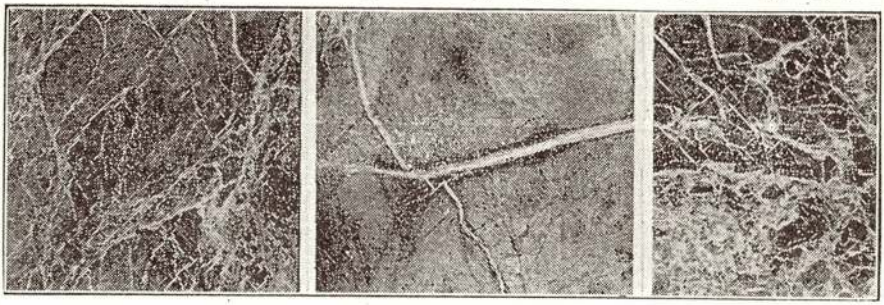
時報

建築界の最近重要記事……九四

會報

大日本建築協會十月中記事……

大和錦 (A)　　白瀧 (A)　　白瀧 (B)



錆色青磁色ニ白模様　　薄青磁色ニ濃青磁色並ニ白模様　　青磁色ニ白模様

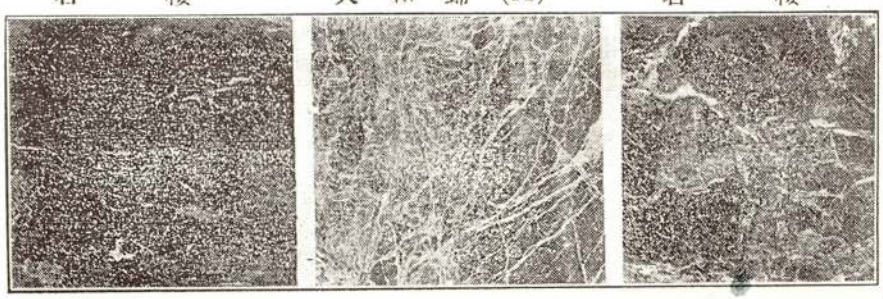
本店　鳥取市立川町一ノ五九
東京販賣所　東京市日本橋區小網町三ノ二四(電大手七一一六)
大阪販賣店　大阪市北區芝田町一〇六番地電話北一六七〇
採掘地　鳥取縣八頭郡若櫻町字赤松

旭大理石商會

蛇紋石

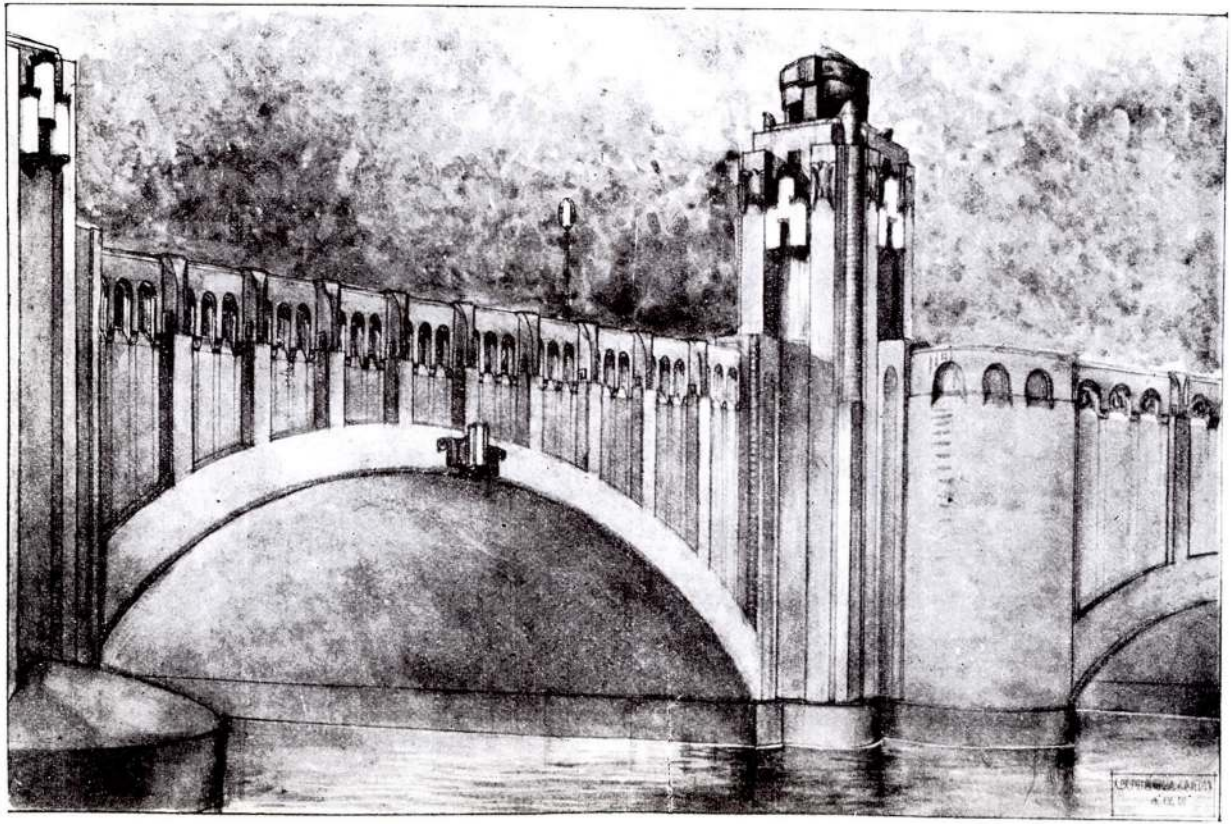
礦量豐富　大材採取
耐火　耐酸　價格低廉

若櫻　　大和錦 (A)　　若櫻



濃青磁色ニ朱色模様　　錆色青磁色ニ白模様　　濃青磁色ニ朱色模様

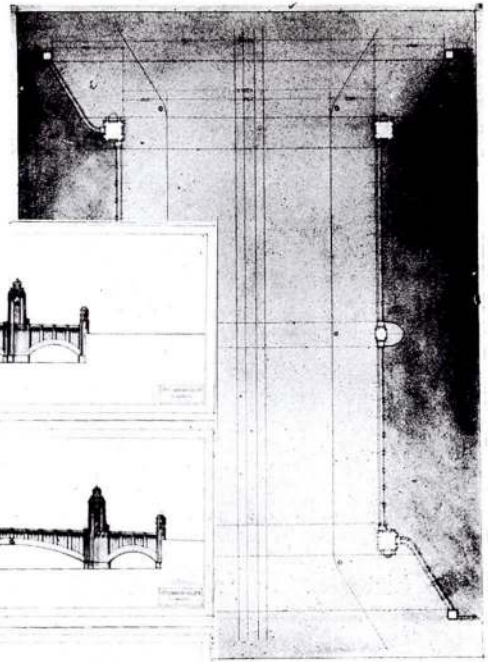
大阪市の懸賞募集に係る
淀屋橋及大江橋設計圖案



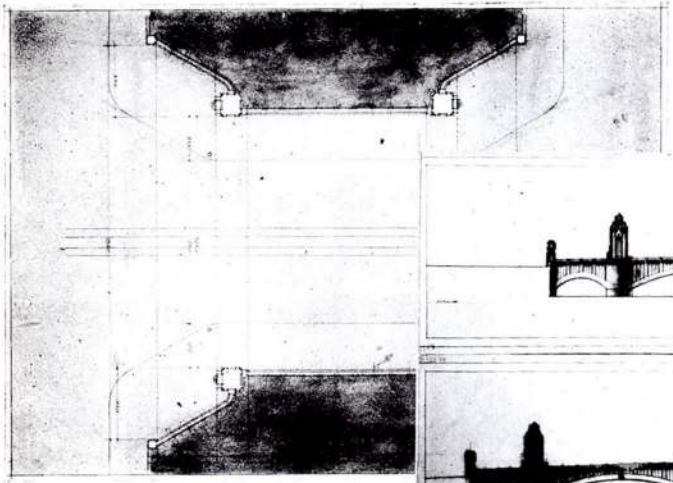
其一　配景圖

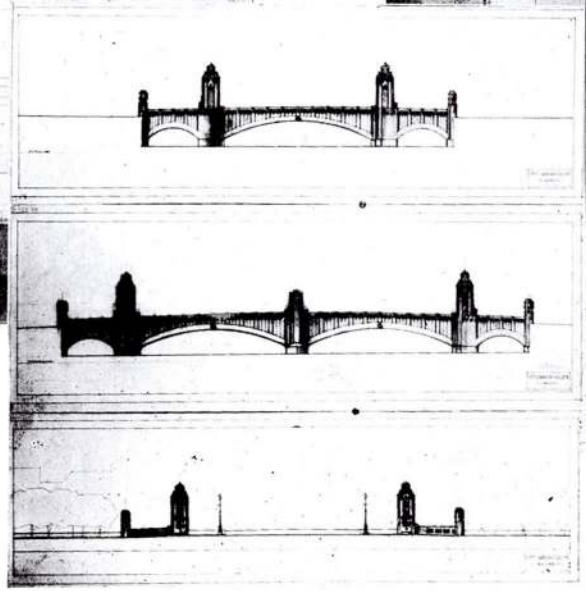
一等當選　大谷龍雄氏

其三　大江橋平面圖



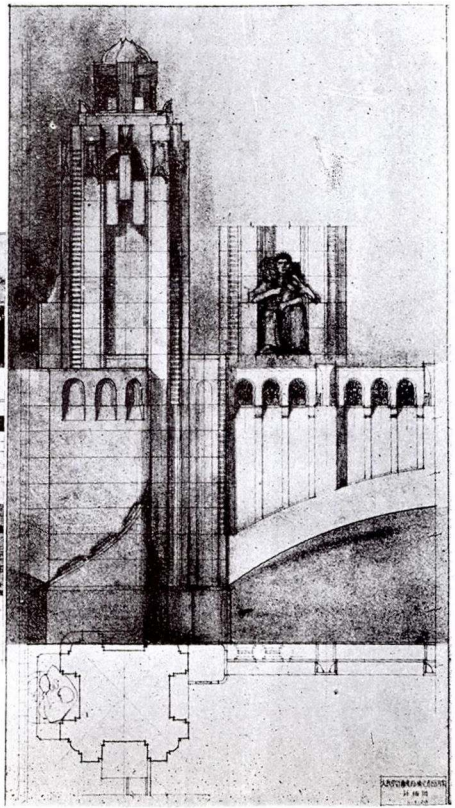
其四　淀屋橋平面圖

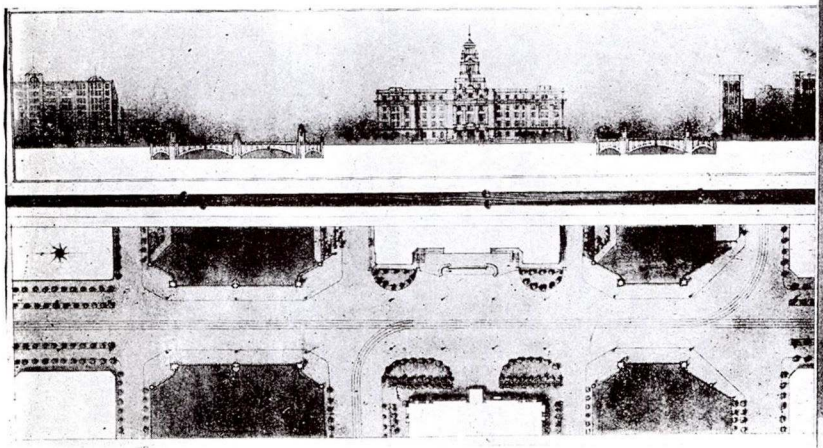




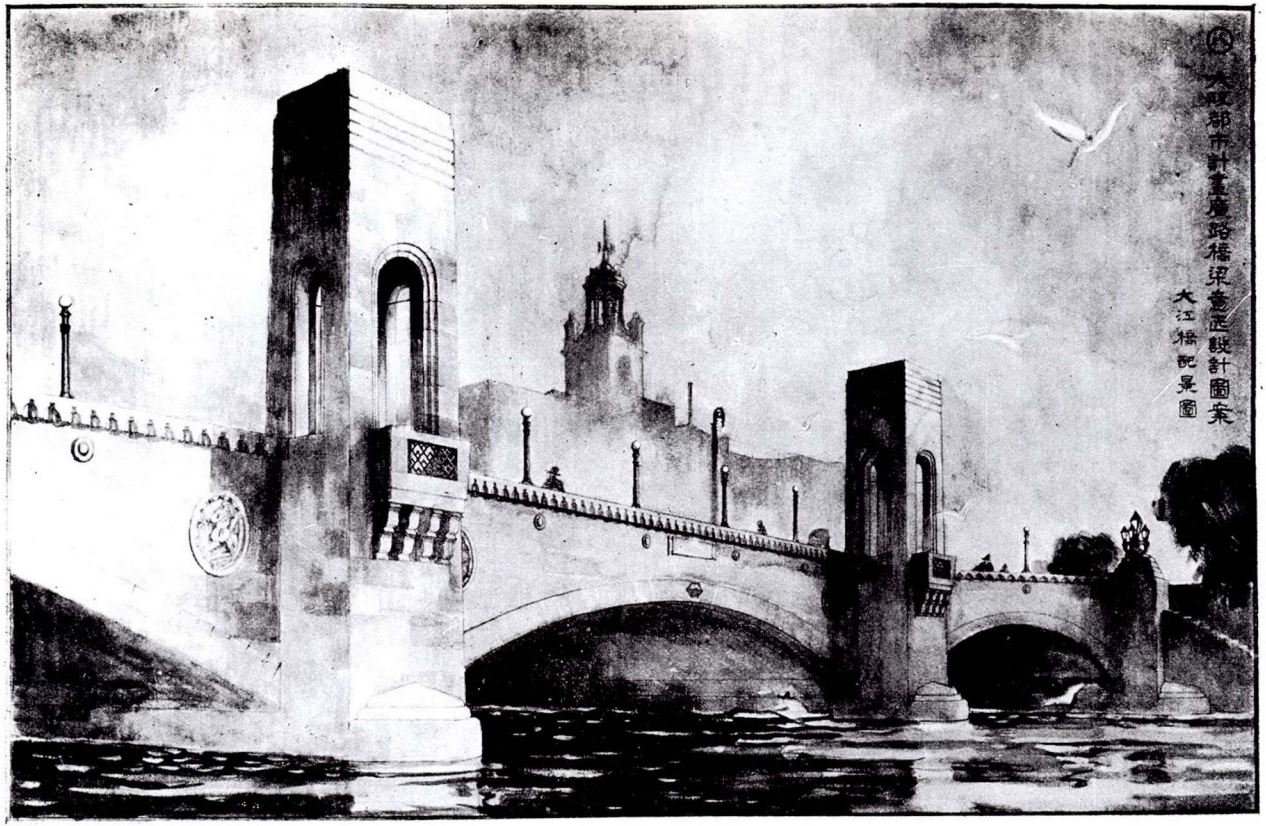
其二　大江橋と淀屋橋の正面及側面圖

其五　詳細圖

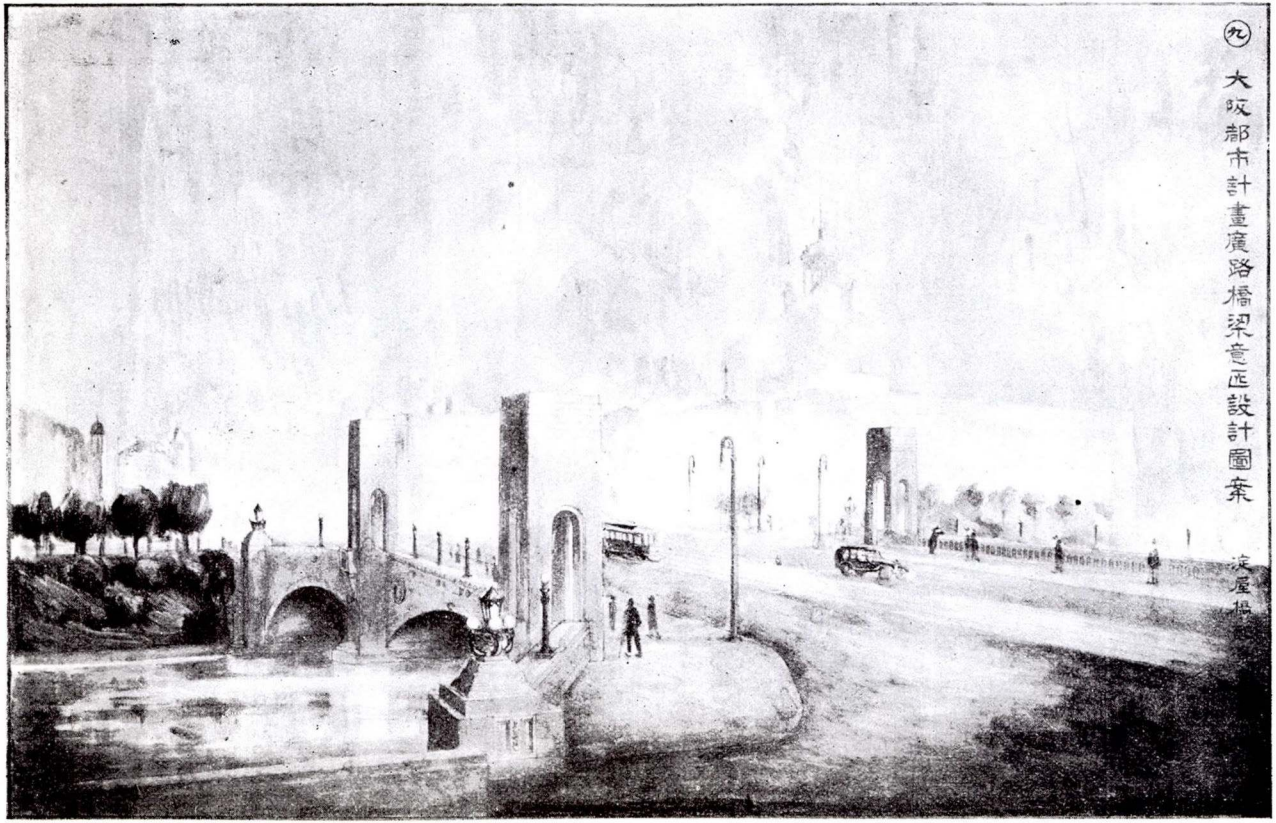




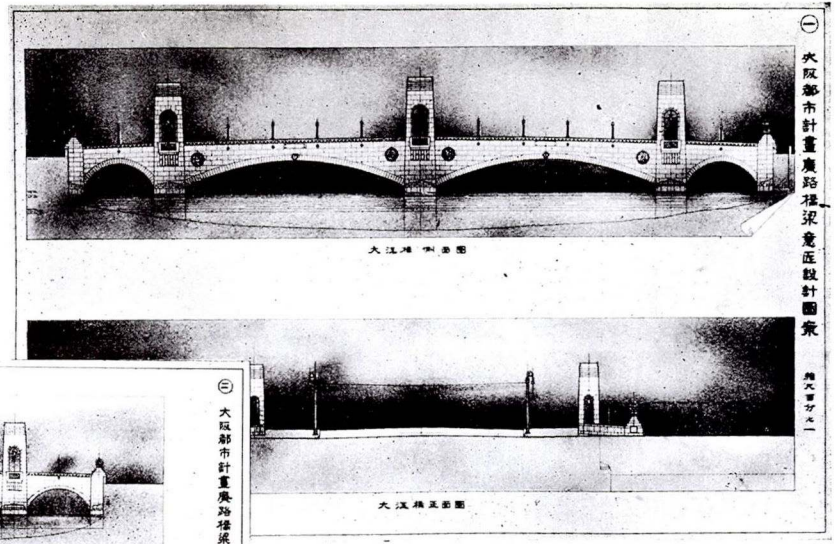
其六　二橋連續側面及平面圖



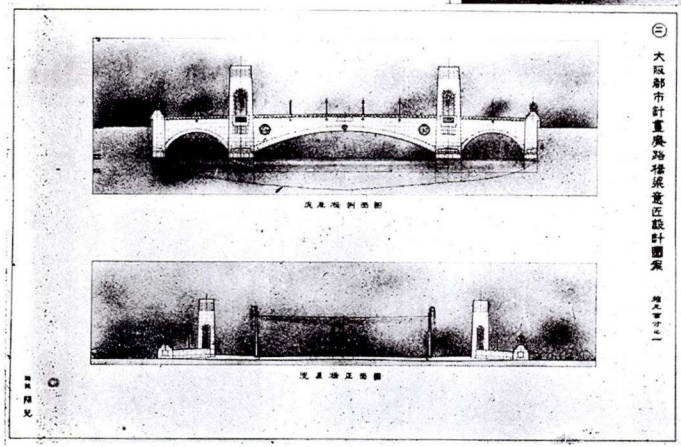
二等當選　伊藤正文氏　　其一　大江橋配景圖



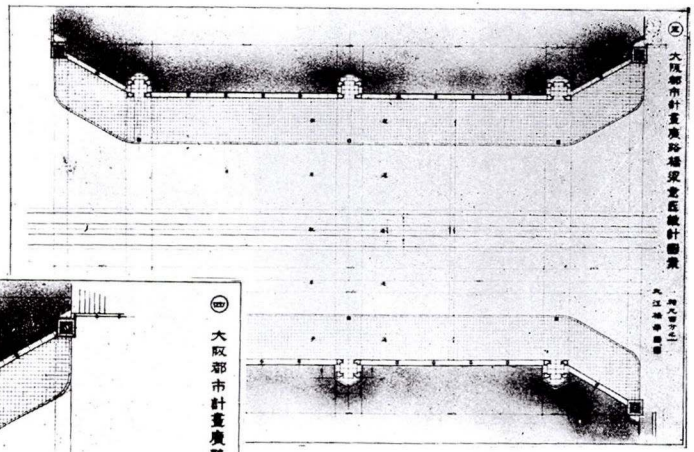
其二　淀屋橋配景圖



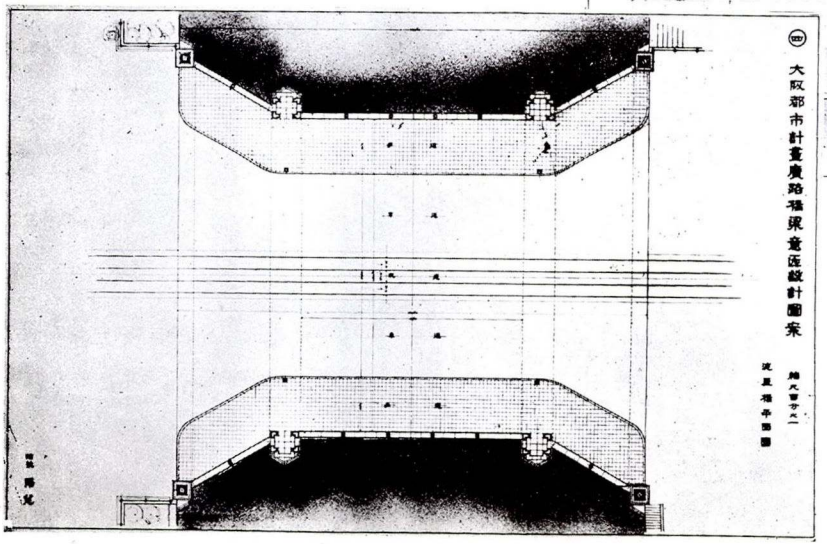
其三　大江橋正面及側面圖



其四　淀屋橋正面及側面圖

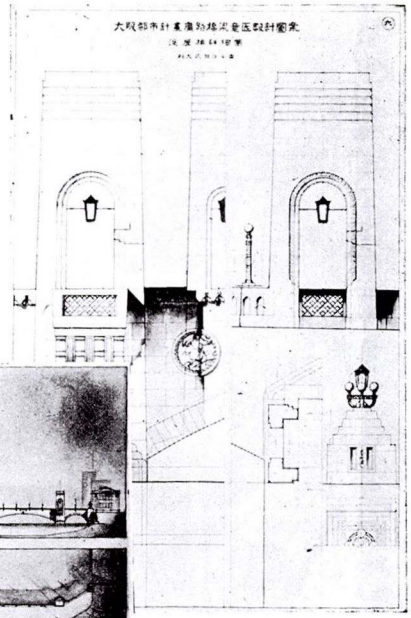


其五　大江橋平面圖

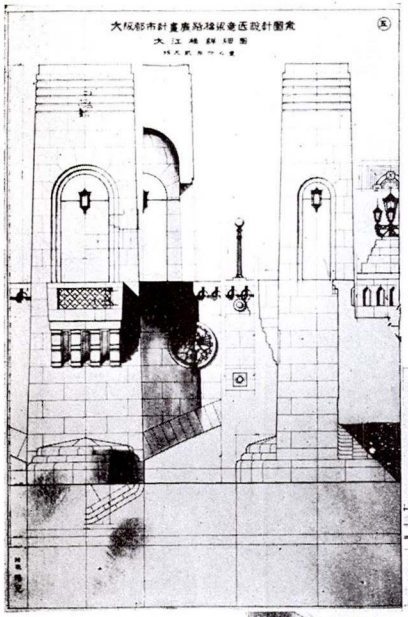


其六　淀屋橋平面圖

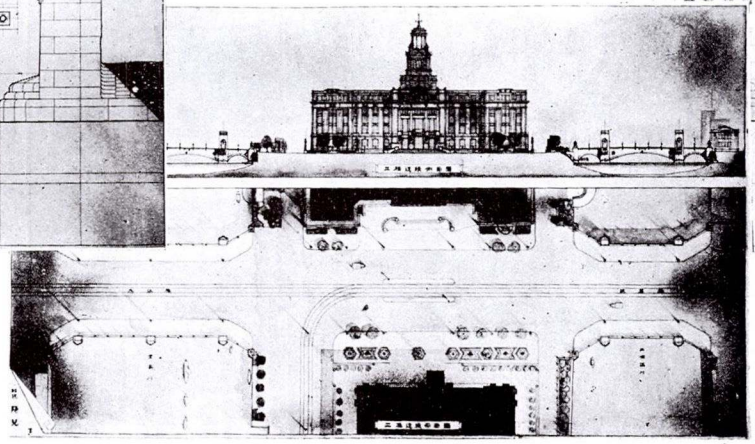
其七　大江橋詳細圖

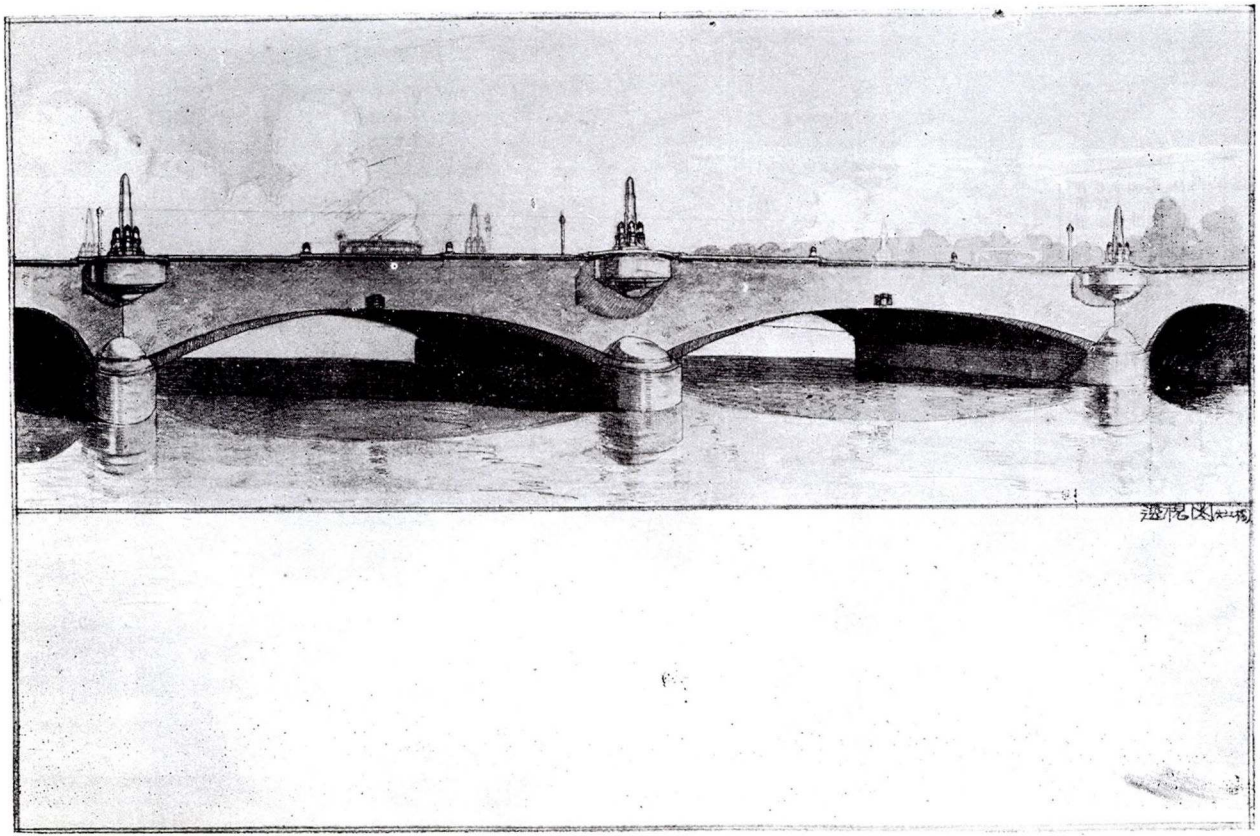


其八　淀屋橋詳細圖

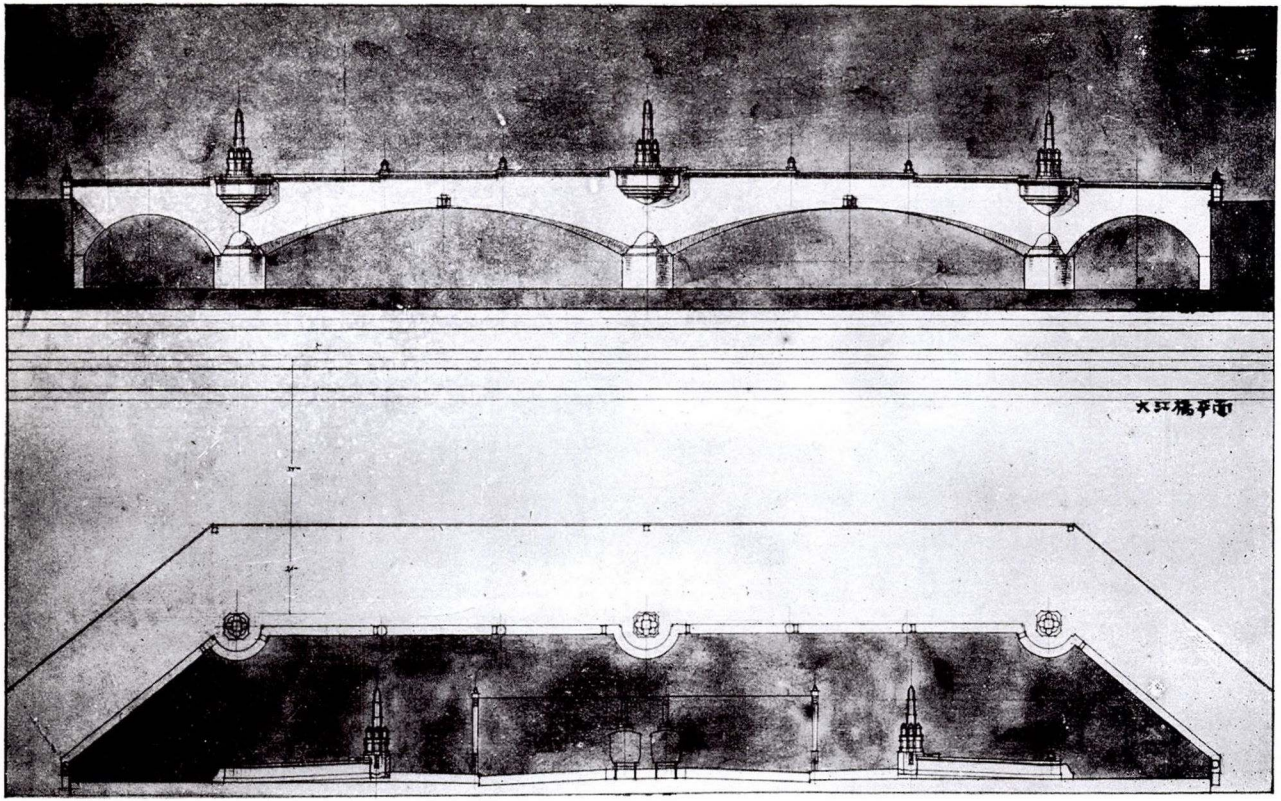


其九　二橋連續の側面及平面圖

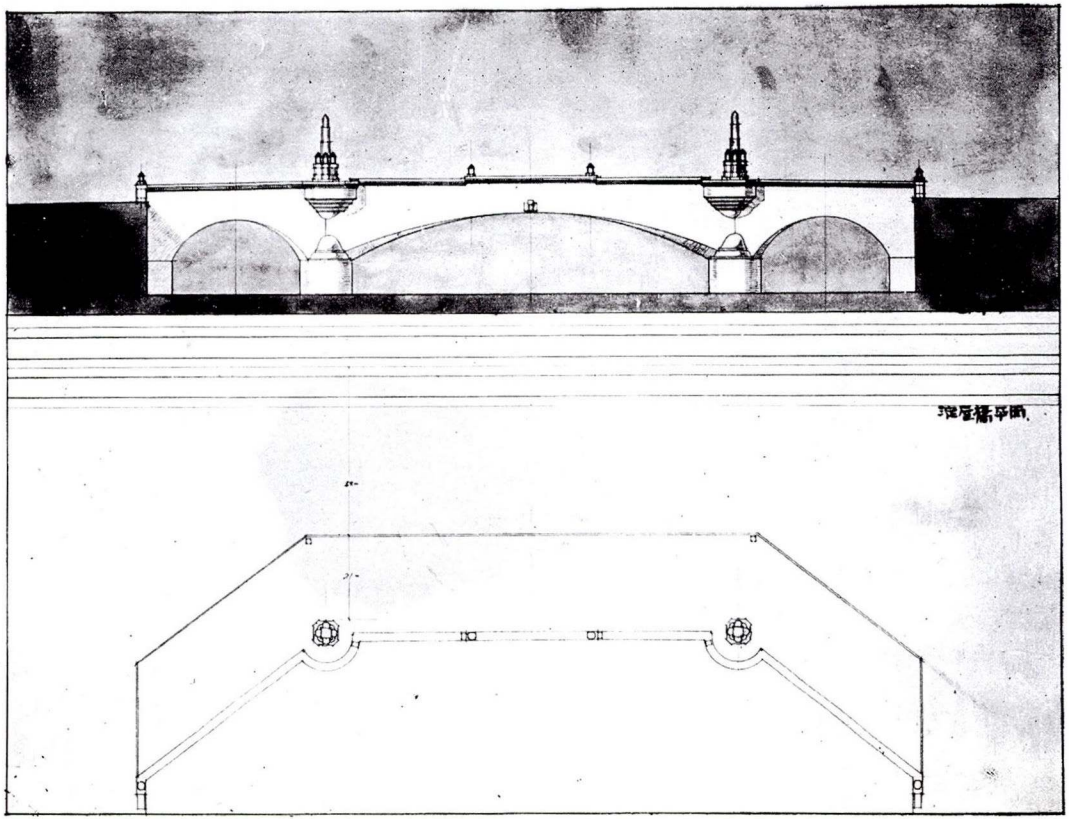




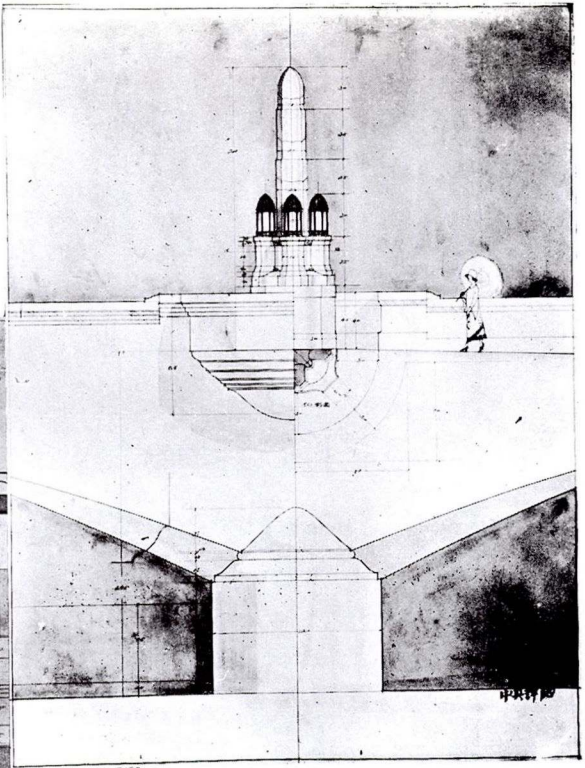
三等當選　大澤　浩氏　　其一　大江橋配景圖



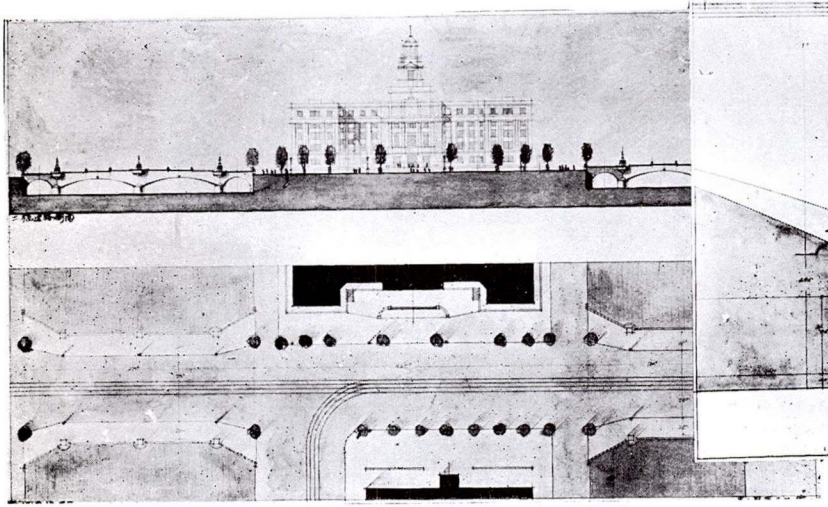
其二　大江橋正面側面及平面圖



其三　淀屋橋側面及平面圖



其四　詳細圖



其五　二橋連續側面及平面圖



生くるとは

呼吸にあらず

爲すの謂なり



營繕事務の統一に就いて

葛野壯一郎

加藤現内閣の高調せる行政整理、國費節約の項目中に、新たに營繕局を設置し、各省の營繕事務を統一するといふ一項が掲げられて居る。要は各省に散在する、現在の營繕課とか建築部と云つたようなものを合一し、務めて剰員剰費を略いて、政府に屬する建築工務の簡捷を謀るに有ると信ずる。無論其れは結構な事で有る。多年吾人も、是非左樣有り度いと希んで居つたところで有る。併し、是れに就て現内閣に果して何んな成案が有るのか、吾人は未だ其詳細を仄聞する機會を持たないので有るから、當局の施設せんとするところに對し　何等所見を述べる譯には行かないが、營繕事務は是を一般行政事務に比べて、全然面目を異にし、是れを一つに取扱ふ事は至難で有る點を先づ注意しなければならぬ。又、各省所管と云へば、是れを中央に於ける主務省直轄の工務にのみ限る譯には行かない、當然曠汎な地方にまで其區域が及ばねばならぬ。是れは非常に廣い範圍となるので有る。また等しく營繕事務と稱しても、其主管の

主務省の如何により、工務の内容に其れ〳〵の相違が有る。是れを經費の上から觀ても、其經常部に屬するものと臨時部に屬するものと、或は又特別會計に屬するものと、一部團費の補助により、主として地方費其他の計算に屬するもの等、各其取扱ひ方が違つてくる。當局は此曠汎にして多種多様なる營繕事務をば、如何なる程度に於て統一し、工務の簡捷と經費の節約を謀らうとするのか。實際問題として困難な點が多々有ることを吾人は認めるので有る。

由來營繕事務なるものは、技術に屬する純然たる工務に外は無いので有つて、法令や規則によつて運用せられる、一般の行政事務とは似ても似附かぬ全然別物で有る。其取扱ふところの事務に、何等特別の法律や命令が有る譯では無く、官營の建築工務を、技師が專門的に處理するに過ぎない。强いて云へば、其工事施行の手續が、國の規定せる一般會計規則に據るだけで有る。決められたる豫算の範圍内に於て、一定の期間内に豫定通りの工事を、完全に仕上げれば其れで宜いので有る。特に政府の事業で有るからと云つて、特別念入りの訓練ある技術家を要する理由は無い。手腕さへある專門家ならば誰れでも出來る。其れが民營であると官營で有ると、工事としては專門的に何等相違は無い。唯民間のものに比べて、豫算を超過したり、工事の期限を誤るといふ類の事が、會計年度の關係上、其手續に稍面倒な結果を及ぼす位で有る。昨日迄民間に在つて仕事をして居た技術家が、今日から官途に就て政府の建築工事に與ることに何の不便も無いと同樣に、昨日まで政府の技師で有つた者も、今日から一民間の技術家として充分に手腕を振ひ得るので有る。其間には何の等差も無い。斯樣な事情から、營繕事務に屬する官吏は、單に政府の名に據つて工事を施行すると言ふだけで有つて、國の行政や軍務に參與する一般官吏とは、其意義に於ても果た其實質に關しても、全然面目を異にする實は政府の一專門的雇傭者に過ぎ無いので有る。

如上の意味に於て、吾人は營繕事務の簡捷並に其經費節約の第一手段として、務めて官營事務の範圍

を縮少し、其大部分を民間技術家に依託の方法を提案したいので有る。其具體案としては別に珍らしい事では無い。其學識經驗に於て、認めて以て政府が相當とする民間技術家の幾許を豫め指定し置き、必要の時期に隨時、工事の内容如何によつて最適任と認めらるるものを撰任し、是れに其工事を依囑すれば宜いので有る。少しの不都合も無ければ面倒も無い、營繕局は是等諸工事の豫算の振當と、設計に必要な工事計畫の第一工程だけを運び、其進行に伴ふ或程度の打合せと監督さえ爲れば足るので有る。多士濟々の感ある民間技術界に在つては、決して當局が其撰任に苦むような事は無い。民間技術家は喜んで政府の指定を受け、名譽ある國の事業に必ず精勵すると信ぜられるので有る。

各省が各營繕機關を分有し其所管の營繕事務を行ふのは、誠に都合の宜い便利な事には相違ないが、是れが爲めに多數の建築家を雇備し、繁閑常無き營繕事務を管掌せしむるが如きは、人物經濟の上より觀ても決して聰明な方法では無いので有る。一面高俸を受けながら徒らに無爲徒食して、唯是れ内職に忙殺せらるるような不都合な技術官も自然出來る筈で有る。技術官の内職と言へば、營繕事務に關する者が比較的多い此事は既に世間周知の事實で、或程度迄は止を得ざるものとして上局も是れを默認するが如きは、誠に沙汰の限りで有る。此は單に官規の上より觀て不都合で有ると云ふ計りで無く、一般技術界より論じても喜ぶ可き現象では無いと信ずる。

陸海軍省所屬のものにして軍機に關聯し、多少の秘密を要するものが若し有るならば、其れは元より除外として宜いので有るが、其れとても、當局の主張する程の重要さは疑はれる。司法省所管の物にして、刑期中にある專門職工を利用して工事を行ふような例が從來見受けられるが、是れとても、施工上の取締方法に多少の事情を異にする位で、其れに民間技術家が參與する事に何の支障も無いのである。

又一般政府の建造物に、一貫せる統一の無いのも、現在の如く營繕事務が、各省思ひ〳〵に分置せられて居る餘弊だと信ずる。其用途如何によりて、内容に輕重異同の有るは勿論の事ながら、政府の建造

物としては常に一貫したる方針により、國家を表現し、其様式構造材料施工等に就て、現代技術界の模範となる可きもので有り度い。然も今日の如く各省區々では、斯の如きは到底望む可からざる事に屬する。近年處々に見受ける某省所屬の建物の如き、徒らに珍奇を衒ひ往々醜惡見るに耐えざるものが有る吾人は當局者の常識を疑ふので有る。斯の如き實例に觀ても、各省營繕事務の統一は甚だ重要にして、其局長に權威ある技術官を配し、大ひに政府の建造物の基準を定め、其統一を謀る可きで有る。官營工務の民間移囑は、或は此主張に悖るが如く憂慮する人も有らんかなれど、そは杞憂に屬し、營繕局の指示宜しきを得ると、撰任其人を誤る事さへなければ、決して左様な心配は要らないので有る。

豫定並に臨時の大少破損にして、所謂修理に屬する類のものは、是亦便宜民間指定の技術家を煩すなり、又は營繕局内に其分擔を設けて、隨時必要に應じて派遣の方法をとれば宜い。簡單な小破修繕の如きは、必ずしも技術家を要せず、各所管の事務屬官で充分間に合ひ、適宜檢査の方法さへ有れば濟むので有る。

入札方法契約其他の手續に就ても、此機會に革正を要する部分は少なくは有るまい。政府の事業で有るからと云つて、何でも彼でも、強いて公入札に附する要も無ければ、請負業者の資格の如きも、單なる形式的の納稅額や、營業年限の如何のみではいけない。名義さへ借受くれば誰れにでも入札が出來るので有る。請負者としては、必ず相當な技術家を雇備するものたる可し等と云つた規定を設けた例等もある。入札の際、最低額を以て落札者とする原則の如きも、不當と認むるものに對して、もつと明瞭な除外例が無ければ取扱ひに困るような場合が起りは爲ないか。請負保證金に就ても、當業者には大ひに議論が有りさうだ。契約の内容に至つては全然片務的で、只命これ從ふと云つたやり方で時代の進運に順應しない事著しいので有る。

從來行はれて居る政府の建築工事に對する、會計檢査官の檢査方法も、是亦此際大ひに考慮す可き問

題だと考へる。何等專門的訓練の無い、云はば文書の上だけの官吏が、專門の建築工事の出來上りを檢査して、釘一本の落ちや、分厘の材料寸法の相異を發きたて、さも得々然たるは實に滑稽で有ると思ふ會計檢査官と云へば一屬僚でも、堂々王者の如き威を以て振舞ふのは更らに沙汰の限りで有る。是れでは技術家の權威も何も有つたものでは無い。營繕事務の統一は權威ある營繕局の新設となり、其工務の大部分を一般技術界に開放して、當局自らが是れを指揮監督するとならば、斯の如く滑稽にして沒常識なる會計檢査を不用たらしむる點に於ても、亦一得策で有ると信ずる。（完）

明日を積み足す

と苦ふく夜寒哉

建築設計に於ける强度計算の報酬規定に就いて

工學士　增田　清

昨年の大震以來世間では耐震耐火と云ふ問題に就て多くの注意を拂ふ樣になつたので、建築の設計施工をする人々も今迄の樣に無關心の調子では最早依賴者注文者の信用を繋ぐ事が困難になつて來つゝある事は事實である。しかし耐火の問題は兎も角、耐震の方法に到つては明瞭に簡單に是れを解決する事は容易ならぬ事であつて、まだまだ專門家の苦心研究に待つべき事であり、我々の樣な駈け出しの口を出すべき事柄ではないが、それ以前に、一般の構造に就ても充分に遺憾なく行はれて居つたかどうかと云ふ事は考へて見る必要のある事ではあるまいか、我々の寡聞を以てしても、隨分粗末な工事の設計や施工が隨所に行はれた樣に考へられる、無論論者とても御多分に洩れない一人であらうけれども、かゝる事態の依つて生ずる原因を考ふるに、矢張一般建築家の無頓着さなり施工者の側の不注意と云ふ事が重大なる因子をなすものと云ふても敢て失當の事ではあるまいと信ずる。

昨年の大災は凡ての方面に於てかゝる問題の總決算をしたもので、當時幸に何の影響をも苦痛をも感じなかつた人々と雖も、將來は最早冷淡の態度をとりうべきではあるまい。

かゝる問題を如何に改善すべきかと云ふ事は中々容易ならぬ事ではあるが、その對策としては先第一に官の免狀を與へて少くとも構造の方面に就てはかの電氣の技術家の如く適當に級を制定して、無暗な構造の行はるゝのを防ぎ、施工者の方面や監督者の方も之樣に無資格の人を制限して過失や浪費を防止

する事を初めたい。これに就ては種々議論のある事であるが、他日に譲る事とする。

第二には構造方面の智識の普及を計る事である、我が建築協會が數年にわたつて行つた講習會の如き此の意味に於て實に機宜に適した美擧であつたと云ふべきであるが、以上の二方法共現在の狀態に於ては急に間に合ひ難い憾がある。そこで止むを得ず、出來る丈信用の出來る人に構造の方面を依頼すると云ふ樣な事が必要となる、即、かの醫藥分離と云ふ樣な問題に類した事が起るのである、在來も一流の設計事務所又は施工者側には夫々學識のある人が居つたが、その然らざるものは或は構造の方面をその專門の人に相談をするとか、或は材料を販賣する商人會社等に依託して材料の購入を約して、その援助の許に計算の方面を引き受けて貰ふ事が多かつた。前者は兎も角、後者に至つては實際に於て營利本位であつて材料の販賣が主で計算製圖は云はゞ附けたりであるから、迚も充分の責任は盡しにくいと云ふのが實狀であつた樣に思はれる。聞く所に依ると米國に於ては材料販賣業者は材料を買つて貰ふと否とに關せず、材料の一噸當りについて（鐵筋でも鐵骨でも）五弗と云ふ報酬を受けると云ふ事であるが、此の制度は次の如き弊害を伴ひはしまいか、商人が假りに確かに材料を買つて貰へると云ふ事になれば賣り付ける噸數を幾分多くする事は、自然に多くの收入を齎らす事となるから、たとへ計算製圖の報酬の增加は大したものでないとしても、起り易い事と考へられる、又工事の小さいときは明らかに此の率では實際に設計計算の費用をも償ふに足らぬからして販賣材料にその不足を加算するであらうし、工事が大きい時には計算の報酬が相當以上の金額に上るかも知れぬ、又反對に一時に多くの商人に依頼して構造なり計算なりに附隨して材料の納入をもして貰ふ時には競爭の結果、材料を割合に經濟に使用する爲めに強度の計算に不滿足の點が出ないとは云へぬ、然らざるも緣邊をたゞつて情實運動をし勝ちになりはしまいか、更にその競爭者が販賣する材料の品質が異るときには此の判定を如何なる標準にあつて行ふべきか、設計の優良なるものをとると云ふ事は當事者がその方面に堪能な人であつて姓めて可能な

事で、構造計算をたゞ人手が足らぬ爲めに外へ依頼したと云ふ樣な時には行はれるであらうけれども、若し然らざる時には充分その判定が確かであるかどうかは見極めが付き難い事と思はれる。又右樣の報酬を假りに取らないとすると其の報酬は當然その材料の代價の中に含まれて居る筈であつて、構造計算に練達堪能なる士が居られる事務所又は施工者が時とすると右の樣な方法に依るのは多く經濟關係で手間のかゝる計算事務をやらぬと云ふ事は設計者にとつては常に最も樂な方法で經費もかけずにすむからして多く行はれる事と考へられるが、かゝる方法では獨占すれば材料の浪費を生じやすく、依頼者には不親切となり、競爭すれば、節約の結果、强度の計算に遺憾な點が生じ時として大事になりやすい、現に昨年の震災も一部には、こうしたやり方の不滿足な點を如實に現はしたと思はれる。從つて充分の責任をもつたものが、此の方法で得られるか何うか氣づかはしい、此の代りとしては勢材料の販賣業者たらざる、構造方面の專門家に依頼するのが依頼者たる設計者又は施工者としては眞に責任を重んずる方法で比較的難のない事であらうと思ふが、只さうなると報酬を誰が拂ふかその率は如何と云ふ事が當然問題になる。

論者の少し許りの經驗をもつてしても計算と云ふものと失れに隨つて起る製圖又は計算書作製と云ふ事は時として全設計の三分の二以上の手數を要し　構造計算なり、その製圖なりが出來れば夫れが即設計であると云ふ事も稀ではない、而してかゝる事は經濟的な（意匠に多く骨を折るべき所謂美術的建築とは反對の場合）實用的な建築に於て特に然るを見るのである。此場合或は論者を目してそれは我田引水的なと云はれる人もあらうが論者は決して構造偏重論の隨喜者ではないので、構造即建築なりなどと云ふのでは無論ないが、事實は構造が直ちに建築なる場合の方が百中九十を占めるものと信ずる、隨つてかゝる場合にはプランを作るにしろ建圖を考へるにしろ、一々構造と云ふものを念頭に置かなければ充分とは云へないが早い話が柱の位置なり、梁のかゝり具合なりが、どこでもよいと云ふ譯には成りが

たいと思はれる、特に不規則な形の敷地とが特殊の注文のある場合とか、徑間の大なるものとかでは、構造は即建築であつて到底二者を區別して設計しうべきではない、が實際問題としては此の二者を分離して考へざるを得ない事が起る、例へば設計者が構造の方面に深く通曉せぬ人であるとか、或は嫌であるとか、或は一々計算をする人を雇つて居れぬとか、仕事が輻湊して一寸手を下して居れぬとか、或は經濟上の理由であるとか、と云ふ事である、かゝる場合には止むを得ず原案の設計者と構造方面の擔任者とが充分なる協議をして右の様な不便不都合を最小限度に止める様にしなければならない。

此の様な分擔を事實に行ふ場合には、如何なる報酬の分配をすべきであらうか、原案の作製者が請負者である場合には費用と云ふものは大抵前述の場合と同じく、改めて設計の依頼者が支出せず、多く工事費の中に含まれた形になつて居ることが多いから特に問題とはならず、相互の諒解丈で形がつくであらうが、原案を建築家が作つた時にはその中の幾分を構造方面に分配する形式にならう。茲で考ふべきは此の場合の原設計者の報酬率である、此の率は建築士會あたりで制定されて居る率を嚴密に遵奉して居れば、その幾分を分けると云ふ事も比較的行ひ易いが、その率が協定以下に少くなつて居る時はそれを又分配すると云ふ様な事は頗る難事である、と云つて一定の設計報酬を貰ふた上に更に計算の費用を施主が負擔すると云ふ事は特殊の事情のない限り行はるべきでない。全體建築士會の報酬率なるものも忌憚なく云へば餘り合理的とは思はれないが、その議論は問題外であるから暫らく現行の狀態を是認するとして、構造の方の報酬率はどんな率が適當であるか丈を述べる。

第一、構造計算と云ふものは先にも云つた如く建物の大小に係はらず頗る手數を要すると云ふ事を私は云ひたい。特に最近の如く耐震などと云ふ事を叮嚀にやり出すと到底在來の如き計算方法では滿足して貰へないと云ふ事は多少此の方面に首を突つ込んだ人の直ぐ承認する所と信ずる。

第二、建物の種類によりて一様でない、普通の學校の如き、餘り特別の好みのない限り或る範圍内で

劃一的なものと一々スパンも何も異る建物とは一樣な率には出來ぬ。

第三、『プラン』によりて頗る差がある、例へば一樣に柱の建つものと『プラン』の凹凸が激しいものとは同一にならぬ。

第四、床の荷重の頗る大なるものは特別な考慮を要する。

第五、建築の場所即地質等によりて難易の差がある。

第六、建物が實用向きであるか、美術的なものであるかによりて異る。

第七、徑間の小なるものと大なるものでは又大變差を生ずる。

第八、汽温變化の大きいもの、長さの長いもの化學的な作用をうけるもの等も到底簡單には行きにくい。

第九、建物の高いもの、或は水壓の大きいもの、風壓をうくるもの等も特別なる考慮を要する、以上の樣な事を考へた後に初めに戻つて、普通の平凡な即特別の注文のない場合には如何にすべきかといふことになる、私は先實用的な建物で設計は即計算であると云ふ樣な場合には此の率を五〇—五〇とするのが適當であると信ずる、是れは好い加減な計算方法でなしに充分責任を持つ以上は當然に受くべき率であると思ふ。次に建物の種類により、同一の條件が屢繰り返さるゝものには此の率は同樣としても、原設計者が依頼者より受くる率が必然的に少ない事が多いから同樣に構造の方の擔當者も制限をうけて其の率が正比例して下るのは當然であらう。次に第三—第九迄の原因によりて、構造に主力を費すべき時には原設計者が三〇とし構造方面の擔任者は七〇位となるべく反對に美術的な建築で計算も大事だが意匠に多大の苦心をする場合には此の率を七〇—三〇とすべきか、と思ふのである。

別案として、右の樣な面倒な考へを止めて單に建物の一坪當り二圓五十錢と云ふ樣な報酬を受ける人

もあるやにきくが、一率に同様な報酬率で行くのはどうであらうか、どうせ大きい物を建てる人は夫れ相當の負擔能力のある人々だから心配はいらぬ、或は夫れ丈支出させるのは當然だと云ふ人もあらうが建築家の本來の使命が、單に設計をする、或は少し大袈裟だが、不朽の名聲をのこす樣な建築をする事にあつて、報酬は當然それに伴ふものであるからかゝる事を考へる必要はないと云はれるかも知れんが一般民衆の利益の爲めにやると云ふ事を建築本來の生命と解釋すると同樣の態度即一率一樣と云ふのは噸當り何がしと云ふ式と餘り差のない不合理な方法の樣にも思はれる。

私は、もう少し具體的に例を擧げて報酬率の本質なり根柢なり、或はその決定の仕方を論じたいと思ふのであるが、まだ充分の自信を以てかくあるべしと云ふ樣な案を提出するのには力も經驗も足らぬ事を痛感する。只、こんな事は原則として云つてよいと思ふ。

即構造方面の擔任者は、一、施主の利益を常に念頭に置くこと、二、原設計者の案を出來る丈尊重し且その利益を傷けざるのみならず、その營業上の秘密を嚴守する事、三、構造の事については相當の自信ある可き事。

右の樣な事柄を守れば報酬率等の件は或は特に議論をせずとも案外易々として行はれるかも知れぬと思ふのである。

（附記　斯の一篇は特に協會の依囑の下に勿々の間に草したもので充分とは云ひがたい、自分の立場としては寧ろ論を避けた方が無事であると思ふが、止むを得ず先第一石を投じたものである。）

×　×　×



建築設計と希臘建築に於ける對稱及均勢の『ハンビツヂ』氏法則……（二）

伊藤正文

上圖の様な他の矩形と云ふのは、前に述べた様なエンドを有し後者の矩形の對角線をサイドとする矩形、サイドがエンドの二倍の矩形、サイドがエンドを邊とする正方形の二倍の矩形の對角線に等しき矩形等である。それ等面積を決定し表示するのには二つの方法が示されると云ふことがわかる。

第一、直線測定法と算術による現在に一般に行はれてゐる方法。

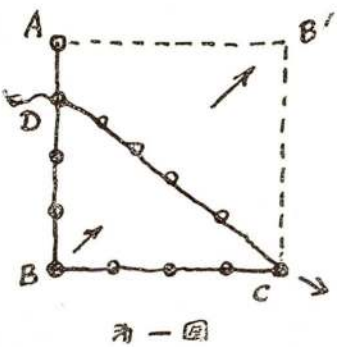
第二、希臘で行はれてゐたもの即ち短形の一端に作つた正方形の大さに短形の大さを比較する方法、即ち全く面積による測量法、その方法は性質に於ては算術的で幾何學的である。

又矩形の二つの型が面積で測り得られることが明になる。二つの型とは、根本的に異る性質のもので第一の型は面積が整數で割り切れ正方形から成立つてゐる。その幅と長さは同單位で約せられる。第二の型はエンドとサイドの割合が通約出來

ない。しかし互に一定の關係はある。

例へば先づ第一の例に於て一〇の平方は一〇〇だ、しかるに一四、一四二の平方は二〇〇に等しい。即ちエンドの上の平方とサイドの上の平方との比は一對二である。故にエンドとサイドは平方に於て通約出來る。前述の此型の他の矩形もエンドとサイドは次のプロポーションに於て通約される。一對三、一對四、一對五等此等の矩形のサイドとエンドが平方に於て通約されると云ふ事は希臘のデザインに對して重要な意義を持つハンビッヂ氏の研究の結果によつて、希臘の建築家は全く後者の型の矩形以外の矩形は用ひなかつた事が明かになつたわけである。希臘人の論理的な心に對して此等の矩形は上述の理由によつて確實性を持つた事となる。機會の毎に、彼等はプロポーションの研究に貢獻する所があつた、幾何學的方法以外の方法では當時プロポーションの知識を如何にして實現するかは困難であつた故に、此等の矩形及直角三角形は研究に無制限の機會を與へた。

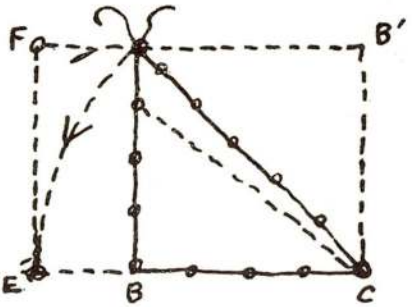
そして充分に了解された比例關係は現存する記錄によつて充分證明される。故に吾人はクラシク時代の總ての希臘の作品に於てプロポーション關係が幾何的であると云ふことを見出す樣に期待せなければならない。此等の矩形が有する相互關係及測量の方法の簡單さとはロープの方法又は三四五の各邊を有する置角三角形の知識によつて示される。此事はずつと古から知られてゐた事實である。從て次の樣に考へて見る。ロープがある材料で被覆されてゐて、充分注意して目盛を施されてある定つた間隔に環を嵌めそれに釘が插せる樣に準備する。



第一圖

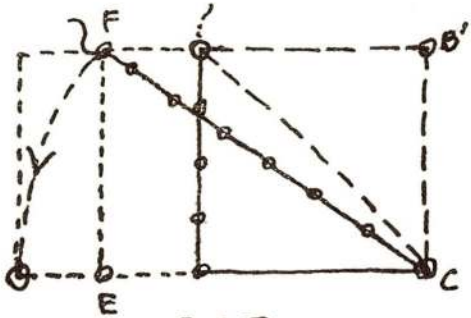
正方形は次の樣にして作り出されるであらう。第一、A點の環に杭を打つ、A點から四つの單位をはかつて　點に於てロープを緊張して又一つの杭を打つ、Bから九單位の位置即九つ目の環を、

BからAへ三單位目即D點の環に重ねて杭を打つそこでBDの間に緊張されてゐない九ッ單位のループがあるわけだ、Bから四番目即Dから五ッ目の環を持つて兩部を緊張せしめCの環に杭を打つそこで角Bは直角となりBACに於て正方形を作るべき三點を得た第四の點を得る爲にABCを固定しB及Dに於てロープをゆるめて環Bを B′まで對角線をなす樣に引く線が緊張したらばB′に杭を打ち正方形の第四の隅が定められる。之は說明するよりも簡單に試みられる一つの運用の例であらう。



第二圖

正方形が出來てその對角線を長さとする矩形を作りたいとするならば、そのC點を個定する、そしてDに於てフリーエンドとする。ロープを緊張しCを中心とし、CAを半徑としてCE線の位置まで廻轉する。同樣の操作によつてB′點を中心として殘りの隅卽ちFを得られる。卽ち今エンドが正方形のサイドであり、サイドが正方形の對角線である樣な矩形を得た。

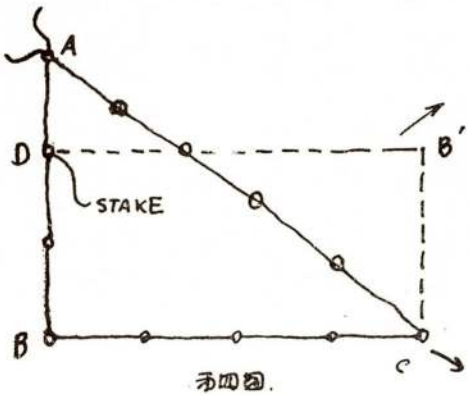


第三圖

次に長さが之より更に長い矩形を得たいとする此はロープをCからFへ延しそれを廻轉し且つCを中心として同じ操作を爲す事によつて作られる。

二つの正方形より成る大矩形は今述べた矩形の對角線を廻轉するか又は一つの正方形を作る同樣の操作をなすことによつて出來る。

それに就て圖解の調べを示さう。

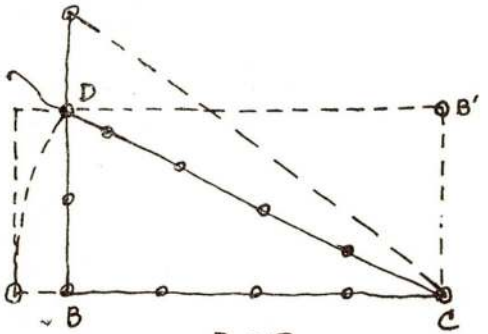


第四圖.

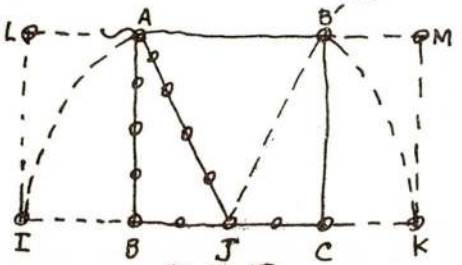
更に大きな矩形がCを中心としDDを半徑として、フリーエンドを廻轉し且つBを中心として同じ操作をくり返して得られ、或は一つの正方形を作り、その正方形のサイドの中心を中心としてJA又はJB'を半徑としてロープをJK又はJIまで廻轉する。この後の操作により吾人は又矩形ABKMを得る。

次の矩形は極めて自然に簡單に作られる。

此各場合に正方形のサイドが矩形のエンドであるとして考へると、矩形のサイドは、次の如くなる。



第五圖.

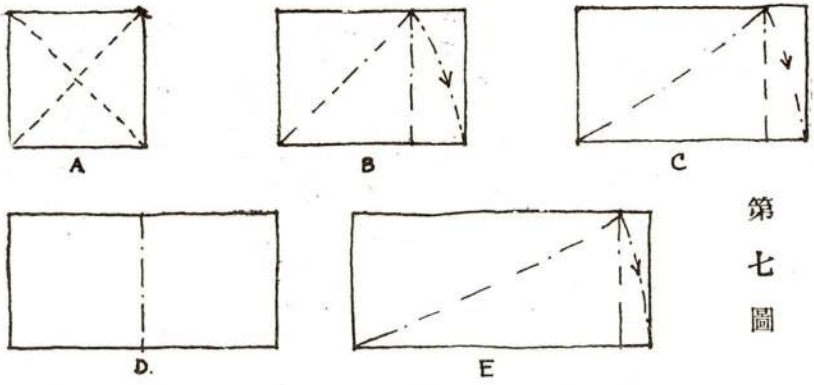


第六圖

Aの場合に於ては正方形のサイドであるから全形は正方形であり、Bの場合は正方形對角線である。Cの場合はBの矩形の對角線Dの場合は二つの正方形の幅即ち二つの正方形の對角線、Fの時には正方形のサイドの二分の一に半正方形の對角線の長を加へたものとなる。

此等の矩形を作つて、希臘のデザインのハンビッヂセオリーが更に容易に理解出來る筈である。

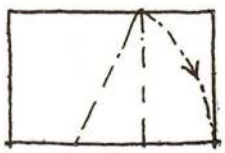
此セオリーは次の樣に云ふ事が出來



第七圖

る。

クラシック希臘のデザインは應用幾何學の方法によつて關係づけられてゐた。しかし只一定の面積が用ひられ、その性質が充分理解されてゐた。その面積即ちデザインの基本を形成する矩形は今茲に作られた矩形である。即ちA、B、C、D、E及Fの矩形である後者の二つの矩形は"Bassae"に於ける神殿としてエレクチウムとパルテノンの樣な傑作に用ひられたるプロポーションを生み出した。疑ふべくもなく此が彼等の案の手法として使はれた自然の結果である而してハンビッヂ氏の仕事の注意深い研究から希臘人によつて得られた此結果に就ては明確となつたわけである。或る矩形の大さを決定すべき根本の操作は矩形を正方形に照らし合せる方法によつてゐることがわかつた之は



"The application of area"と稱せられてゐる處の希臘人の認識の簡單な例である此方法は或る與へられた面積を知る爲に其面積の中の正方形を見る以外にも、他の面積に一層適用出來る。而して其各比例部分はデザインの要素として用ひられる。それでは希臘人の認識力は吾人のそれとどれ程異るか、又どれ程自然にそんな認識をもつてゐたものだろう、と云ふ事が今よく理解出來る。第一は希臘の測量法が實際に於て實際的幾何學を應用したものだと云

ふ事そして又希臘人はそう云ふ考方であつたと云ふ事である。第二にはプロポーションの問題が研究されて幾何學的方法によつて理解されたことだ從て少くとも神殿のプランは幾何學的方法によつて作られたのであらう。ロープが引延されて我々の所謂アウトラインとなつた論理的な希臘人の心に對してそは自然であり又同法をエレヴエーションやストラクチユアのデイテイルに應用することも當然と見られるのである。それがハンビツヂ氏の發見によつて明に示され、活用出來る樣になつた此發見で此事實をあばいた結果或比例がそれのプランの中にあるとして見られ、又同じ比例が全ストラクチユア、プラン、エレヴエション、及デイテイルの中に存在することが明にされた。

例へばパルテノンに於てはプロポーションの割合が次の矩形の個有の性質に存在した。

そのサイドはそのエンドの上の二つの正方形の對角線であり、正方形は此矩形の一つのコンポヂント、パートである。——此等の比例を出す爲には希臘の建築家は此等の方法に就ては先覺であつたことは間違ない。

第一にあるデザインの根本を形造る爲に、ある矩形を選定する、即パルテノンのデザインの根本を作る矩形の樣に、例へば一つの正方形と長邊がエンドの上の二つの正方形の對角線である樣な矩形とから形成された矩形を得、それから只此矩形の論理的のコンポヂントパートを用ひて全コンポジションを作る。

最初希望のデイメンションを決定する爲に此方法による、此デイメンションはアーキトレーヴの長さとなる即ちテイビカル、コラム、センタアダイメンションとなる。多分構造の意味から見ると柱の中心がセレクトされ、そして希望の柱數からその近似の長さと幅が決定されたものであらう。どんな場合でもデザインの根本となる矩形を造ることが第一であつた。此矩形が出來、プラン、エレヴエション、同樣にデイテイルまで同じ論理的な幾何學的な、矩形の小區分によつて作られる。そこで、希臘設計の下に流れる觀念はデザインのコンポーネントパートが互に幾何學的理論によつ

てゐることの認識であつた、そして全體のコンポジションは定まつた面積の條件の許にあつた。

それに伴ふ圖解は此思想を說明し、その可能性のあるものを暗示する爲の容易い方法に用ひられる。此說明の根本としてサイドがエンドの上の二つの正方形の對角線に等しい矩形を選んだ。

こゝに矩形『A』『B』『C』『D』が第一に作られるその他の部分は、その對角が原矩形の對角線に並行か垂直かである形、即エンド又はサイドが此等の對角線の交叉によつて決せられる所の形を用ふる簡單な方法で得られるのである。（終）

白菊を

挿して

一間に安きかな

歐米の都市計畫法制

田中清志

近來本誌から都市計畫に關する記事が影をひそめつゝあることは私達直接關係者に取つて心細いこと夥しい。止むなく樂屋から空元氣でも付ける意味で本稿を草する。

（一九二四、九、二二）

序言

都市計畫に關する綜合的法令を最も早く制定したのは伊太利で實に一八六五年の發布に係る、次いで一八七四年瑞典に、一八七五年普魯西に施行せられ、かくて和蘭、墺太利、瑞西、英吉利、佛蘭西、亞米利加等相衝いで各々國家的立法若くは州の條例を以て、之が規定を見るに至つた。

瑞西都市計畫法は一八七四年勅令を以て公布せられ、法律の實質を有する市街地建築法及び、一九〇七年民事令の性質を以て發布せられた市區計畫法とより成るが、其目的とする所は都市の建築及び計畫をして、交通、保健、美觀、防火上の要求に適合せしむるにあり、市區計畫法は之か執行上の都市私人間に於ける法律上の交涉を規定せるもので、一九一〇年改正を加へられ、一九一七年に至つて都市土地造成法中の一部に包括せられ今日新市街地の開發と及既存市街地の改造に適用せられて居る。

等しく都市計畫とは言ひながら、其國情、要求等の異れるに伴つて其立法的內容に幾多の相違を有するは自然の勢である。以下各國に就いて之に一瞥を與へ其大竟を察知せう。

英吉利の住居及都市計畫法

英吉利に於ては產業革命後、新舊都市大膨脹の時代、即ち都市計畫の最も必要なりし時代何等の統一ある法制を有せず、亂雜にして無秩序なる自

然の膨脹に放任せられたる結果、現代民は之が改善の大遺債を負ひて、其辨濟に苦しんで居たのである、其苦き體驗は都市住宅の改良と共に、將來の爲めの都市計畫確立の急務なることが一般に認識せられ、遂に輓近之に關する法令の制定を見るに至つたのである。

然し過去の産物たる劣惡狀態の改良を目的とする部分的法令としては、一八四八年サウスウッドスミス(Sauthwood Smith)の提案に依りて成れる公共保健法(Public Health Act.)があり、又一八五一年シャフツバリー卿の發案によりて所謂シャフツバリー條例(Shaftesbury's Act.)が制定せられ、一八六八年トーレン(Torren)に依りて不衞生家屋の整理に關する法律の發布を見、更に一八七二年クロス(Cross)の努力によりて、不衞生地區の整理に關する法令が公布せられ等、其主要なるものゝみでも尙二十九の發令を有するのである。

此種の法律は一八九〇年に至りて統合整理せられ、所謂一八九〇年の勞働者階級住居法(Housing of the Working Classes Act. 1890)なる一大法典を形成するに至つた、此法律は三類七篇百〇三條よりなり、第一類はクロス・アクトの不衞生地區の整理に關する規定にして、第二類はトーレンス・アクトの不衞生家屋の整理に關する規定、第三類がシャフツバリース・アクトの勞働者に對して新らしき家屋を供給する條文を以て構成されて居る、これは其後多少の修正を加へられたが、住宅改良に關する現行法として、最も重要なる役目を爲すものである。

其後一九〇九年に至り、これらに尙幾多の修正を加へ、更に都市計畫を包含せる、住居及都市計畫法(Housing, Town Planning etc. Act. 1909)の發布により、住居法制上の一新紀元を劃すと同時に、綜合的都市計畫に第一歩を投じたのである

此法令は四編七十六條を以て成り、第一編は勞働者階級の住宅に關する規定で、これが更に九節に分類せられ、第二編を都市計畫の規定第三編を州醫員、州公共保健及住居委員其他に關する規定とし、第四編は補則に充てられて居る。

此法律も亦時代の推移により、一九一九年に至

りて、更に一層徹底させる爲め幾多の修正がなされて、一九一九年の住居及都市計畫法（Housing Town Planning etc. Act. 1919）四編五十二條と成つたのである。同時に大同小異の蘇格蘭住居及都市計畫法が制定せられ、何れも一切の市町村に適用せられるのみならず、保健大臣必要と認むる時は其公共團體に對し、其都市計畫の決定を命ずることが出來ると共に、人口二萬以上を有する市町村は一九二三年一月一日（後之を一九二九年一月一日に延期）迄に都市計畫案を保健省に提出するの義務を負はして居る。

要するに英吉利の都市計畫は、住居問題と離るべからざる關係に在るのである。

佛蘭西の都市計畫法

佛蘭西は最近に至るまで、一八九四年の制定に係る『安價作宅法』以外には、統一ある都市計畫の法制を有せなかつたが、首都巴里及里昂の兩市には特利市制が施行せられて居り、特に巴里の如きは都市行政中警察權を除く以外は、セーヌ縣知事同時に巴里市長として之に凡ての權限が附與せられて居る爲め、其都市計畫に就いても亦都市自ら必要なる條例を制定して、之を敢行し來つたのである、卽ち超過收用制度の如きは甚尤なるもので、一九六〇年ホツスマン（Baron Georges Engene Haussman）がナポレオン三世（Napoleon III）の下に、ルイ十四世（Louis XIV）の壯圖を現實ならしむるに當り、此制度を採用せるものにして、後英吉利、白耳義、瑞西、伊太利、亞米利加等の諸國も亦之に倣ふに至つた。

然るに一九一九年に至り、英吉利の立法を基調とする都市計畫の獨立法系の發布を見るに及んで現に發展途上にある諸都市に對し、健全なる發達を助長すべき都市計畫の實行を普ねく遺憾し得るに至つたのである。

法文は僅々十條より成るものであるが、都市計畫に關する凡ゆる規定を爲し、人口一萬以上の都市の全部セーヌ縣町村の全部、人口增加率十年間に一割を超ゆる町村、保養地、溫泉地、海水浴場等人口增加率大なる町村、史蹟名勝地たる町村竝

田園都市及一團地の作宅經營地に對し適用せられ而して人口一萬以上の都市は一九一九年より三年以内に都市計畫案を作製すべき義務を命じて居る

獨逸の都市計畫法制

獨逸に於ては既に一八七五年、獨逸都市をして今日あらしめて居る所謂『普魯西建築線法』が發布せられて、交通、衛生及防火の爲めに、街路、建築線、區劃、下水道其他の問題を、決定する權能を地方自治團體に附與せられて居る、これは自治政の整頓が都市の改善に猛進したもので、即ち市街地の開發を導くべき道路なき所には建築物を建築し得ざらしめ、道路の境界線を以て建築線とし建築線設定に關する權能を自治體に附與せば當然秩序ある都市を構成し得べしと言ふ主旨に出たもので僅か二十ケ條の極く短い法律であるが其内容の重大にして、規律する所の廣汎なること、比類稀れなる都市建設の大憲章(Magua Charta Libertatus)と言ふべきものである。一九一八年三月住宅法の規定によつて一部改正されたが、法の根本思想は毫も動かされては居ないのである。

彼の土地政策の徹底を期すべく、一九〇二年當時のフランクフルト・アム・マイン市長アヂケス(Adickes)によつて制定せられ、後他の都市にも適用して一九一三年に至り遂に國法となり、而して今日世界に於ける區劃整理の根元をなす所謂『アヂケス法』の施行も亦其第十四條の二に規定せられて居る。

別に獨逸では、都市無限の膨脹は、都市自治行政範圍内の計畫施設のみにては、よく健全なる發達を期し得られずとして、盛に市町村の組合組織を奬勵し、都市計畫の完全なる遂行を期する爲め都市と其接續町村の間に一部事務の組合組織の途を開き、一九一一年大伯林一部事務組合法が制定せられたが、尚現代都市として要求を滿し得ずとして一九二〇年更に其區域を擴大して、新伯林都市法五十九ケ條を發布施行するに至つた。

亞米利加の都市計畫法制

自由と自治を標榜する米大陸は、都市計畫に關

しても統一ある國法と稱すべきものを有せず、各聯邦に於て之を制定し、夫々の異れる情勢と要望に立脚して、等しき標的に只管その凡ゆる勢力を傾注しつゝある。

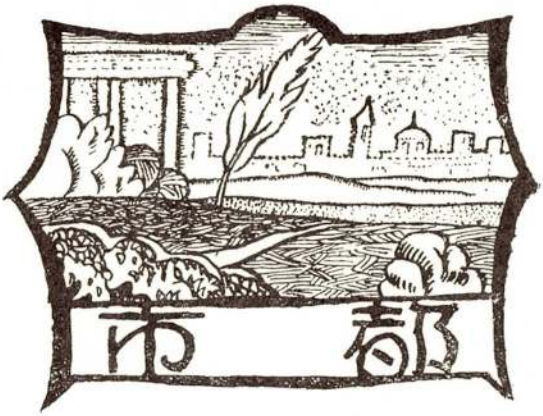
然し之が綜合的法令の公布は、極く最近の事に屬し、其濫觴とも見るべきはペンシイルバニア州の都市計畫法にして、一八九一年公布のペンシイルバニア州一般都市計畫法（The Pensylvania General Plan Act. 1891）一九一三年發布のペンシイルバニア州三級都市の計畫法（The Pensylvania Plan Act. for Third Class, 1913）及ペンシイルバニア州首都郊外計畫法(The Pensylvania Suburban Metropolitan Planning Act. 1913）の三法令より成り、一九一九年これらを統率する爲め、都市計畫局條例(The Pensylvania State Planning Bureau Act. 1919)の發布に依つて法の完全なる行使を期するに至つた。

紐育州の都市及町村計畫法（The New York City and Village Planning Law. 1913）も亦一九一三年の發布に係り續いて一九一五年にはニユジヤーシー州都市計畫及美術委員會條例（The New Jersey Municipal Plan and Art Commission Act. 1915）カリフォルニア州首都計畫法(The California Capital City Planning Law, 1915）の公布を見、一九一八年にはニュージャーシー州地方計畫條例(The New Jersey Country Planning Act. 1918）一九一九年にはミネソタ州の計畫法（The Minesota Planning Law, 1919）が發布せられ、逐次各聯邦に普及しつゝあるのである。

然し別に都市計畫を策進するための超過收用又は地帶收用(Excessana Zone Condemnation)に關する法令、或は現時亞米利加都市計畫の大眼目とせられて居る、地域制(Zoning)に關する規定等は別に獨立の法系を有しで居るが茲にはこれを省略する。

本稿に引用した書籍の主なるものを參考の爲め左に揭げる。

一、都市計畫及住居問題に關する英獨佛の立法例
二、都市計畫に關する獨逸法制及行政
三、受益者負擔に關する外國法制及實際
四、Williams, The Law of City Planning and Zoning



大阪市及接續町村に於ける衛生地區の乳兒死亡に及ぼす影響に就ての一考察（二）

楠原祖一郎

五、非衛生地區に於けるその狀態に對する私見

凡そ素人の見た所謂非衛生地區なるものは、家屋の狹少にして、然かも亂雜に建設されたる狀態を指稱するのであるが、然し凡そ其の云はむとする所は首肯し得るが、此の言ひ方は妥當であると見る事が出來ない。何んとなれば、家屋が狹少であつても、よし家屋の軒並が亂雜に流れてゐても、それが通風採光、音響、排水、空間等に就き意を用ひてあれば、それがよし九尺二間の家並であるとしても、一概に非衛生地區と稱する事が出來ぬからである反之家屋の外形が堂々としてゐても、採光が、通風が、排水の裝置が、騷音の防止が、非科學的に建設されたものであるとすれば、それを以て衛生上優良なる家屋と見る事も出來なければ、かゝる家屋の棟を連ねてゐる地區の如きを決して衛生地區と稱する事が出來ぬのである。然し素人目には家屋の外形が堂々として居ると云ふ事によつて、或は立派に衛生地區と見るかも知れないが、今日一例を擧げて云へば、大阪市內所在に發見する所謂舊家なるものに對して、如何なる人と雖も之れを衛生上優良なる條件を備へてゐる家屋と見るこ

とが出來るであらうか。私は決してかゝる家屋を以て優良なるものと考へ得ない。隨つてかゝる家屋の並むでゐる市内の舊船場島の内なる地區を一概に衛生地區として數へんとするは早計である。只だ之を衛生地區として指定し得るは比較的生計が高級であるのと、そして一家屋内に居住する人間を圍繞するに相當の空間を以つてしてゐるから市周圍部の如き個所より優良であり、又優良とされてゐるのである。その家屋の構造の如き、一度其の家屋に其の足を入れたるものあらば、直ちに想起し得るであらう如く、只だ頑丈に構へられてゐると云ふ特級以外に、採光の點では殆んど顧みられず、通風亦然りであるが、今日の新樣式の家屋の構造から見れば、前者は陰鬱にして鈍重であり、後者は直ちに清明を豫想し得る。然し乍ら、此の清明であるべき筈の新樣式家屋が多樣に建設されてゐる所謂郊外住宅、又は市の内外に於ける即ち周圍部のそれの如き、一夜作りの建賣り主義の家屋なるが故に、外形は相當立派に見へても、内容の構造は數年の命を持ち得るや否や、それさへ危ぶまれる程のものであるに至つては、そゞろ數年後の貧民窟又は不衛生地區となり終るべきを豫想せざるを得ぬ。

而して此の狀態は直ちに人の生命に其の影響を及ぼすものである。一見不可思議に思ふ人もあらうが、決して不可思議なるものではない。亂雜なる生活は直ちに家屋そのものを不潔亂雜ならしめ隨つて生活上衛生的觀察が益々稀薄となり、果ては私共生活の最大なる注意を要すべき飮食より、終いには何等の考慮をも用ひられず、只だ家は雨露を防ぎ、飮食は饑渴を滿すに足るに過ぎざる、その間に何等の文化的要素をも發見するを得ざるに至るのである。而して其の當然の結果として、榮養不良が齎らされ、母體の常體を損傷し、爲めに其の分秘する母乳にて哺育する乳兒に、直接惡影響を及ぼして遂いに死亡又は疾病を生ぜしむるに至る。是れは家屋の形の上からの觀察であるが又生活上の形式から見て如何なる議論が生ずるか私の考へる所を次に述べて見たい。

凡そ一家屋に一家族が住むと云ふ事は、日本の

家族制度の原則であり、從つて日本の家屋の建築樣式は是の原則に從つて建てられて居るものであるから、形の上から見れば一家屋内に一家族が住むことになつて居る。然し乍ら現實の事實として大都市に集中せる家庭樣式は、在來の此の原則を守る事能はずして、遂いに家族にあらざるものを自己の住居の内に收容して之と共に同一家屋内にて生活すると云ふ、狀態を呈してゐるのは十中二三は其の例に洩れないのである。歐米都市の如く小額收入者又は獨身者の便益の爲めにアッパートメントの建設されて居る都市では、一棟の建物に多數の家族が共同居住してゐるの狀態が、誰れが見ても決して不思議とする所ではないが、日本の建物に見る樣うに、建物それ自身が極めて消極的であり、他人の入門をして憚らしむる樣うに出來てゐる家屋の構造内に、同居家者を收容すると云ふ狀態を以て、アッパートメントに出入してゐる樣な同一の氣持で見る事が出來ない。而かも數十坪の建物に居住する人の家庭は極めて少人數であり、僅々十坪にも充たざる建物に居住する人の家庭に於て、多人數の家族の出入を見るの狀態で、人員の坪數宛配當は恰かも反比例を呈してゐるのである。之の狀態は貧乏問題を論ずる者の知悉する所であり、今更ら敢へて物珍らしく論ずる必要もないのであるが、歐米の諸都市に於てもやはり此の反比例的事象があるけれども、日本の建物は特に其の狀態が甚しいのである。從つて家庭も亂雜になり、不衞生狀態を呈せざるを得ない事情に立ち到るのは無理もない。所で此の狀態は、さらでだに不衞生狀態である市周圍部に特に甚しいのであるから、それらの地區内に於ける死亡率の蒙むる影響も自然高くなる譯である。

論者の友人大屋靈城氏の所論中、英國工業都市グラスゴー市の衞生官チャールス博士の調査せる所によれば、一家族一室に住む十六萬人の死亡率は一家族三室の家屋に住む同數の死亡數に比較すると、その死亡率は二倍以上であると云ふ。今博士の調査せる所によると、次の如き表を以て示し得る。

一家族一室に住むものゝ死亡率は　二五、九

一家族二室に住むもの丶死亡率は　一六、五
一家族三室に住むもの丶死亡率は　一一、五
一家族四室に住むもの丶死亡率は、一〇、八

右の如く其の數字の上には實に重要なる差異があるではないか。是れを今市周圍部中、最も人口の密集せる豊崎町の死亡率（一般）三三・四二と、人口の集中の度の比較的宜しきを得てゐる天王寺村の死亡率（一般）二八・四〇、生野村の同二九・〇三等に比較して見ると、密集地域の死亡率は如何なる影響を受けるか、略推知するを得るであらう。然らば斯くの如き惡影響を齎し易い人口の集中は如何にして防止すべきであるか。其の防止の方法如何等に就て次に其の政策論として私見を述べて見ることにしたい。

六、政　策　論

凡べて衞生的見地よりするのみに止まらず、風敎上から見ても、狹少なる地區に多人數の人々が居住する時は決して喜ぶべき結果を齎すものに非ざる事は、予は數次各種の機會に於て述べてゐる所であるが、實に這は何人も異論を樹てざる所である。年少なる兒童が妄りに家庭の生活上の話を口言したり、淫らな口振りを露骨に表明して聞くものをして不愉快ならしめたりする事のあるのは此の地區に居住するものに甚だしきを見受ける。蓋し居住せる人々の知識の低度なるにもよるべしと思はれるが、世諺に云ふ『氏よりも育ち』が克く表れるのである。さて此くの如き惡影響を齎し易い密集生活の防止は、都市社會政策の一つとして有力なる研究の資料を提供するものであり、其の社會政策の派生たる都市改良の重要なる一事實となるのである。故に私見によつて其の政策論を述べて見たい。

都市に於ける人口集中を然仆づけたる重なる理由は、マーカンタイル思想に起つてゐる。マーカンテイリズムは商業振興の必要上、人口の一特定地區に於ける集中を其の政策として奉じた爲め、相互の自由交易の結果として利便多き港灣、河口等に人口が集中して都市を形成したものであるが中世の都市形成の有力なる一因は之に存してゐる

之に反してフイジオクラートは其の振農政策の上から見て、人口の一特定地區に集中する狀態を以て、國力を減退するものと反對した。然し人の本能として、他を模倣すると云ふ、模倣の本能にあるのであつて、好惡ともに他を模倣すると云ふ傾向が著しいのである。隨つて又人口の集中すると云ふのも、一面から見て人に此の本能があるからとも云ひ得るのである。併し乍ら人は各々其の性質を異にしてゐる爲め、等しく模倣の本能を有して居るとは云へ、善なる方面の模倣と、惡なる方面の模倣とをする二つの傾向がある。此の傾向が何によつて支配さるゝかと云ふに、畢竟諸種の理由を掲げ得ると思ふが、要するに其の生活を營む環境に支配を受くると云ふ一事に歸結される。如何に特質の善良なるものであるとしても、朱に交れば赤くなり易いものであるとは昔からの諺である。大燈國師、雲門禪師の如き身のある所を淨土となし、心を雲水に覓むるものにありては、たとひ如何なる地區に居ればとて、その土地そのものが淨土であるから、他の赤き朱に交つても自分の身が赤くなる筈はないか、身も心も現實觀その儘のものにありては、大燈、雲門の模倣は許さるべくもない。之はどうしてもある權力を持つてゐる公の力によつて、此の惡い方面の模倣を矯風する事が必要となつて來る。

近時都市問題を論ずるもの〻大體の傾向は、分散都市論に之を求むる事が出來る。大都市の少數經營よりも、小都市の多數經營、所謂都市勢力の分散を論ずるものが多くなつて來た。私も又其の主義を奉ずる一人である。大都市の經營に於て利益を得るのは、民間會社に於て營むべき性質の事業をも、其の都市の當局に於て公共の立場に於て營み得るのと、それから公經濟の節約と云ふ二つの利益ある特徵が存在するので、大都市經營を振發する人々の有力なる辯護の論據となつて居る。而して私も此の二つの利益ある特徵を否認せんとするものではないが、之の利益よりも重大なる缺陷が、大都市なるものに附隨するのを看過してはならぬ。重大なる缺陷とは即ち天命を完ふせずして不幸なる死を遂ぐる事之れである。之は殆んど

大都市特有とも云ふべく、中小都市の如き其の事實はあつても、大都市の如く甚だしくはない。大都市經營に絶體無條件に賛成するものも、一面此の事實に想倒せなければならぬ。

私の考へる所では之は最も悲しむべき現象であるが、然し乍ら絶對に防止し得ざる程のものではない。策を今後に施せば、此の悲しむべき且つ重要なる缺陷を補正し得ると思ふのである。然らば其の今後に於て施すべき策とは如何なる方策を云ふのであるか。之はやはり、土地の區劃整理に伴ふ住宅配置の改良にある。今日大都市を分散せしむるといふ問題は、輕々に結論すべき問題でないが、即ち大都市分散を實行する有力なる條件は、ランド、モノポリストの所有してゐる土地のスペキンレーションに對して、何等かの制肘策を講じ得れば兎も角、之は然し輕い意味の問題ではない故に其の缺陷を補正せんとする意味に於て、新に小都市經營を試むると云ふよりも、人口の市外放散を施設するにある。之の策を採る爲めには、前述の土地の區劃整理と住宅位置の改廢を行ふ事に存ずるのである。住宅位置の改廢はそれのみによつては効果の薄弱なるものであるから、どうしても土地の區劃整理と相俟つべきものである。然し乍ら住宅を市外に放散する事は、都市當局の公的の意志發動を待たずとも、民間の營利業者は之が機先を制する事は必定であるから、之は土地區劃整理法によつて、此の惡むべき不潔都市製造業者の手足を縛るべき豫防線を張る事が其の都市當局の最先に取るべき必要なる手段であらうと考へるのである。

而して大阪市が經營したるが如き住宅の經營は私の見る所では之は承服する事が出來ない。今日巨額なるを要する都市經濟も、之を各方面の部局經濟に配當すれば、住宅經營のみに多額の經費を豫定する事は出來ぬ爲めに、勢ひ集中主義住宅經營になるのは已むを得ないとしても、尙今後の住宅經營はかゝる形式を採用するとすれば、私は之に賛意を表することは出來ぬ。之の點に就ては現在大阪市が中央政府より低利資金の融通を受け、更に之を他の民間會社に轉貸してゐるが、此の方

法は稍吾々の意見と合致するものである。即ち民間會社に市より或る基準案を示し、その基準案に從つて民間會社の自由なる立場から、東西南北自由に分散的に經營せしむるは、市自から制限ある市有地を利用して、集中的に經營するよりも、人口の密集を防止する意味に於て民間會社の經營する方法は最も賢明なる策なりと信じ、大阪市の如き大都市の住宅政策は、今後益々此の方法に出づべきを希望して已まない。要言すれば、人口の密集は都市居住民の風敎上有害なるのみならず、本論述の目的たる死亡率の現狀を低下せしむる策より見て、之は排拒すべき性質に屬するから、都市當局は今後の都市の人口增加を豫定して過剩人口の市外放散を試み得る政策を樹立し、以て密集地區の改廢に銳意すべきであると思ふ。

七、結　論

政策論として前來論述したる範圍外に、まだ論ずべき餘地があると思はれるが、要するに本論述の目的たる死亡率を如何にして低下せしむべきか其の低下の方法として如何にすべきか、それは人口の密集を防止するにある。然かも人口の密集を防止すると一口に云ふも、之は中々容易なる問題ではない。故に此の容易ならざる問題を解決に近からしめんが爲めには、都市當局も腹の底を決める必要がある。それには先づ土地の區劃整理を施し、之に一定の制限を附して、モノポリストのスベキユレーションを防ぎ、住宅の經營は都市自からが經營するよりも其の經營の資金を他の有力なる民間會社に貸與して、之をして市の內示せる基準案に基きて經營せしむる方法を採り、不潔都市製造業者の手足を縛るべきである旨を前に論じた此の方法を採用する事が要するに人口の密集を今日の程度よりも防止し得ると思はれる。人口の密集にして防止し得べき法案が作成され、是れを實施する條件が具備し得れば、密集地帶たる不衞生地區も自然今日より淨化され、衞生狀態も可良なる方面に進化するに至る。此の道行きは必然の歸結であつて、決して私の獨斷論ではないのである

只だ憎むべきは、何時の世にも營利の觀念の追及に餘念なき鼠輩である。之は今日の如く資本の

前には如何なる行動を採る事をも許されてゐる——勿論或る部分の制限は免れないとしても——所謂社會主義者の見たる資本主義經濟組織を本位とする社會構造に於ては、それを制肘する爲めに假令國家的權力を發動するとしても、それは個人の正當なる自然的自由に對する國家權力の不當なる侵害として、正統派經濟學者等の反對する所となる。洵に今日の社會組織は此の反對者の爲めに、有力なる論據が國家自身の制定した法典に存在するのであるから、吾人は是れを指摘するまでに一度其の法典の根據を顧みる必要を繰り替へさねば妄りに其の指摘さへも汚されないのである。若し夫れ、今日の社會の百般の事象は、國家又は自治體の所謂公權力のみによつて左右し得るものなるに於ては、實に私共人なきに涙を流し、その不當なるを問詰せんとする聲を呑み、只だ學究者の本分として思ひを筆に託して論述する自由を有するのみなれば、此の點に就て多く言ふを好まないが此の權力の作用のみが、社會の各般に亘つて作用し、私人の惡逆なる資本行營の餘地なきに於ては吾々は此の思ひを筆に走らせ、聲涙を呑むの必要なきものである。

最後に惡逆なる、營利の觀念の追及に餘念の無い私人に對して最後の一言を呈する。

實に今日の社會に於ける富の分布は、一部に於ては年々異常なる加速度を以て膨脹して行くか、或る一部の懷中は、僅少なるインカムによつて瞬時だも暖かむることを得ず、僅かなる賃銀の騰貴は、住居費の膨脹によつて其の實質所得が返へつて低下し、生活費の主要部分たる食料品の價格の膨脹は、是等の人々を粗食せしむる爲め必然的に榮養不良を招致し加ふるに不衛生地區なるを以て一度榮養不良に見舞れむか其の恢復又容易ならず爲めに天命を完ふせずして竟に逝く。是れが有力なる原因は富の社會的分布が著しく變態なるが故であるからである。富の社會的分布の變態なるは獨り日本のみではなく、世界共通の現象であり、資本主義を本位とする經濟組織下の社會制度では寧ろ此のアブノーマルが返へつてノーマルなる狀態である。こされてゐるが然し是れは今後の永遠

なる組織ではない、歴史の進展は此の變改を要求する時期を招來し　法律の社會的進化は有力に之の變改を條件づけるに至るのである。

さもあればあれ、今日如何なる宇宙間の存在も皆それ〴〵の機能を有してゐるものであるが、然し其の機能なるものは何一つとして只一つの太き且つ尊き綱によつて結ばれてゐないものはない。只一つの此の太き尊き綱とは何かそれは生存權のアッファイアーメエーションである。此の生存權の肯定を除きて一切のものゝ社會的存在が妥當し得るものでない事は如何なる詭辯者と雖も肯定し得る所であらう。此の生存權の肯定をも許容せざらむとする、所謂惡逆なるカピタリストは世界到る所に存在してゐるのは事實である。

實に尊むべきは人の天命である。此の天命の完ふする事が、今日では惡逆なる私人の爲めに些細の考慮をも用ひらるゝ事なく、無慘にも犧牲となつてゐる。凡ゆるものが、天命を完ふせしむる爲めに存在すべきであるに、如實に之が犧牲となつてゐる。然かも此の狀態に對する國家的評論すら個人の正當なる自然的自由の不當なる侵害なりとして反對される。然し眞に其の本來の意味から云ふならば此の一語は、天の廣大なる惠みに反逆するものとの誹謗より到底免るゝ能はざるものであらう。此の一句は私の人生觀宇宙觀の基調として結語の末尾に錄する次第である。（完）

靜かなる秋の日つゞく鳴子かな

都市計畫展覽會出品

大阪三越に於ける

大屋靈城

九月十五日から廿八日迄大阪市高麗橋三越呉服店七階で開催された都市計畫の展覽會は時節柄いゝ思付きとして世人の注目を惹いた。皆さんの中にも觀られた方が多かろうし又これから此の種の展覽會をやろうと企てゝ居らるゝ方もあるだらうと思ふから茲にあの際の出品について一寸批評を書いて見よう。

模型について

模型は多く三越自身の出品であつたが萬事如斯き催し物に馴れて居る人の手に成つた爲に出來ばえは立派であつた。然し隨分物足りないところ不出來なところもあると思つた。最も期待された『地下文明館』と云ふのが最も出來が惡かつた。即ち暗い所を造つて、そこに北米ニユヨークのグランドセントラル、ステーションの地下構造の斷面を表はしてあるが光線の應用が拙く奥行が僅かに一尺餘しかなく距離も近かつた爲に地下にあるの氣分が出てないのみならず材料があらはに分り過ぎて人を惹きつける力に缺けて居た。『あんたコレ觀なハレ大阪にやないけど地下電車ちゆうもんダツセ』『ハア、ソーダッカ、えらいもんだすなアメリカちゆ國は』と感心して通つて居る人があつた

如くこの出品の秀でゝ居るところは模型そのものでなくてその動機である。大阪は日本一の大都市であるにも拘らず今日迄平面的の膨脹のみに傾いて地下の發展と云ふ如き事は更に考慮されてないからこの作品に依て少しでも地下開發の機を早むべく刺戟してやろうと思つた作者の動機は誠に感心である。アメリカでは大低の商店が地下に倉庫を造つてエレベータによつて荷物を直接店先の道路に出し入れする飛行機の來襲があつても地下に隱れる。又レストーラン活動寫眞館の如き多く地下を利用しその室内をクールして夏でも涼しく食事し遊ぶことが出來る。斯の如き文明を見せる爲に作られた模型としては少し物足りない。モデルはN. P. Lewis氏の The planning of the Modern city の中にある圖から來ゝ居ると思ふが今少しく面白く作りたかつた。

次に整然たる市街を見せる目的で『維那フランツヨセフ街附近』の模型が出て居るがフランフヨセフ街はタニユーブ川に面した通りで兩方に建物のある町はないように記憶するがこの作品には兩方に建物がピッシリ建つて居るところから見るとどこかその附近の町らしい唯此度大阪に出來る廣路(廿四間道路)とよくその構造が似て居るところは何よりの參考であらう。會場の正面に飾られた公園の秋は五人の洋裝和裝の女や子供が公園へ散歩に行くところを造つてあるが說明に『これは北米カンサス市スヲーブ公園を模して作つたものですスヲーブ公園はその地の富豪スヲーブ氏一人の寄附に成るもので面積天王寺公園の三十倍』云々とかいてあるので北米の公園たることを知り得るが先づ子供と女を喜ばせる飾物の範圍を出ない。この方面で一番人氣を惹いて居たのは『世界建築の脊比べ』である。これは工學博士片岡安氏の考案になる圖を九尺の十五尺位の廣さの畫面に引き伸ばして畫いたもので三越の畫師が一週間かゝつて畫いたそうであるが都市建築物に高さの制限をする必要がある等と云ふ都市計畫上必要な常識を呼び起す方面には餘り參考に成らぬが世界にどの位高い建物があるかと云ふ好奇心を滿足させるには充分の出品である。次に道面舖裝材料の模型が出

て居るが時節柄必要なものゝ一つに違ゐないが、何等人を呼ぶべき展覽會向きの工夫が凝らしてないから面白みはない、寧ろ出品が大げさ過ぎた感がある。

最後に電車の模型が三つ四つ出て居るが普通我々は電車等毎日見て居るから誰も見まいと考へるが女や子供はこれをよく見たがり又興味を以て居る。そして電車に關する智識をこれによつて精細に得て居る。この點から見れば電車の模型の如きは展覽會向きのものと考へねばならぬ。尙都市計畫の展覽會としてはこの上ゝ水道の模型や道路の交叉（高架、地下、路面電車等と道路の交叉）點の模型防火建築物、耐火橋梁、小公園等の構造を表した模型もあつて欲しいものであるが、是非造りたいものは『一都市の將來の理想』を模型にして見せる如き構圖のものであると思ふ。

これを作ることは總ての方面に仲々困難がある（例へば設計が定まらぬとか經費がないとか、世評を恐れるとか、利害關係上の及ぶところが多いとか）が然しこれを見せなくては都市計畫の展覽會も餘り強い刺戟を市民に與ゆることは出來ない筈て『シカゴの市民が展覽會に出品されたシカゴの將來』を見て大いに刺戟されたのもその一例である。

優れた出品

次に全出品を通覽すると都市計畫大阪地方委員會、大阪市都市計畫部、この二つからの出品が一番多く內務省都市計畫局、大阪府建築課、同衛生課、工業試驗場等からも數十點づゝ出て居る總點數は五百位であると思ふが概して目新らしく作られたものが多い。爲に一ち〳〵批評してたら隨分書くことが多い。又私の關係してる出品も百餘りあるから我田引水的の批評も出ぬとも限らぬ。

先づ最も參考になると思ふものに就てのみ述ぶることにしよう。配置に關して大分考慮されたと見えて全體が次の一〇の部門に分かれその順序で分類的に陳列されたのは觀る人に頗る便利だと思つた。先月堺市の都市計畫展覽會を見に行つたが材料は隨分澤山であつたがその陳列の方法が斯の

如く分類的でなかつた爲に見る人の頭を捌なからずコンフューズした、この點は確かに此度の三越の展覽會は優つて居る。

一、都市計畫の概念
二、都市最近の發達
三、都市と地域制
四、都市と交通
五、都市と公園
六、都市と建築
七、都市と衛生
八、都市と區劃整理
九、田園都市
一〇、都市計畫の沿革

この中面白いと思つた出品を列記すると『一』では『都市計畫の地方色』『都市計畫とは』『世界に於ける大都市の都市計畫區域』『二』では分散都市の參考資料として作られた『都市の大小と市民負擔額の變化』及び『都市一人當坪數』『三』ではシカゴの地域制、『四』では『道路系統の規格』『大阪時間帶圖』『廿四間道路豫想圖』『ニューヨーク地下鐵道斷面』『北米の二大道路』『五』では『大阪人の娯樂機關利用狀態』『小學校生徒遊び場』『大阪市公園系統と歐米諸都市との比較』『六』では『構造により分けたる大阪市大通りの建築』『六大都市に於ける市街地建築物法適用區域』『大阪市内にある燃えない橋』『東京の震災に殘つた建物分布圖』『東京の火事はどこで止まつたか』『七』では『都市と田園との死因比較圖』『空氣の混濁比較圖』『乳兒死因比較圖』『大阪の樹木分布と伯林の樹木蔽地比較圖』『八』では『子供の遊び場をとつた區劃割』『氣持のよい商業街の設計』『九』では『濱寺公園住宅街』レッチヲース田園都市に於ける地域區分圖』『十』では『平城京の都市計畫』『平安京の都市計畫』『都市計畫の今昔』等である、尚この外珍らしいものとしては世界各國の大都市平面圖三十餘枚、都市の變遷圖二十餘枚地下高架鐵道寫眞六枚等があり一寸良く出來てるもので面白い思ひつきのポンチ畫に『鼠の觀た大阪』と云ふのがあつた。

以上述べたものゝ出來ばえについて少し批評を試みよう。（一三、一〇、二〇）　（以下次號）



資料

拜禮嶋＝大石堰堤＝窟墓＝象嶋

——續埃及遊記（一〇）——

工學博士　天沼俊一

十一月一日　水曜・好晴

五時半に起きたが相變らず非常な好天氣なので勇氣百倍、今日はPhilae島——fa'ila, fi'le 二樣の發音があるが、私のきいたのは耳が悪いせいか何れもファイレーときこゑた、だから拜禮島といふ當字を作つた、どうせほんとの發音が我國の假名で書き現はせぬ以上、この位のところで澤山であらう——のアイシス堂の見物が出來るので、而も夫れが豫てからの希望だつたので、そこへもつて來て好天氣なので、起きたてから嬉しくてたまらなかつたからである。

明日庵からEl Shellal 村迄汽車がある、併し私は驢馬で出かけた、汽車だと七哩半を三十分で行けるが、案内記にも砂漠道を行つた方が面白いと

あるし、案内人も夫れを勸めたし、私もさうしやうと思つてゐたからである。そこで八時五分に宿の前から驢馬にのり河に傳ひて南行し、大瀧館（CataractHotel）の脇から暴夜墓地を通り抜けた、此墓地にある墓は大體昨日みたのと同じ樣だが、上部明取の部分の外側は八角形で其各角點に當るところの上端はおそろしく前方に突出してゐる事圖の如くである、故に上が開き過ぎ且つ昨日のより一層刺々張つてゐるから、形は餘りよくないが併し大分變つたものである そして新樣な墓が相當に澤山可なりに荒廢の狀態に於いて砂つぱらに建つてゐるところは確に一異彩で私の樣な墓標のすきな者にとつては正に旅情を慰むるに足りるのである。



暴夜墓地に於ける墓標

此所から暫く炎天干になつて行くと古い壁の壞れがある、案内人は羅馬時代の壁だと言つたが、案内記には中帝國時代（前二〇〇〇より前一五八〇まで）に内流河を上下する船舶に對し、東方の砂漠に住する蠻族の攻撃に備ふる爲めに築造したものであらうとある、私には判斷の能力がなかつたから此の壁についてもたゞさうか知らんと思つて驢馬の上から眺めておいた丈けであつた。

夫れから少し行くと右手の樹木の生へてゐた分れ道から、背中に一ぱいに砂糖黍が何か負つた駱駝が一疋出て來た、よく馴されてゐると見えたゞ獨りで、主人の家への歸途らしい。豫て駱駝は砂漠の船として重寶がられてゐるときいてゐた。成程背中には肉質の隆起があつて其内に滋養分を貯へてゐるし、胃は特別の構造をしてゐて水がたまつてゐるから數日間飮まず食はずに平氣で歩く、其上保護色を帶びてゐるからうまいものだ、駱駝が砂漠に住むのは當然であると思つてゐた丈

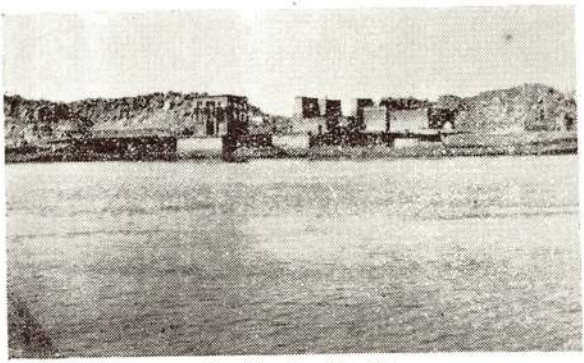
けで砂つぼらを歩く工合はみた事がなかつたが、今日初めて目前に夫れをみたのである、即ち四足の下側即ち足の裏に特別の蒲團がついてゐて、彼が砂の上に足を下ろすと砂が凹む代りに其蒲團の方が凹む、だからいくら歩いても我々の様に足が砂にめり込んだりずり下つたりする事は絶對にない砂上を行くこと恰も平地の如しである、だから背中の瘤と胃とこの蒲團とで立派に砂漠の船たる資格がある彼が澤山の荷物を背中にのせ急がず騒がず泰然自若、のそりのそりと砂つぼらを歩いてゐるところは聖人君子の如くであつた、翻つていつも慌てゝ失敗してばかりゐる自身を省み苦笑せざるを得なかつた、あの駱駝のせめて半分丈けの落着があつたら、今迄にあんなにしくじつて許りはゐず、もう少しはどうかしてゐる事が出來たらうと思はざるを得なかつた。

行くこと約一時間にして、漸くシェラール村に近づいたと見え、あちらこちらに人家が見え出した民家は一昨日マハミッド驛で汽車の窓から見たのと同じ様に、何れも泥土煉瓦を以て築造せしもの其平面は方形で屋根は筒形穹窿、やさしく言へば蒲鉾形、三々五々集つてゐるのを一々そばへ寄つて見たかつたが、時間は到底かゝる道草を食ふ事をゆるさぬから屑よくやめて了ひ、漸く通り路から最も近くに建つてゐた家を背面から寫眞にとる事が出來た無論正面からの寫眞がほしかつたのだが、正面の方は相憎逆光線になつてゐたから止めたのである。正面でも背面でも出入口や窓の工合は全く同じで、たゞ一は側面の如く煉瓦が一々現はしてあり、他は圖の如く一面に土が塗つてあつた丈けの相違と記憶し



El-shel'al 村の民家

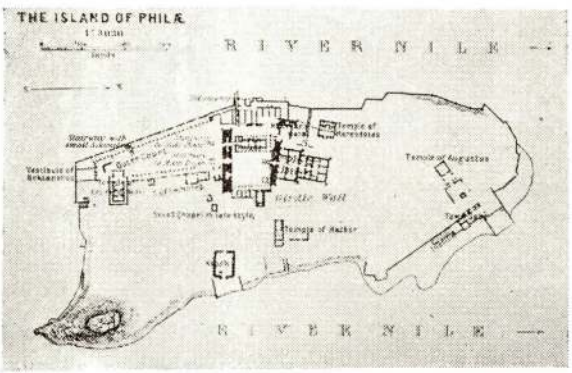
てゐる。如何に日光は強烈で温度は高きにせよ、窓がこんなに高く且つ小さくては座つてゐては、勿論立つたところで外が見えるではなし、随分つまらぬだらうと思はれるが、何れの家も大概かうであるのをみると、人々何れも斯様な家で満足をしてゐるのであらう、先祖代々かゝる家に住んでゐれば別に不平でもないしいやでもない筈である。



拝禮島遠望

拝禮島は可なり遠方から道の右手に明瞭に見える、と同時に汽車の終點シェラール驛は左手に見える、こゝから先きWadi Halfa 迄は汽車はなく、更にまた Wadi Halfa よりKhartum迄で汽車は通じてゐるのである。

シェラール驛を左にみて道を右にとり、河岸へつくとそこに小船が待つてゐて、乗ると五六分で島につく、上陸地點は平面圖の右手下側 Augustus 堂の前 Town Gate とある邊であつた。

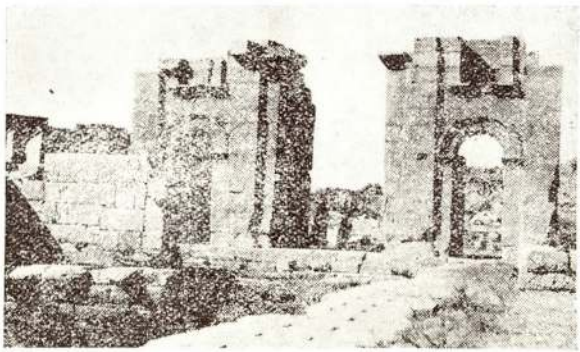


Philae 島平面圖

先づ此門より記載を試みやう其樣式は普通羅馬にある凱旋門式で三門あり、中央の門最大にして左右のは小型である、此を我國の式で言ひあらはせば『三間三戸單層平屋根造』となるが、今は半分から上は壞

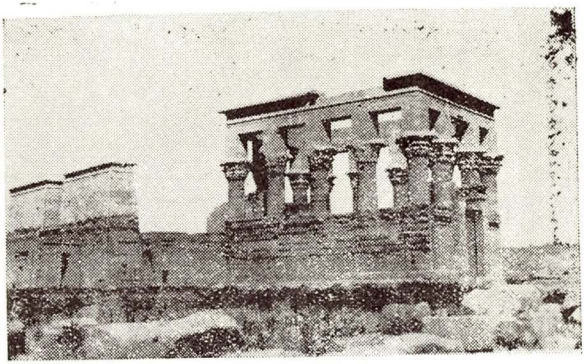
れてゐる、Diocletian 堂の創建と考へられ大して立派なものではないから、圖に示する要もなからうが、埃及、而も上埃及のアイシスの本塲なる此島に斯様な建築があるとは一寸考へられぬ、だからこんなものもあるといふ一例に出す事にした。

此の門の直後にあつた Augustus 堂は殆んど全部壊れてゐる、私はそこを一瞥して左に曲りハソールの小堂の脇を通て所謂 Kiosk（涼亭）へ行つた、涼亭一に Pharaoh's Bed といふ、斷る迄もなく此の涼亭は島の主要なる装飾であることアイシス堂以上である、亭は羅馬帝國時代に起原するもので嘗て完成された事はない、其周圍十四本の開花柱頭上の四角なところは Sistrum（アイシス禮拜の爲めに用ゆる一種の樂器）をつけるつもりであつたらしいが、遂に出來ずに了つたさうである。嘗て私は紐育市滯在中、同市山の手にある、Woodlawn Cemetery をみに行つた事があつたが其うちのある金持の廟としてこれの寫眞があつた、そつくり其儘で、甚だしいのは開花柱頭上の四角なところ迄其まゝに殘してあつたのだからあきれざるを得ぬ、註文者の希望がそつくり其まゝといふので、かうしたのかも知れぬが、夫れにしても能がなさ過る私の記憶違ひかも知らぬが、我國のある建築の專門雜誌の口繪か何かにこの寫眞がのつたゐた樣に思ふ。此れが建築家の仕事ならだらしがないが、石工の仕事なら褒めてやつてもよからう。併しこの島にあるほんものは古色がついてゐるから却々によろしい、建物としてはさう大して騒ぐ程のものではない。



Town Gate

柱身の上部柱頭に近いところに横線があつて、これから上と下とで石の色が異つてゐる、全體この建物は赤砂岩で出來てゐるのだから、全體が

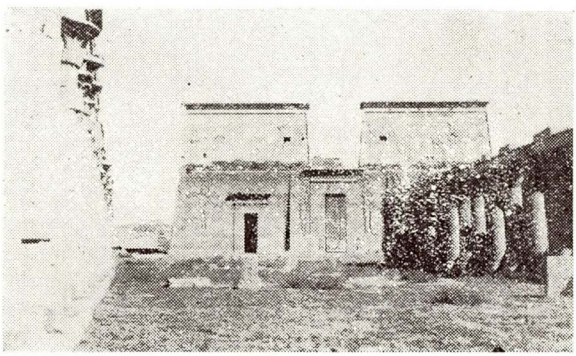


涼亭 ——12. Pharaoh's Bed といふ
左方に見ゆるはアイシス堂の第一大門である

同じ色であるべきに、此線より上は赤くて下は黒い、圖の左方アイシス堂の大門の兩塔に於いて此線が特に著しいのが見えるであらう何故にかゝる線があつて色が上下で異るかといふと、大堰堤を築造して以來毎年永い間水を貯めておくので、其水が一杯になつた明は漸く此涼亭と、堂の第一及第二大門の兩塔と、及び島の東南隅の高地とが水上に出で、あとは全部水面下にもぐつて了ふ、だから建物のうち以上の三つ丈けが其途中に線があり、線から下は水の爲め色が黒くなつて了つたのである。

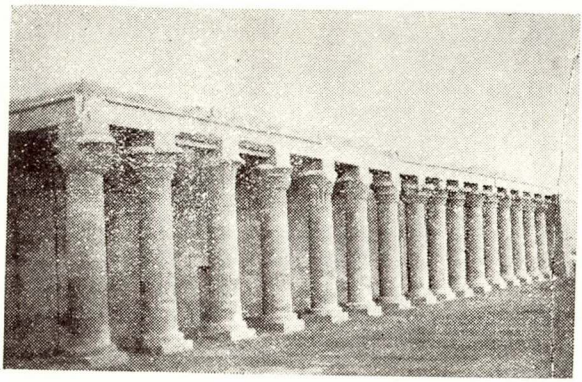
アイシス堂

此の涼亭から西南に進みEri-Hems-Nufer堂を廻つてアイシス堂の外庭へ出られる、其突き當りの少しく右手に此の堂の第一大門が見え、左右には列柱がある、第一大門の反對即ち南方にはネクタネボスの女關があるがこれも大分にひどく破損してゐる。扨て左右の列柱の中、西側のもの總長約三百尺柱數現在三十一本　柱頭の意匠總て異り同一のもの決して二つないが、併し此の如きは敢てこゝ



前庭よりアイシス堂の第一大門をみる

許りではない、歐洲の建築に於いても常にみる所であるし、また我國でも室町以降の建築に於ける木鼻の如き、一つの建物に幾つあつても同じものは一つもなく、且つ兩面にて彫刻の異なるのは珍らしくないのである。東側のものは未完成で柱數十六本の內六本丈けが出來上り、殘りは柱頭等たゞ其概形を作れるのみだが、其形注意に値してゐる。



柱列の側東庭前

私は次に第一大門の記載を初むる前に、祭神なる女神アイシスに就いて聊か駄筆を弄してみやうと思ふ。字引を引いてみると此神は埃及神話中の主神で、オサイリスの妹兼妻、ホーラスの母、天神ヌート地神セツブの子人類に美術と農業とを敎へたる神云云とある。爰に圖示した三體の女神中、最左端の椅子に腰かけてゐるのは最も普通の形であるが、次の有翼の立像は兩翼の間自身の前にOsiris Us-Nefer を立たしてゐるのもある兎に角これは子供のホーラスを保護するの姿勢にあるのである、この二像及び次に記さうとしてゐる第三の像は何れも同一の寶冠を頂いてゐる、寶冠は二叉の牛角及び圓板(Solar disk)より成る。

第三即ち右端のは、赤ん坊のHorus を左手に抱き左の乳房を含ませやうとしてゐる座像で、これは我國に於ける訶梨帝母卽ち鬼子母神を思はせるものである。此種の座像に抱かれたるホーラスは上體を直立せしめ、乳房を持てる母神の右手の手首を左手を以て握つてゐる彫刻もあるが、何れにしても頗る面白いものであるのである。

山城醍醐寺に藏する絹本着色の鬼子母神は、座像にして左の懷に赤子を入れ左の乳房を含ませ、右手に吉祥果卽ち石榴の實の枝についた儘のを持



ホーラスに哺乳せる像



有翼の立像



イシスに座せる椅子

ち抱かれたる赤子も亦左手に同果をもつ、他に膝下に一童女あり、鎌倉時代に屬するものゝ如く甚だ傑作である。

『佛像圖彙』所載のもの略此れと同一の姿勢をしてゐる。

『佛教新集』には二種の像をのせてゐる、女神其物は姿勢態度總て上記のと同じであるが、一は臺座及び前後方に八兒、他は三兒を描いてある、兩圖共女神は右手に吉祥果一個を持ち、抱かれたる兒は一は兩手を開きて將に合掌せんとするの狀をなし、他は果に向て合掌せるところが、描いてあるが女神の面相は端正である。

東京雜司ヶ谷の鬼子母神は頗る有名であるが、何といふ名の寺かよく知らぬ。こゝで販賣せる畫像は立姿で同じく左懷に赤子を抱き、右手には枝の石榴を持ち、其面相は口鬚あるが如く無きが如く、男性か女性か甚だ曖昧な難かしい顏をしてゐる、そして中央に『南無鬼子母神』、左右に『修行是經者、令得安穩』と印刷してある。さうかも知れぬが、畫像丈けみてゐたのでは大して敬意も表せ

ぬ樣である。

次は印度の鬼子母神を考へてみる、印度といつ





健駄羅彫刻鬼子母神立像二種

ても今手元にあるのは健駄羅彫刻のである、こゝに圖示せるものが夫れであるが、左方のもの左手を腰にあて右手子供を抱く、他に二兒ありて何れも母神の兩肩に一人づゝ乘り、片手に圓いものを持つてゐる。他は左手掌に小兒を立たせ、此兒は母神の乳房を含み、他の二兒は母神の兩肩に腰をかけ、同じく何れも片手に圓きものを持つ、母神は右手を垂れ、略橢圓形の袋とも果實とも見ゆるものを下げてゐるが、生憎手首が缺けてゐて其持ち工合が判らぬ。併し或は總て此れ等の持物が後の所謂吉祥果ではあるまいかと思ふ。

尙一つ此の他に同じく健駄羅彫刻で福の神なるKubera と並んだ坐像の例を知つてゐる、此の場合に於いても像は同じく左手孩子を抱きて乳を含ませてゐるが、他に四兒ありて內二兒は肩に乘つて居り二兒は足下に在りて何れも裸體である。

我國の鬼子母神は、私の知つてゐるのは何れも畵像のみであり、印度のは、同じく健駄羅彫刻のみではあるが、大體其姿勢は同じで、何れも赤子を抱き哺乳してゐる周圍に數兒が遊んでゐるとこ

ろである。

耶蘇教に於ける好題目として古來澤山にあがゝれ、そして今日尚好んで描かるゝのは Madonna and Child である。其姿勢には種々あるが、試みに其四五を擧げると、左手に抱かれたるものに、Murillo, Cano, Dürer 等あり、右手に抱かれ乳房を含み又は含まんとせる者に Andrea Solario, Vinci, Botticelli, Jean Fouquet 等あり、ドレスデン繪畫館所藏のムリリョ筆聖母基督圖、安土府繪畫館所藏 Gérard David 筆の聖母基督と共に埃及に逃るゝの途に休息する圖等は、どうしても Isis and Horus の翻案とはか考へられぬものである、以上はほんの一例に過ぎぬが、他にかゝる種類の圖を探したら恐らく無數に出て來るであらう。

安土府の同館に出陳せる Luc Cranach 筆 Charity と題せる圖は、中央に腰をかけたる女人の他に三人の小兒を描けるが長は左下に胡座し、中は背にとりつき、幼は右手に抱かれて膝にあり、母親は左手を持て哺乳せるの狀を描けるが、何れも裸體にして、たゞ母親のみ胸部より腰にかけて輕羅を纏へるのみであるから、下と背との二兒を除けば Isis and Horus で、これを入れると Hariti になるのである。この群像の上には林檎の樣な果實が枝から下がつてゐるが、兒の何れもが實をもつては居らぬ。併し聖母の抱ける幼き基督のうちには、片手に林檎又は葡萄等をもつてゐるのもある、これ等は前揭の健駄羅彫刻の持物及び我國鬼子母神畫像の吉祥果を持てるに比して興味のあることである。

此れ等の他、此れ等に類似の圖等を酌酌して試みに左の方程式を作つてみた

Isis and Horus = Madonna and Child

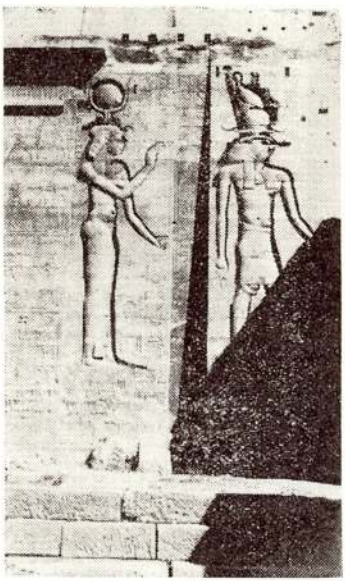
= Hariti

= 訶梨帝母(鬼子母神)

= 子育觀音(まりあ觀音)

即ち總本家は埃及、本家は猶太と印度、あとは支店であらう、さうなるとVenus and Cupid なんか無論支店に入つて了ふのである。私は敢てこの說を固持するのではない、たゞ想像は自由だから勝手にさう想像した丈けである。希臘に人頭鳥身の

Harpy があると同時に印度に迦陵頻伽あり。牛頭人身の Hathor や、Theseus に殺された同型の Minotaur や、印度に於ける同型の Buffalo demon 乃至西遊記に出て來る同型の牛魔王等を思ひ浮べると、以上の想像は強ち出鱈目とばかりも言へぬ樣である、といふ風な自分に都合のいゝ證據ばかりをあげておく。



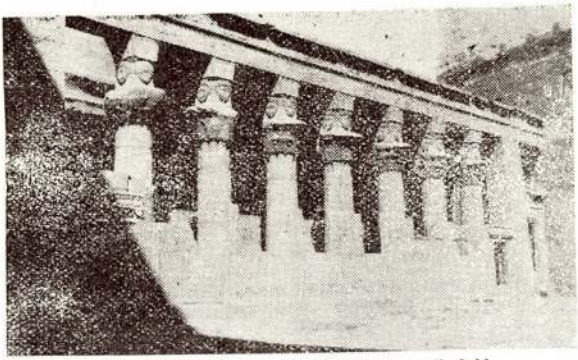
第一大門東翼塔の彫刻

扨て元に戻つて昔しから、此島と此女神とは離るべからざる關係があるのである、で此の堂は島の女主人なるアイシスと其の子の Harpocrates＝Horus the Child の爲めに建てられたのであるが今の建物は Ptolemy Philadelphus (285—247B.C.) 此れを創め、次の王 Euergetes I (247—222B.C.) 主として完成したさうである。

此堂には大門が二つある、第一大門は巾一五〇尺高六〇尺、其面には例の如き彫刻が一面に施されてゐるが、圖には其一部なるアイシス立像及びエドフウのホーラスが現はれてゐる、前者は例の如く兩角間に圓板を頂ける寶冠を、後者は鷹頭人身にして頭に上下埃及の復合冠を戴ける模範的の形である。此れ等の上方にも面白い神話の塲面が小さく出てゐるが、長くなり過るから總て省略しておく。

此の大門が一般のと少しく異なつてゐるところは、向て左側の塔基部に小さい入口の開いてゐることで、これを入れば Bith hrouse に達するのである、この建物は第一及び第二大門との間の中庭に面しても亦出入口を開いてゐるが、其柱は開花及びハソールの復合柱頭をもつてゐる。夫れとも一つは大門中央入口の兩側に石獅子を据ゑてあることである。我國に於いて神社の鳥居兩側に石獅

子を置くのと同じ風習で甚だ愉快であるが、つい寫眞を撮らなかつたから圖示することが出來ぬ、尤も門の兩側に小さく寫眞に出てはゐるが、かう小さくては獅子のある事ずち判らぬのは惜しいことである。



第二中庭に面せる Birth House の復合柱

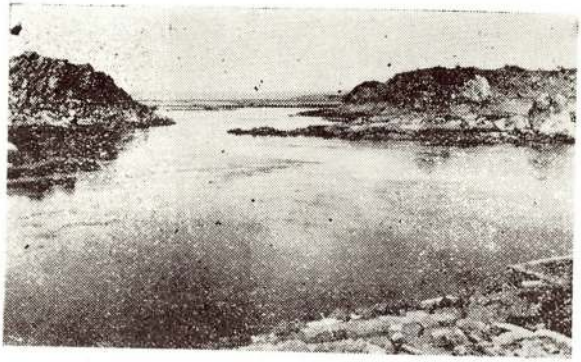
第一大門を入れば中庭に出で、前に第二大門あり左右は列柱にて限られたる特殊の中庭である、即ち西側には前記 Birth house 側面の列柱あり、此の建物は Hathor, Isis 及び其子 Horus の誕生の記念する爲めに捧げられたもので、同樣に壁柱の類は何れも彫刻を以て裝飾されてゐる。此の反對卽ち東側の建物は主として僧侶が居住したので、我國で言へば僧坊卽ち東室である。

第二大門は巾一〇五尺高四〇尺、規模稍や第一大門に劣る、これも亦一面に彫刻を以て覆へるも總て省略しておく、そして此門を入るとこゝから後ろに最主要なる部分卽ちアイシス堂の本體があるのであるが、堂は規模比較的大ならず、小じんまりして甚だ工合がいゝ、こゝも亦裝飾他の例に同じである。

神殿の屋根へ上つて大觀をしたり、あつちこつちを歩いてみたり、事實福額大の島であるが、まとまつてゐるからいつ迄ても飽きない、遂に島の西側なるHarendotes堂址に腰を下ろし、たゝ芒乎と下流遙に大堰堤の方を眺めてゐたが、やがて案内人に促されて仕方なしに立上り、再び先の小船にのり流を下り堰堤に近く上陸をした。

堰堤の水門は今全部あけてあるが、毎年十一月末から閉づるので水は漸く增し約四十日後に滿水をする、そしたら三月の間は其まゝにしておくのださうな、だから翌年二月末迄は拜禮島は全部水

面下に在り、建物では漸く所謂『凉亭』と大門兩側の塔の頭丈けが水上に出てゐる位である、水が大分に低くなつても尙自由に近づき其邊を視巡るのは困難である併し私は幸に少し早かつたゝめに堰堤築造前と同樣の有樣に於いて自由自在にみることが出來たのは、全く來た時がよかつたゝめである。



アイシス堂の第二大門塔より下流石堰堤を望む

明日庵大石堰堤

內流川を横切りて築造せる明日庵の大石堰堤は明治三十一年着手し同三十五年に落成したので世界に於ける最大なる堰堤ださうである。私が土木工學を專攻してゐたのだと、專門的見地から何か有益な文字を列ねる事が出來るのであらうが、門外漢には情ないが何一つ判らずにしまつた。先月十七日サッカラ見物に行つた時 メレルカ墓の附近に於いて眞つ白になつた人類の頭蓋骨を拾つた時も、若し私が人類學が解剖學かを齧つてゐたら、何か少し位は曲りなりにも判るだらうに、其方面の智識皆無の爲め手に取りながらどうする事も出來ず殘念至極に思つたことがあつたが、今日も亦此の世界第一の大堰堤の上に立ちながら、下を覗いて水門から水が流れ出すところを見たり、大瀧の有樣や附近の景色を眺めたりした位で薩張仕方がなく手も足も出なかつた。

私が此の堰堤の直ぐ上流で陸へ上ると、船頭及び同船してゐた小さい三人の子供はいきなり私に向ひ手を出して、異口同音に Bakshish! Bakshish! を繰返した、このバクシーシェは歐米人にも餘程氣になるものと見え、彼等の著書にも土人や又は子供の集り等を寫眞に撮り、其下に Baksheesh 又は Bakseesh Boy 等と印刷したのがよく挿書にな

つてゐる（勿論此の語の綴り方にはいろいろある）が、今日程うるさく大勢から強請られたのは初めてであつた。

元來バクシーシュなる言葉は『心附』とか『布施』とかいふ意味はないのださうで字引にはBakshish is not alms, which it would be humiliating to an Arab to receive. It is a present, a gift between princes. とある位であるから、立派な言葉であつたのであるが、今はすつかり價値が下落してしまつたのである。此言葉は印度でも用ひてゐるが。埃及程ではないやうである、誰でも埃及見物に行けば坡西土や蘇西に船がつくと直に一種の風俗をした船蟲の樣な土人から一番先きにこの言葉を聞かねばならぬ。

私は餘りにうるさいので知らん顏をして横を向いてゐたら、今度は案内人の袖を捕へてくれなければ離さぬ樣に見えた、どうするか見てゐると狂言か眞劍か知らぬが相當に口角泡を飛ばし乍ら二言三言やり合つた末、遂にいくらかの金を與へて分れたが、あとでムスタファは私に向ひ、あの船頭は役にも立たぬ子供をのせて來て心附を一人に一志（五ピアスタアの銀貨を便宜シリングといふ、大さも價格も大概同じだから）づゝくれといつたから叱つてやつた、今は季節以外だからさう澤山やらぬでもいゝのだのに不都合な男だ、といつたから、然らばいくらやつたかと尋ねたが彼は返事をしなかつた、私も夫れ以上敢て追及せずにおいた。

以下少しく此の堰堤について案内記の受賣をしておかう、前記の如く明治三十五年に落成した結果は、下流に於ける約二十萬四千町歩の不毛の地が新に一變して立派な耕地になつた、其爲め國富十五億圓を增加したさうである、堰堤は明日庵の古代石切場より採取せる花崗岩を以て築造され延長約半里、當初は高一三〇尺下巾九八尺上巾二三尺であつたが、明治四十年より四十五年にかけ更に高一六尺五寸上下巾此れに應ずる丈けを增築したので、結句莫大な水量を貯ふるに適する樣になつたさうである。堰堤下部には上列に四〇下列に一四〇の水門を開いてゐる。毎年七月初旬內流河の水量增加を始むるや、全部の水門を開き其まゝ十一月下旬に及ぶ、此の間に殆んど總ての泥土は

流下して行ふので、一つ一つ次第に水門を閉ぢるかくして堰堤の上流に出來る臨時の湖水は漸く水量を增し翌年二月初に滿水の狀態となる。三月下旬より下流は著しく水量を減ずるので、先きと反對に一つ一つ水門を開き、次第に多量の水を流下せしむるのである。更に舟楫を通ずる爲めに西岸に沿ひて運河あり、水の落差七十五尺、四ケ所に扉を設けて水量を調節してゐる。

堰堤の上には二條の軌道があつて、手押車が其上を轉がる樣になつてゐる、手押車の上は二人づゝ二列に腰をかけられる、そして黑ん坊が後ろから押して走るのである、これはうまい考へで人力車の樣に車夫の背中がみゑないでいゝ、これこそ眞のTrollyである。堰堤の所々には景色を觀賞する爲め小高いところが出來てゐて、石階數級を登りこゝに出られる樣に設備がしてある、つまり此のトロリーで堰堤上を往復するのである。

言ふ迄もなく此の大堰堤は內流河第一大瀧の所に築造したのである、だから此の上から下流をみると岩に激して水は白い泡を立てゝ流れてゐる、下流の景色は頗る大きい、堰堤のない時分は河岸から眺める丈けであつたらうに、今は河の中央から充分に景色の觀賞が出來る。

堰堤築造の効果は莫大な國富を增したが、お陰で拜禮島の建物は水浸しになり、壁面の彫刻等に施してあつた色彩はすつかり色が褪せて了つた、のみならず大分に傷んだのは惜しいことである、殖產工業の奬勵と史蹟の保存とは常に一致せぬのは困つたものである。

× × ×

堰堤上をトロリーへのつた儘戻つて來ると、そこへ今朝宿からシェラール村迄のつて行つた驢馬が來て待つてゐた、夫れへのつて昔しの石切場だといふ所をみて歸宿した、虛か實か知らぬが大きな赤花崗岩(Syenite)が露出してゐた。

宿へついたら一時であつた、晝食をして暫く休憩、午後二時半再び宿を出て、直ぐ前から小船にのり象島の北端をかすめて筋向ひ、即ち西側の小山の中腹にある往古の象島王公歷代の窟墓見物に出かけた、此小山は前號の寫眞に宿屋の二階から

見た寫眞を出しておいた通り、頂上にSheikhの白い墓があつて絶好の目標になつてゐる、日中は勿論月夜でも白く見えてゐる事程左樣に著しい墓である。

此小山の中腹にある窟墓は明治十八年より十九年にかけてLord Grenfell の發掘にかゝるもので、何れも古帝國の終りより中帝國の初めにかけてのものださうな、だから丁度紅波山のと殆んど同時代である。此の山下に上陸すると兩側に石段中央に石斜面のある可なり急峻な段がある。これを登り詰めると第三十一號墓の前に出る。石段間の石斜面は石棺を下から引張り上げる爲めのものださうであるが、夫れがそつくり其儘今日に存在してゐるのは珍らしいと言はねばならぬ。

私はこゝにある窟墓のうち第二五・二六・二一及び三六號の四つをみた。最初の二つは第六王朝(ca. 2625—2475 B.C.)ので、次の二つは何れも第十二王朝(2000—1788B.C.)のであるが、就中第三六號は明日庵に於いて今日迄に發見せられたる最美なる墓であるといふ。此の墓は他のより少しく離れてゐる。山の中腹に沿ひ突角を廻つた所にある、入口には壁にて圍まれたる廣き前庭あり、前庭の突き當り即ち窟墓の入口に八本の角柱立ち並び、其外觀概に他の墓と異る、內部壁面には何れも美なる彫刻あるが記載を見合しておく。此所より直に河岸に下りることが出來る。

此れ墓の見學を了り、更にせめて山上シエークの墓のところ迄行つて廣く景色を觀賞し度かつたのであるが、登るには可なり努力を要すべく、且つ登つたところで、夫れ丈けの効果があるかどうか判らぬので見合、こゝから象島を俯瞰し內流を距てゝ明日、庵市の全景を遠方にみて滿足をしておいた、そして小舟に戻り象島を一周し、其南端へ一寸上陸し古代の町の廢墟を通り Niilometreを裏からみ Assuan Museum 前から再び舟にのつて歸つたら丁度五時であつた。

× × ×

今日は朝から正味七時間半、隨分澤山詰め込んだから際立つて物識になつたが、たゞ象島の民家を視察する時間がなくなつたのが惜しかつた、此

の目的を達する爲め明朝五時十五分の一番をやめて、二番の十時五分にすれば朝の内に見られる、だからさう決めた。

今夜も月は昨夜と同じく風は一層涼しい、縮みの半袖の肌着と短い下ばきになり、寢臺を窓のそばへ引張つて行つて其上に寢轉んでゐると、さつき行つた丘も象島も内流河も皆寢ながら觀賞出來る、涼しくて蚊もゐず何ともいゝ氣持であつた。

昨年一月錫蘭島を旅行してAnuradhapuraへ行き同名の旅館へ泊つた時、偶ま大雨到り夜に入つて晴れたので、夕食後縁側に腕椅子を持出し其上に納つて涼んでゐたら、前の森林の周圍を澤山の螢が飛び廻つた、丁度あたりに人なく大變に氣持がよかつたが、今になつてみると埃及ではAssuánの夜錫蘭ではAnuradhapuraの夜が最も忘れられぬのである。（大正十三年九月三日稿了）

秋風や
坂の上なる
大銀杏

大江橋及淀屋橋懸賞圖案概評

審査委員　G　T　氏

大正十三年九月廿日より二十二日に渉り審査委員協議上愼重に行はれたる概評次の如し

第一等賞　大阪市　大谷龍雄

樣式は南歐中世紀の氣分あるも近代式を用ゐ其の根底に於ては東洋趣味の横溢せるものなり。全體の形極めて端正剛健其の形狀の比例最も洗練を經たり其の主要材料たるコンクリートを樣式の上に表現せんとせる作者苦心の跡も注意すべし但し柱塔の飾壺上に火焰の形を付したるは少しく蛇足の感あるを惜しむべしとす製圖の技極めて巧妙なり。

第二等賞　大阪市　伊藤正文

作者は『鄉土風を加味せる近代式』と稱するも委員の見る所に由れば南歐羅馬式に多く影響される近代式とも稱すべきものにして橋梁の形狀比例極めて研究を經たるものゝ如く格好雄大簡潔南歐に於ける城堡の有する形狀の美點を具備せるも橋脚上に造られたる四阿型飾搭は少しく頭部過重の觀あり從つて其の四脚の大さ細きに失するの憾あり且つ其内に懸垂せられし點燈具は其の取扱の點に於て尙一考を要するものありと認む大江橋上にある飾塔は其の中央部のものゝ形を少しく變化せしめざれば全體として變化に乏しきの感あるを免れず此取扱法に於ては第一等賞入撰のものを參考すれば自ら明らかなるべし。

第三等賞　東京市　大澤浩

佛國中世紀ロマネスク式に影響せられたる近代式とも稱すべく取扱口の輕快なる勾欄の高さを中央部に至るに從ひ次第に高め來れる手段等極めて巧妙なる技巧になるものと認む、橋の側面に何等凸凹を作らずして一平面とし標識燈に由て其の平面の單調を破りたる手法は凡手にあらず然れども此

の橋梁の主要材料たるコンクリート構造に對してエキスパンションジョイントを作り得ざることは此の案の美點にして同時に缺點たるを免れず但し柱脚に此のジョイントを作るも橋全體の形に惡影響を及ぼさゝるを以て上記の點は大なる缺點とも云ふを得ざるべし、飾塔の形は橋其のものとしては可なるが如きも環境と調和を缺ぐものあるを憾む。

選外佳作第一席　神戸市　早笄五朗

樣式は伊國ロマヲスク式より暗示を後たる近代式にして細部の考案巧を極め製圖も亦極めて練熟せり橋梁全體の形として拱の起點直ちに水面上にあるは橋下航行の船舶に不便を與へ且つ形狀としても安定を缺き面白からず細部の考案に於ても餘りに種々なる樣式を參考としてしかも夫を充部渾一の境に消化し得ざるの感ある所謂樣式の混和を生じたり。

同　第二席　堺　市　鈴　木　久

羅馬風を有する近代式にして全體として形狀佳細部の取扱巧妙なるも點燈具の形狀及柱脚部窓形飾に於て多大の缺點ありと認む。

同　第三席　大阪府　植　實宗三郎
　　鈴　木　參　一
　　喜多村政良

印度風を多分に加味せる近代式にして其の全體の形として拱環薄弱拱の起點に飾りを付し或は橋脚部に溝彫りを付して橋梁全體の力學的權衡を破壞せるは大なる缺點とす橋上の飾燈及勾欄は艶麗を極めたるも環境との調和に於て多大の缺點ありと認む。

同　第四席　神戸市　忽　那　仁　作

北歐の近代式に影響されたる樣式にして全體の形狀簡にして美橋側に竪筋を入れ歩道を持ち出して植樹鉢とし橋の美觀を添へたるは奇拔なる案と稱すべし但し裝飾の主要部たる飾燈の玻璃球及金屬製脚部の大き過大にして製作困難なると其の形狀の研究に不備の點あるは惜むべしとす。

同　第五席　東京市　山　本　富　一　郎

日本式を加味せる近代式にして其の飾柱の頭部は我邦寶塔上にある火焔金物の形を採り總ての細部を日本式としてより調和せる結果を得たるは長所なるも環境と不調和なるは遺憾なりとす。

漫錄



古寺巡り

關西光鯱會　宮飼克二

木稿は單に旅行の手記に止り、去る大正九年と、本年との二回に行きたる處なるも、同一地方なる爲めに、便宜併記した事を前以て斷つて置く。

去る年の夏、休暇を得て若狹小濱町外の雪溪村にある親戚に約一週間程遊んだ時、一日を費して近くの妙樂寺に足を運んだ。

妙樂寺（眞言宗）

福井縣遠敷郡今富村野代

小濱驛の東數丁の處に南川がある、この堤防の松並木に沿ふて、川で鮎を漁つて居るのを眺めながら、鐵道線路を踏切るとすぐ國道に交叉する、此處に今富村の小學校があり、之より奥の方は一帶に今富村である。川と併んで進む、兩側の山は平均二百米突位の高度で延びて平野を區切つて居る、この谷の奥に尖つて聳えて居るのが多田ヶ嶽（七一二米突）で、舊火山だとか云つて居る。この

手前の山麓にある村落が野代で、此處にて道を左折して山にかゝる。岩間を馳け下る水は冷く、鬱葱たる樹木は暑き迄に蔭を深くして夏を忘れしむ登る事數丁ならずして、兩側の高臺を連絡する土橋が苔蒸した左右の橋臺に架してある、寺の通路と村より山への通路とが、立體的に交叉してある邊りは仲々要領がいゝ。

士橋の下を潜つて左の高臺へ上ると、繁みの中に廣場が出來て、突當りに西向きの本堂がある、廣場には何一つ妨げるものなく、本堂が餘り大きくない爲に、エレベーション全體を眺めるには都合がよいが、乍然當初柿葺であつたものを、修結を省く爲めに後世本瓦葺に代へたる結果、軒先の均衡を失つて居るので、建立當時のプロポーションを充分に味ふ事の出來ぬのは遺憾である。

本堂　は五間五面の單層で屋根は四注造りである、前述の如く後世に至つて本瓦葺となしたる結果、軒先の荷重多くなり、六尺巾の廻廊の端に於て、各柱通り毎に角柱のサッポートを建てゝ支持して居る。そし正面中央柱三間だけは八尺五寸間で兩端は七尺五寸間となり、側面は五間共全て七尺五寸間である、從つて間口と奥行との差は僅に三尺であるから棟の長さも同樣三尺でなければならぬ。然るに實際は約九尺位は大丈夫ある、即ち前後の勾配よりも左右の勾配の方を急にしたからである。前方より眺める時、建物が小さいだけに屋根全部が見えて左右の急勾配が少々氣になるのである、反つて側面の方が勾配が緩く落付いた堂であるが、側面には餘り空地がなき爲めに充分にプロポーションを味へぬは惜しいものである。かゝる正方形に近き平面を有する堂には入母屋造りの方が無難であらう。



正面中央には柱眞々十二尺の巾を有する向拜が附いて居るが、後世(江戸時代)のものである事は一目して區別がつく。軒裏には支輪も小天井もなき爲めに、組物は至つて簡單にして、蟇股も用ひてない。

內部は前方柱二間分だけを外陣にとり、天井は化粧棰を用ゐて寄せ棟の化粧裏に造り、紅梁の中央に雄健な蟇股—丁度奈良の法華堂(三月堂)の外陣の天井のものによく似たものを用ひて化粧棟木を受けて居る此建物の建立年代は不詳だがこの蟇股だけでも鎌倉時代の遺物である事を遺憾なく發揮して居るのである。(挿圖參照)從つてこの本堂は明治三十四年三月已に指定になつて居る。

最早時間も正午頃となり、雨の模樣になつて來たので、急ぎ以前の土橋を渡りて方丈に行き、來訪の意を通ずれば、中食を終りたる住職は氣安く吾々を通して下れた、雨は降し出して暫し止みそうにもない、參詣——參觀の記念に同寺の御判を押してもらう、最初本堂に取付けられたと傳ふる棟札や、寶物の經卷等を取り出して吾々の訪問に報ひて下れたのは有り難かつた。午後三時頃となつて雨はやつと上つたので、住職に厚く好意を謝して同寺を辭した。正午すぎに歸る豫定で辨當の用意もせずに行つたので、空腹をかゝへて雨上り田舍道を小濱町さして急いだ。

× × × ×

本年の夏、旱天で非常に暑く稻田は龜裂を生じて大騷ぎの八月中旬、久々で昨年も一寸は行つたが——亦約一週間の休暇を得て小濱行を企てた。八月十四日親戚の近所に居る出入の心安い大工I君(四十七八)を話相手に伴つて、ニギリ辨當を用意して今度は統日の行脚の豫定で午前七時半に出發した。I君は土着の人であるから田舍道の勝手はよく分つたものだ、到る所で知つた人と行會ふ又時には知らぬ人に迄も心易く話しかける位であるから、道連れには缺されぬ人だ、それに本職が大工だから仲々話せ過ぎる。

今富村の入口迄は妙樂寺行きと同じコースをとり、國道との交叉點より左折して、今度は國道を東に進む、原川と河口を同じくして居る北川が江

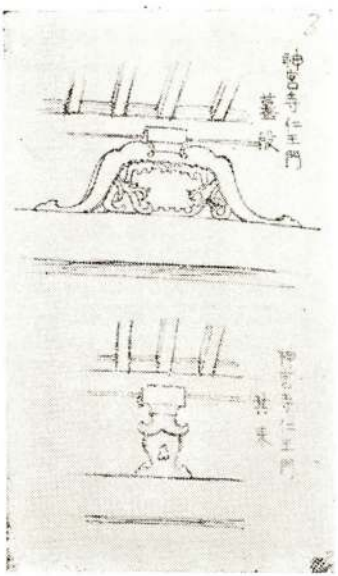
州境より流れて來て可成りの平野を作つて居る、國道はこの北川に平行して進み、先きの三宅村附近で敦賀に通ずるものと、熊川村を經て江州に通ずるものとに分れて居り、敦賀行の鐵道線も大體國道と平行して居る。

今富村より次の遠敷村に至る途中の田舍家は、殆ど瑪瑙工業をやつて居る、此附近では瑪瑙が可成りに產出するやうで、小瀨の海岸の砂中にもよく小片を見出す事がある。遠敷村は昔から遠敷郡の中心地だけに、郵便局もあれば色々な商賣屋が軒を連ねて居る、村に入つて國道は急に廣く、ゆるくうねつて趣のある街を下つて居り、汽車は近くを走つても停車場なき爲めにのんびりとして、昔の版畫の街の樣な氣分を保存して居るのはうれしい、自働車などは滅多に通らないらしい。

若狹彦神社
若狹姬神社

遠敷郡遠敷村

遠敷村の中程に國道の右側に下の廣い自然石を利用した立派な石燈籠があり、この横手が若狹姬神社である。境內は平坦だが杉の大木があり、山門、拜殿、本殿何れも餘り大きくはないが江戶末期位のものか、拜殿は小さいが木割も細かく天井は折上格天井で、スケールのよく纏つて居る事が特に氣持ちよく感じた。境內で元祿年號のある石



燈籠がちよい〳〵見付かつた。社務所に立寄つて記念に判を押してもらつたが、徑二寸六分で八咫之鏡の外廓を持つた立派なもので、集印帖を飾るものであつた。この神社は通稱下の宮で、奥の若狹神社(上の宮)と合體のものである。從つて社務所も合併して居り判も兩神社の名を併べてある、

現在は國幣中社である。

下の宮より國道に出ずに遠敷村の谷を南に入ること約十町餘にして宇瀧前にある上の宮に至る。杉の木立の中に緩い勾配の參詣道がつき、正面にやゝ左斜に向いた山門が見え、拜殿本殿が斜に右の方に木立を通して見える、建物の配置に於て先づ成功しだる神社である。山門拜殿は感心出來ぬが本殿は下の宮の流れ造りに對して此方は神明造りであつて、可成り大きくしつかりした建物である、やはり江戸時代のものでせらう。本殿のすぐ左手に廣さ二間三間位で深さ三尺餘りの水溜が掘られてある、周りの石は苔蒸眼て居るが現在は水も何も溜つては居ない、然し之が若狹の井戸と稱して奈良の三月堂の井戸迄通じて居ると云ふ有名なものであるとは思ひもよらなかつた、說明の石杭一つ立つて居ないのは幾ら名祈舊跡巡りが目的でないとは雖も、遠來のものにとつては少々物足りなかつた。

神宮寺（天舘宗）

福井縣遠敷郡遠敷村神宮寺

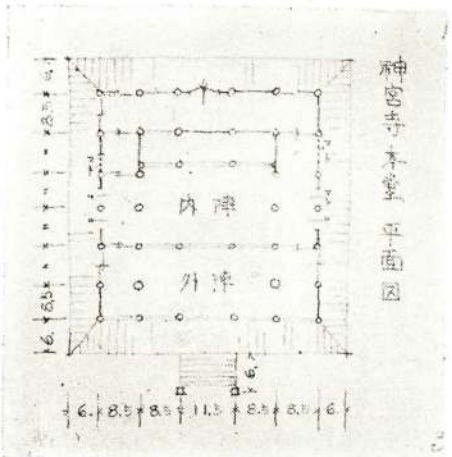
上の宮を出でゝ數丁、神宮寺の道しるべあり、之に從つて進む。實は今度小濱に來る數日前、七月の建築雜誌によつて本年四月十五日付でこの神宮寺の本堂と仁王門とが特別保護建造物の指定になつた事を知つたので、小潮行をして一層期待を多くした次第である。

仁王門　山にさしかゝる前、ふと眼の先に小さな八脚門を見出した、屋根は切妻造りであるが輕い假葺で、柱の上部で前後から丸太を以て支へてある、同行のI君より之が神宮寺の仁王門だと聞いて俄りに小さく貧弱であるのに驚いたのであるが、接近して細部を見ると仲々馬鹿にならぬ健實さを有し居る、斗拱、蟇股等のカーブ雄健にして背面には珍らしい簀束が使用されてある。（插圖參照）關野博士が鎌倉時代と斷定されて居るのは動かぬ處である。屋根の假葺であるのと荒廢して組物蟇股等が痩せて居るのは惜しいものである。

假路を登つて山麓に近づく、右側に二軒の坊あり、登り詰めたる處少しむくりたる廣場となり、偉大なる堂宇の前に出る。

本堂　もひどく荒廢して屋根は亞鉛引波形鐵板で假りに四注造りに葺かれてあるが、軒より下だけを見ても駄作でない事は窺はれ、堂の丹塗の色未だ失せ去らず、桁行五間梁間六間の大建築は屋根を犯されても平然として時代の推移を眺めて居る樣である。天文十二年の建立にして關野博士の說明を借りて紹介すれば……各種の繪樣繰形、皆能く室町時代の特質を發揮せるのみならず、向拜及び本堂正面の蟇股は、其内に巧麗なる各種の透彫を容れ、手狹も亦唐花の浮彩がある、實に當期を代表する有數の大作である。と遺憾なく之で云ひ盡されて居る。外部隅組物及蟇股の寫眞も建築雜誌七月號に出て居るから參照され度い。

丁度寺僧が内部の掃除中なりし爲め内に入る屋根がひどく損じたる爲める應急策としてトタン屋根に葺き代へ、天井も可成りに損じて居るので毎日土が落ちて掃除に閉口すると、建築雜誌に發表のものを見ると屋根四注造柿葺とあるが寺僧の話には以前な入母屋造りなりしと？



外陣には左口に特に太い柱を二本殘して中央二本は抜いて紅梁を架してあるこの紅梁の中央には上に了度柱の上部と同樣の太く短い束が乘つて居り、大瓶束の樣な綿バナも何もない天井はこの通り（表より第二列目の柱筋）迄を北粧裏として之より奥を小天井として内陣の須彌壇の部分で第五列目の柱を約一本半分程奥へ入れて眞逆ひを作つてあるなどは面白いデザインであつた。（平面圖參照）

住職は大阪へ出張されて不在なる爲に二軒ある下の方の坊（櫻本坊）に立寄り、本堂で話した坊樣に判を押してもらう、光背の形の中に梵字一字を入れた粗雜な野趣に富んだものと、靈應山根本神宮寺と云ふ文字の配列が前後して分り難い判とであつた。この坊の小さな藥醫門（一寸した庭にでもありそうな）は屋根は假葺であるが兩妻に大きな形のよい桃山式の簡單な蟇股があり、唐戸（高さ六尺餘り）は上部に桃山式の桐の模標をした透彫を容れてある、可成り痩せて缺けては居るが桃山時代の遺物に間違ひないであらうと寺僧に話して辭した。

神宮前は全てのものが屋根が柿葺であつて手入が屆かなかつた爲めに、何れも屋根が朽ちて居て假葺となつて居るのは惜しいもので、一日も早く修築に着手したきものである。（つゞく）

末枯や

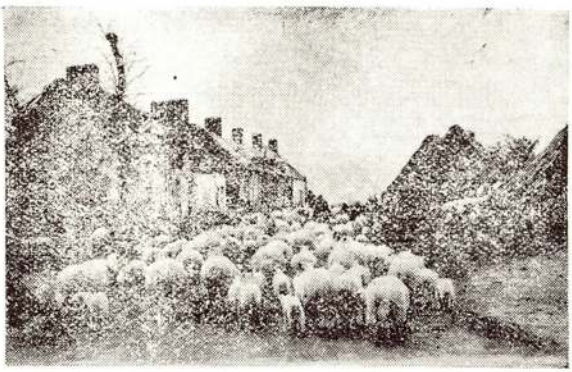
零餘子こぼるゝ

垣の

歐米の牧場を訪ふて

建築士　津田鑿

牧場の完備はどうしても歐米に一歩を讓ることは當然で是は食用や牛乳を多量に使用する關係から發達すべき自然の結果である旅行者の眼に映ずる牧場の隆盛は何れの地に行くも到底我國で見られぬ立派な想像にも及ばぬ程完全なもので馬匹の改良種牛の飼養豚羊鷄等其れ〳〵に發達しつゝあるのは羨ましい限りである牧場の經營設備は華美な仕事でない割合に少なからぬ經費を要し多くは國家的事業の部に屬するので可なり困難な仕事である牧草は蓬々と見渡しきれぬ程野の一面に植付られ森や小河を配景にして牛馬が長閑に草を味ひ羊を守る犬靜かに廻る風事を見る時は誰しも恍惚とせぬ者はなからう牧場をとりまく風景に牧夫や建築物のしつくり合つて居るのも懷かしいことで其美觀は泰西の名畫に能く見る其の儘で一層異國情緒を啜るに充分である。



（一）佛國田舍群羊の歸塲

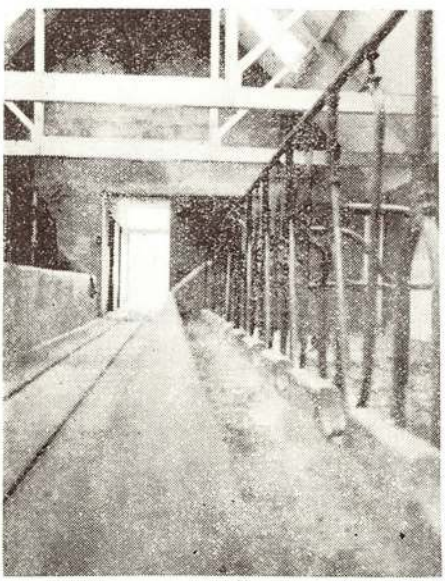
牧場の建築は特種のものであつて裝飾的の部分は少ないが決して簡單でない專門的に其れ〳〵面倒な要求であることは勿論で普通の建物に反して複雜な考慮を要する敷地は原野の大面積を必要とする關係から大抵自然に多少の高低がある、其の傾斜を甘く利用して建物の汚水排水處分を具合よくされて居る最も此の方法は木造では土　を段違にせね



(二)英國ニュウマーケット御料牧場場長官舍と陳列場

ばならぬ點が少しく面倒であるが煉瓦石鐵筋構造なれば容易で、敷地の傾斜に倣ひ地平均しをせず其儘に家を建て自然流水の便を謀り汚物の停滯を防ぐ事は良案である凡ての點が此の調子に研究改良進歩せられて居ることは確かに首肯せられる。

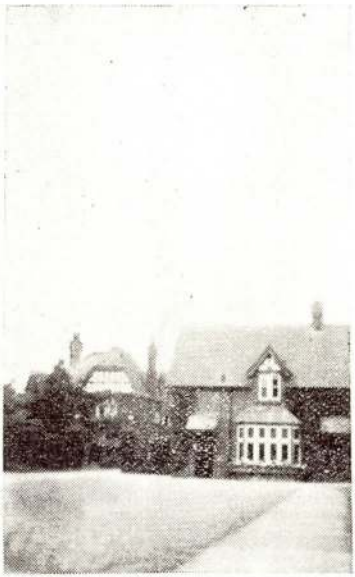
高舍の單獨に各動物の種類別に應じて散在されて居るものは管理には少しく手數を要するも傳染病や非常用の豫防には利益であり、又反對に一棟の中に雜多の動物を集めたる集合蓄舍多少娯樂的であるかも知れぬが此の方法で相當に大仕掛のものを見受ける其れは數百坪の建物を區分して動物に應じ、其々特別の構造が施され、此等連絡統一の設備も又完全して頗る要領を得られ放牧から歸る畜類を小舍に入れる際水溜に追ひ込み四方から洗滌する場所や野天の內庭を設け特別の場合に使用し家の庇下を利用して飼料槽を取付け或は事務所雜具荷車農具を入れる庫の連絡に建物內の隅々



(三)牛舍「スタンチオン」

迄レールや荷物運搬器を使用して運搬を助け動物に缺く可からざる大切なる飼料置場の種々なる考案機關室の必要は元よりバタ製造所時として講習用の模範を示す研究室の完備する等何れも農事に對して至れり盡せりである。

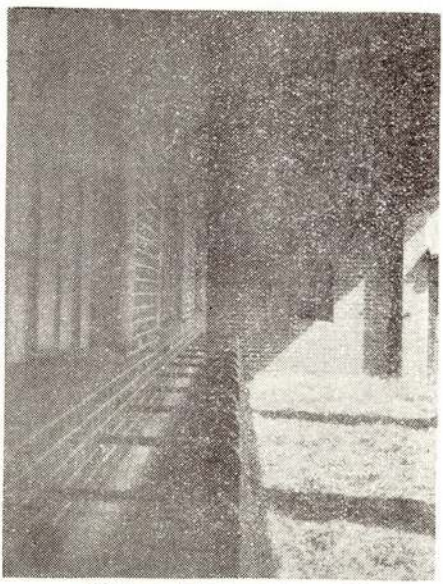
畜舍の高塔に時を知らせの鐘を鳴るのは惡い氣持でない同じ持主の農場にも舊式のものと最近新築中のものとは比較上非常の差があり、エレベーター電動力と思ひの儘に用ひられ想像も及ばぬ事である、特製の建築材料假令ば屋根の明り取窓に硝子張りの替りに瓦と同形の硝子瓦を嵌込み床叩



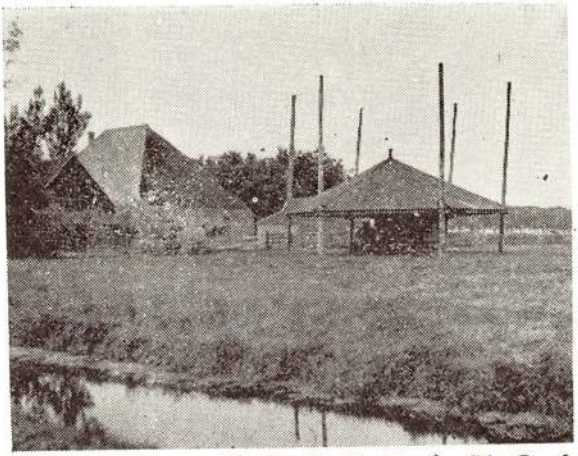
（四）米國木造の「サイロ」

きの尖端に用ひる敷煉瓦に動物の爲めに足當りよきやうに角を丸めたもの又は腰の張り付け煉瓦等其々場所に應じ造られある之等は到底需用者の少ない我國の農場には、ひ難きもの計りである。

産室の設備に完全なものが應々見受けらるゝ小舍の隣室に番小屋を置き戸の上に硝子を嵌め窃かに動物の樣子を窺はれるやうに尚且つ番人宿泊に差支なき用意迄あるのは如何に動物に對する注意が遺憾なく行き屆き居るかを證明するに充分であ



（五）床を下した利用する飼料槽



（六）　オランダー農場乾燥枝草置場

る、空氣抜きの如きも種々工風されて蠅を防ぐ爲め入口に網戸を用ひ一般に不潔なるべき牛舍の如きが甚だ清潔で廊下に○屑を敷いた床を踏む心持ちは良いものである牛舍木製の仕切或は木柱の替りに金物が甚だ精巧に造られ牛の飲用水自動器同繫金物豚舍飼料箱種々斬新なる裝置が數づ限りない。

風車と共に農場の徴象を顯すサイロが到る處に煉瓦或は鐵筋混凝土で建設され且つ氣候と材料の關係から米國には木造のサイロが多數を占め其の數も一又は二、或は四と建物の一端に又は中央に連續されて取扱ひと又經濟に甚だ使利なものが流行して居る牧草の積入に地止より電力注入器を以て切りながら吹き込む有樣は壯觀である。

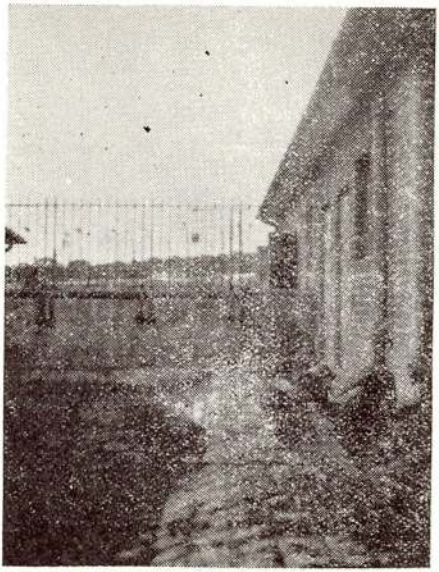
場内に附屬する住宅の庭前から放牧の樣子を眺める事は愉快で嬉々として遊ぶ動物が人を見て懐しげに集り來る有樣は實に農場情緒の表現であらうニューマアケットの牧場長の庭前に馬の馳せ上られぬ程



（七）　ス コ ツ ト ラ ン ド 農 場

度に土を四尺程態と勾配に掘り下げ堤防が柵代りとしてある爲め馳せ來る馬の胸が丁度土手に當り庭先き迄は近寄れずとも眺める人は遠くより眼障りなく遙かに馬の運動を味はれるのは面白い考へである、頗る荒つぽい仕事をする樣な農場にも又趣味的の設備が窺はれる。

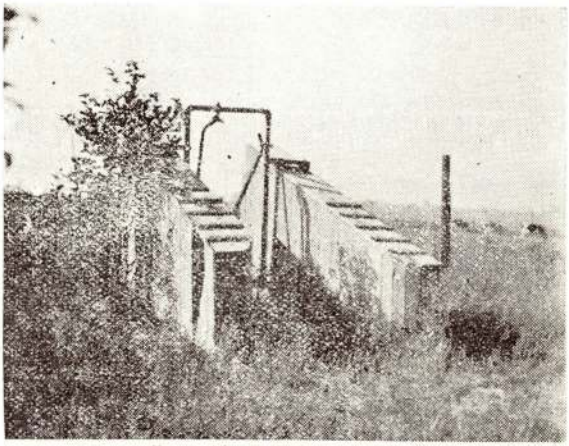
同所の事務所には歴代皇帝の使用された歴史的馬具調度品を陳列され偉觀であり、且つ昔から産出した馬の種類や良馬の最も大切の誇りとする血



(八) 豚舍丸形の敷煉瓦

族關係を表して現在に至る迄の統計表或は價格を示して居る或は殺風景なるタンクを隱蔽する爲め樹木と蔦かづらを植へ込み風致を添へたる牧場の一隅等枚擧に遑ない程である。

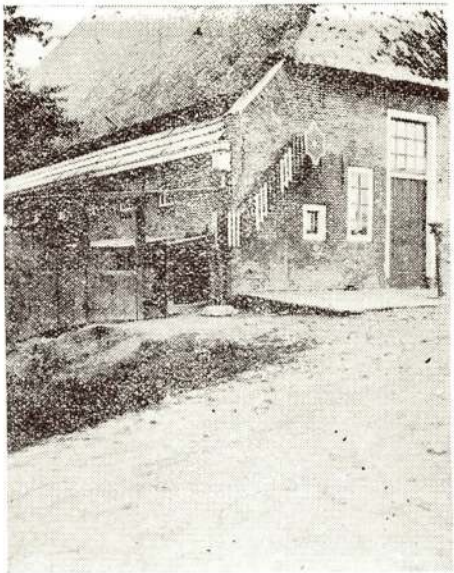
米國は例により何れも機械萬能主義で凡てを其れで驚かし大仕掛である歐洲戰時中輸送の爲め農場附近の停車場にシカゴストックヤードに有る樣な緩勾配を附けた長いプラットホームを特別に造つて汽車に動物を積込むに用ひ今も未だ其の儘に



(九) 米國農場付種場

なつて使用されて居る生物を運搬するには此の位の設備が當然で不完全極まる我國の鐵道貨車積込怪しい解船は寒心に耐へない。

動物の人に馴れ親しむ事は事實で能く人を見分けて可憐なもので子供が犬を先頭に山羊の群と堤

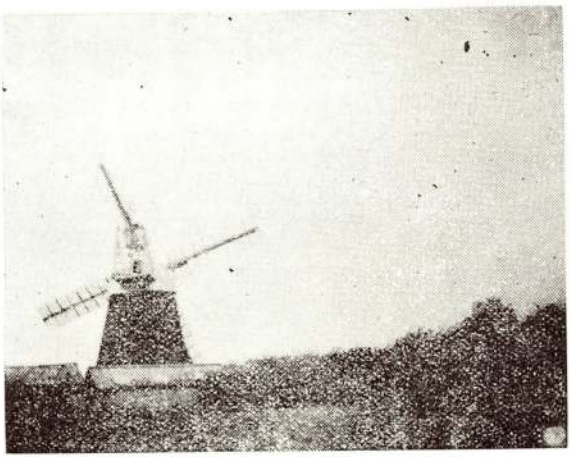


（十）オランダー の鷄舍

を逍遥するのや羊飼の歸場童子が水牛の背に乘つて居る有樣なぞ畫題は到る處に豐富である。

世界的に農場用の器具を一手に賣捌くルーデン會社は實に盛大なもので牛舍の空氣拔き或は牛を繋ぐ枠建物に附屬した牧草運搬器から種々なものを取扱ひ注文者を附近の農場に案内の勞を取て實地の説明をして呉れる其機敏には敬服の外はない

製乳所で牛乳消毒より瓶詰め封印して賣り出す迄皆機械の力で其れが却つて人間の手より遙に優つて居る設備を有する所もある、各所の牧場を參觀すると實に親切丁寧で時に一巡後冷藏された新鮮なる牛乳は乾いた喉を潤すに甘露の味がある。



（十一）オランダー風車

農場の生活それは羨ましい程長閑で人生の最も幸福のものゝやうに自分には思はれる人里離れた自然の天地に森を越して彼方の村から幽かに流れ來る平和の鐘の音に渡りつゝ懐かしい多數の動物を友としながら靜寂な而して清純な生活は只華かな都のそれに比して幾倍の勝れる恩惠であらうか實に生の爭闘を他に緑の牧場に立ち昇る厨の白煙屍舍を斷ぎ出る馬日暮なんとして歸り來る羊の群さては和蘭風の風車など泰西の名畵其儘を見る時誰れか之れに憧憬せぬ者があらうか歐米農場の眞景は到底吾等の禿筆には描き盡せぬ情趣である。

寒月や早寢しづまる坂の町

時雨るゝや山村稻架に干して

寒枯や田つくりに渡る向ひ島

それからそれへ

建築春秋

三島没虚

×

『それらしく見えること』は、決して、そのまゝ藝術ではあらぬ。見えることは在ることではない自然らしく見せかけられた繪が優れた美術品であつた時代は、すでに博物館の奥深くへ過ぎ去つてゐる。藝術は、決して、自然らしく見えた不自然ではない。藝術はまた藝術らしく見えることに依つてその價値を高めるものでは斷じてない。藝術は『らしいもの』の一切からその本質的な交涉を斷つものである。從つて、藝術家にとつての最初で最後の致命的な誘惑は、『それらしく見えること』である。

或る程度の明快な頭腦だけで模倣され得るもの模倣は充分能き得る。類稀な技巧だけで、それらしく見せかけることは能きる。疲れを知らない肉體的な勇氣を與へられた者は、過重な天才に懶怠にされた者よりも天才らしい仕事を大量に仕上げ得るだけの根氣を有つてゐるものである。而も模倣は遂に表裝にのみで終るのを恒例とする。表裝は遂に實質ではない。表裝に終始した世界が藝術の世界ではあらぬ。『それらしく見えること』は遂に藝術家の人間としての生活意欲であつてはならぬ。流れに漂ふ蘆芥のやうに、『それらしく見えること』の効果をのみ求めて自らの作品を安易に市場へ送る全らゆる作者は、都會で嘉ばれさうな精巧品のみが藝術品であるやうに邪信してゐる近代の所謂文化人とその軌を一つにしてゐる道化者にしか過ぎない。『それらしく見えること』から勇

氣を以つて去ることからのみ、まことの生活が私達に創められなければならぬ。

そこには、作者自らがその自らの實生活へ對つての熱望の清さと深さとが要望されなければならぬ。人間性へ對する極度の愛執乃至要望が、彼の藝術を色り香り高くしなかつた例はあらぬ。人間であることが深ければ深かつた程、彼は優れた作者であることが能きた。正しき生活者の藝術は正しき藝術である。創造の美と喜福とをまことに味識する者は、その日夜を謙虚を祈り心をもて、人間性への清純な愛執をもて、愼ましく眞摯に迎へた人々である。フラ・アンジェリコの繪のもつ美と純情とは、彼の生活のもつた美と純情とであつたに相違はない。透徹して、人間性の奥底に觸れよ。藝術の輝きは『それらしく見えない』ところから光をはなつ。

×

如何に强暴な反逆的な希欲の果てに於いても、結局は、私達がこの限られたる現象の世界から完全に自由であり得ない限り、私達の有つ藝術は畢竟この宇宙の意欲を生かさうとする貧しき試業にしか過ぎないものであるが、建築は他の全らゆる藝術に於けるよりも確に深く汎く、この宇宙の意欲をその全らゆる面に於いて生かさうと希書する藝術である。從つて、在來から傳統されて來た常識のやうに、建築はこの現象の世界を恣に額緣を嵌めて醜く切り離したものでは決してない。勿論現象の世界の模倣でもある筈はあらぬ。他の如何なる藝術に於けるよりも、建築に於いては物體の模造を量と面とが問題とされなければならないためその取扱ひに際しては、その主題に於いても表現に於いても極めて眞摯誠實であらねばならぬ。が現象の世界を寫實することによつてのみその効果を得やうと焦燥し、誤つて人間性の本然を幽閉し窒息せしめてはならぬ。安易な感覺の虛構や寫實的模倣の探求のために技巧的瑕疵をのみ氣にかけ藝術の本然を忘棄して細部の精巧のみに誇り、外貌の類型のみに拘泥するところ、そこに、正しき建築の要望する構造の堅實なる美はない。藝術は、言ふまでもなく、感情の經驗を通して働きか

けるのであるが、その本然の性は、決して、變轉極りなき外貌の相をではなく、永劫不變の秩序ある靜謐なる内質の相を表現しやうと企圖するものなのである。街揚的、煽情的であることがすぐ藝術の効果ではない、過重に表現を裝ひ、詭計を構造に加へて、尊嚴と純美とをそこに求めることは能きぬ。シユミツトは、藝術的意欲を度外視して寫實性を主とする單なる表現能力の側からのみ藝術を批判することが、イタリアルネサンスの置的理想から導き出した一個の偏見であることを指摘し、ゴシック時代や現代の美術をかうした一面的な形態美の理想の規準からのみ判定することの許されないこと、エジプト、印度、支那等の偉大なる文化や、ビザンツ帝國、ロマネスク時代の超感覺的な作品に對して、從來のヨオロツパ人が拙ない初心者を見る高慢な同情を以つて對つて來たこと、宗教的、藝術的精神の最も強い啓示をもつ彼等の勞作を『正確さ』とか『眞らしさ』とか言ふ規準で測らうとするのは、生物を機械と比較する程の愚であること等を切言してゐる。寫實はすでに常套である。模倣はすでに陳腐である。藝術の本然は内に深く潜む。内質の美は最後のものである感せらるゝ世界は、常に、見える世界よりも汎大深遠であることを忘れてはならぬ。

×

新しい酒は新しい革袋に盛られなければならぬ新しい認識は當然新しい出發を要する。新しい出發には必ず新しい表現を要望されなければならぬこの意味に於いて、彼の血氣に昂奮した若き未來派が、『遂に神話と神秘的理想は征服された。』と喚叫して、躊躇なく彼等の新しい表現へ進んだ勇氣は、彼等の運動がすでに死滅し果てたる習俗的なる美を單に惑亂させるに停まつた罪果を相殺して餘りがあるやうである。

『世界の榮光は一つの新しい美、即ち快速の美によつて富まされたことを宣言する。』一九〇九年二月二十日、ルフイガロで發表された彼等の『未來派宣言書』は叫ぶ。『實に博物館や美術館や圖書館（これ等甲斐なき努力の墓地、これら十字架に架けられたる夢の儀刑の地、これら破れたる努力の、

帳簿）に日參するのは、藝術家にとつては、頭腦明晰自らの才能と野心に燃えた意志とに醉つた若い人達にとつての、親達の長びかされた保護と同じである。……瀕死人や不具者や囚人達はそれでいゝ。あいつ達には未來は禁ぜられてゐるのだから。讃美さるべき過去は傷に對する鎭痛劑なのだらう。然し、私達、若く、強く、生き生きしてゐる未來派はそれを欲しないのだ。……然らば、赤熱した指を有つたよき放火者よ來れ！……さあ、彼等は來た！來た……されば、圖書館の柵へ火を點けよ！美術館の墓穴を水で浸すために運河の流れを向け換へろ！おゝ！光榮ある畫布の漂流するさまよ！鶴嘴と鐵槌とを持て！都會の礎を毀て！……』

習俗的なる美はすでに後期印象派の畫家達によつて完全に打滅せしめられてゐる。彼等は對立的に美を求め、認め、その美を意識的に再現しやうとするやうな人工的過程を採らず、無限に單なる美であるものよりも重大なる表現への新しい道程を開いた。彼等は純美ならざる非要素的なる一切を排棄し、そして單なる事實をのみでなく、生命の跳躍する効果を與へやうと企畫した。彼等がその感覺を表現する時は、素描或は色彩は主として用ゐたのではなく、從として用ゐたのであつた。そして、在來的に呼び慣はせられた醜は、美が他の相貌をとつて現はれたものであることを彼等は確心し主張して止まなかつたのである。

美は常に新しい創見への道を歩む。美はすでに力強い誕生を告げ初めてゐる。近代の美は當然近代の表情をかりて動く、未來派が快速の美を主張したのは確に一つの識見と言つていゝ。そこにはすでに神學生の考へるやうな因襲的な崇高さは見出せないかも知れない。だが、衣裝をつけすぎたる悔恨や、敎養されすぎたる悲哀は、こゝにはすでに姿を消亡せしめてしまつてゐることは眞實であらう。新しい酒はすでに發酵した。新した革袋を作り得るものは、果して誰であるか。

×

『人の仕事は全て自我の默示である。』新しい美の世界を創見するには、進んで未開の兒となるより

他に道はないと信じ、自ら求めて眠れる野蠻人となつたゴオガンは言つた。『他人より學んだ全らゆることが私には阻害となつた。事實、私は知ることが少い。しかし、私の知つてゐることは、私自身のことである。』

藝術は全らゆる意味でのその環境と時代とへの啓蒙運動であるため、極めて廣汎なる普遍化を要望して止まない感覺を有つものであるが、この普遍性は、決して、その自我を沒却し、その特質を奪ふことに依つて得られる程度の通俗化を意味するのではない。優れたる藝術の具有するところの本質的なる正しき普遍性は、その環境と時代とを厭くまでその自我に依つて着色し、擴充しやうとする藝術の獨裁性と矛盾し合ふものでは決してない。徹頭徹尾、藝術は、唯、その自我に依つて生き、生き通さうとする。藝術の世界に於いては、疑ふまでもなく、存在するものは唯自我のみである。藝術運動は自我運動である。表現の明瞭さ自我の敏感さである。内質の深刻さは自我の確牢さである。從つて、唯その環境と時代とに卑しく諂媚して、藝術の普遍性のみに凭頼しやうとするのはすでに錯誤である。藝術は單なる主題ではないと同じく、單なる生活の説明や、信仰の宣言や、愉樂の誇示等である要はない。人生の安易な解決である要さへない。最後まで藝術は自我の表現である。自我は解決ではなく、發展である。トルストイの美學が偉大なる偏狹に禍ひされてゐるのは彼があまりにも藝術の啓蒙的効果を信じ、普遍性の過價値に心醉し去つてゐたからである。

『藝術には』とゴオガンは再び言つた。『唯だ革命者、しからざれば、剽竊者あるのみ。』

×

藝術の偉大な法測に就いて、ブレイクが語つたところは次のやうな數語であつたさうである。『即ち、境界線がはつきりして、鋭く、強くなればなる程、それに比例して藝術品は一層完全になつて來る。この結定的な境界線を劃する形式が缺けてゐることは、即ち、藝術家の心に何等かの缺陷があると言ふ事實を立證するものである。』

身體は子供のやうに細つそりと華奢にできてゐ

て、腕はデリケエトで、また、手頸や踝などの關節は殆んど柔軟であると言つてもよい位であつたニジンスキイの藝術の中で、一番際立つて、而も一番稀に見る資質の他の融合は、ウイツトウィースに依れば、『裝飾的効果と言ふ點を決して忘れずに、運動を全然自由に融合する事である。運動の自由は、疑ひもなく、練習によつて贏ち得られるそして、立派な演出者は、舞踊に對する主要な姿勢が自身を矯正して、充分、審美的にされるやうに目論むであらう。然し乍ら、獨りこのニジンスキイにあつては、姿勢は要するに教えられて習んだと言ふよりも、寧ろ本能であつたやうに思はれる。從つて、最も狂暴的な運動に於いてさへも、輪廓に對する彼の感覺は決して失策することがない。如何なる運動に於いても、彼の半面像は——何人にもわかるやうに——いつも美しい模樣を形造ることが能きる。然らば、今そこでニジンスキイの樣式と彼の屬する同じ一座で一番優秀な他の舞踏家の樣式とを比較して見ると立證されるやうに、これは、結局、決して單なる敎練の問題ではないのである。私の信ずる所、これは——彼の藝術に對して或る人々が實際にその極限であると解釋した——あの最高の優雅さを賦えた所の、外廓と言ふことに對する觀念であるに相違ない。』

舞踊はすでに線と外廓とを高く超えた藝術である。音樂の鋭感な流れのやうに、舞踊の纖細な流れも、その表現への出發に於いて、すでに表現の線を有たうとしないのが本然の姿である。線の輪廓との効果が舞踊の効果であつた時代は、すでに去らうとし初めてゐる。而も、ニジンスキイは自らの肉體の線と輪廓とに、かくも敏感鋭情であつた。表現は彼にとつては、すでに、線以上であつたにかゝはらず、彼の藝術意欲の深さは、すでにその輪廓以内に沈潜してゐたにかゝはらず、彼の感覺は常にその線の表情に極めて鋭敏であつた。而も彼は單に外貌の裝飾的効果に拘泥したのでは決してない。線の表情を、彼の魂の呼吸と唯一不離なるものとしたに過ぎない。建築家が線の本然の性狀を忘れやうとする時代が、すでに、世界に初まらうとしてゐる。すでに失はれたる線に、必

す、誠實であれよ。瀕死の線に正しき呼吸を與へよ。表現を本然にかへせ。美はそこに得られるであらう。

色彩の住宅への効果

苦しく惱ましき力戰の果て、印象派がその完全なる凱歌を奏したのは、一八八〇年以後のことであります。マネエは優れたる天才と歌はれ、モヂエは選ばれたる革進家と賞されました。彼等は藝術に科學を結合することを希圖し、色彩を科學的に研討し、詩集或は繪畫史をではなく、色彩に關する科學書を讀み耽つたと言はれてをります。色彩の知解、調子の分解等がここに提案され、かうして、色彩の分析が初められたのであります。即ち、十九世紀後半は藝術家達に依つて色彩が科學として發見せられた意味深き時代であります。色彩の藝術への効果が科學的の證明を必要とするか否かは、少時ここでは問題外としますが、色彩の雰圍氣的効果がその全らゆる意味に於て重要な地置を私達の文化史上に於いて獲得し初めたのが、この時代以後のことであるのは注意に價ひします

線條の性質が意的であると言はれてゐる反面には、色彩は情的であると言はれてゐます。理智の冷たさは色彩には見られないとされてゐます。何よりも先づ感覺を通して、色彩は私達の心情へ直接な響きを傳へます。如何なる色彩も私達へ心理的な印象を與へないで消え去らうとするものではありませぬ。從つて色彩の私達の心情への全らゆる意味での寄與は、私達の魂をまで動かさうとしますか、色彩の純然たる物理的印象が極く表面的で、且つ一時的であることは多くの識者も指摘してをります。色彩が感覺を通して私達の心情に計り難く深大な感激を與へるのは、私達の經驗、暗示、連想等に訴響するところにあると斷定して、大きい誤差はないやうです。例へば暖い赤色は火焰の色ですから、火焰を見た時と同樣の暗示的刺戟を心情に與へ、他の赤色は流血を連想させて苦痛乃至嫌忌の情感を惹き起します。而も、暗示乃至連想が決して一定してゐるものではありませんから、色彩の感覺的効果を充分豫測することが能

きないことをカンデインスキイも言つてをります彼の引用した例に依ると、ある患者はソオスを食べる時はいつも青色を見てゐる時の感情を經驗しアンコウスキイは色彩を聽き音響を視ることが能きると言つて、自然の色彩で音響を書き、自然の音響で色彩を聽く工夫ををして成功し、スクリアビンも又アンコウスキイと、同樣な圖表に音響と色彩とを對立せしめて色の音と音の色とを示し。『プロメテウス』の實演でその學說を立派に證明してをります。こゝには感覺の約束を越えた本能的な心情、或は反本能的な心情の動きがないとも限りませんが、色彩の眞の效果が魂へまで鋭く及達するものであるのは眞實です。

色彩の最初の心理的印象は、明色、暗色及び暖色の區別寒色を採るものとされてゐます。暖明、暖暗、寒明、寒暗の四種の表情を以つて、色彩は運動します。光を反射する色彩は明るく、一體に暖色であるとされてゐます。光を吸集する色彩は從つて暗らく、寒い印象を有ちます。反射と吸集との兩極端は白と黑です。白は明色に傾き、黑は暗色に傾きます。この二色の運動はいづれも亂調子でありますが、白は永遠の亂調子で未來に對する可能性を有つてゐるため『誕生』を意味し、黑は絶對の亂調子で未來への可能性を有つてゐないところから『死』を象徵するものであるとカンデインスキイも言つてをります。光を多く含んだ色彩ほど、明るい色彩であるとされてゐますが、即ち、白を多くそのうちに有つものは明色です。暖色は黃に近く、寒色は青を含みます。その性質は一方は肉體的であり、一方は精神的であると區別され得ます。即ち、暖黃色も寒青色も倶にその運動は私達にとつては電燈の光線の如く橫線的放射でありますが、暖黃色の場合は外へ發する貌をとつて私達に向つて行はれるために肉體的であり、寒青色は內に集る相をとるために精神的であるとされてゐるのです。

白が純潔、貞節、誠實、信仰、謙遜、喜悅等を象徵するものであることは、すでに私達の常識です。白は全ての色の消滅した世界の象徵、誕生前の偉大なる沈默、氷河時代の世界の沈默であると

カンデインスキイが言つてをります。時として薄弱、虚空な感じを伴はうとしますが、この色は神聖な天國的な意味をもつものとされてゐます。白百合は純潔な處女性の象徴と賞揚され、復活のキリスト及び聖母昇天の衣服は白衣で描かれます。装飾上にも尊い効果の深い色彩であるとされてゐます。

黒は深遠な感じを有たうとしますが、最も後退する色彩です。死、悲痛、恐怖、哀悼、失意、秘密、罪惡、憂鬱等を示さうとします。時として、尊嚴、謙虚、壯重等の表情を有つことがありますが、多くは夜と暗黒と罪惡との雰圍氣効果を有ちたがります。惡鬼、夜神、死魔、錢神等は夢幻劇の世界へ必ず黒の衣裝で現はれます。装飾上には必須な色彩で、全らゆる他の色彩とそれぞれ特異な意味深き情調を醸成します。他色をつゝめて明るく見せやうとする性質は、黒の雰圍氣的効果の極めて重要なものであることを證明してゐます。

赤の効果的生命は、何よりも先づ、その煽情的な刺戟の強烈さにあります。破綻と完成とを同時にその懐に抱いてをります。その魅力は昂奮の魅力です。未開人と子供と動物とがこの色彩を愛賞するのは、その刺戟が好戰的で、遊戲的で、明るく暖いからであります。即ち、赤は血の色、火焔の色であつて、戰戟、爆發、危險等の信標とされてゐます。又同時に日輪の色でもありますから、革命、情熱、戀愛、心臟、赤誠、勇敢、健康等の象徴ともされ得ます。深紅の度が強くなればなるほど、その有つ感じも深刻となります。装飾上に於いては、その派手やかな効果に信頼しすぎて、過度に用ゐてその効果を自滅させないだけの深重な考慮を拂はなければなりません。澄明鮮紅は純潔な情愛の象徴となりますが、濁つて暗らい赤は黒のもつ以上に陰慘な地獄的な色感を有つてゐます。唇の淫らな赤は、聖女をも毒婦に見せます。デリラの唇の紅は、サムソンをも惑殺しました。赤を卑しく重用してはなりませぬ。

黄の運動は外向的であるため、その感觸は極めて地上的で、深くはないとされてゐますが、流手で、陽氣で、快活で、暖やかな色感を有つてゐる

のは事實です。最も光に豊かな色彩で、明るさは白に亞いでゐます。純美な黄は光明、高揚、豊饒善、信頼等の象徴とされてゐます。装飾上には、如何なる他色に並配されてもその効果は貧しくなく、極めて重要なものであるとされてゐます。唯混濁した黄は嫉妬、自嘲、蔑視、不信、衰弱等の不快な色感を有つものですから、それの取扱上には相當な考慮を拂ひたいものです。強調された黄はヒステリカルな亂れた叫びをあげます。黄は無責任な色彩だと言つた人があります。

青は空間や大氣の色で、極めて深く高い天上的な表情を有つてをります。威嚴のある安靜と、危險のない深さとを現はしてゐます。派手やかな誇示や唆情的な刺戟は有ちませぬが、恒久的な、未來的な落ちつきある靜かな色彩で、その色感は極めて思考的で、瞑想的であります。鋭い輝きもなく、安易な暖かさもありませぬが、眞理、無限、神聖、誠實、敬虔等の情調を表象し得て瑕瑾はありませぬ。黒くなればその悲愁と痛心とは一入深く重くなり、白くなれば幾分明るく暖くなり得る性狀を有つてをります。古代の藝術的表現に於いて、皇帝や豫言者の光背は黄金色でありましたが象徴的な人物の光背は青空色を用ゐられてゐますメエテルリンクが『青い鳥』の中でこの色彩を眞實の象徴として取扱つてゐるのは有名な話です。青は夢幻と神秘との母胎です。装飾上に於いては、空漠で寒冷な雰圍氣を生みますが、大低の他色と安全に調和し得て落ちつきます。壁布や、背景に愛用していゝ色彩です。

綠は黄と青との複合色で、黄を寒色としたものと見ることが能きます。青に比べては地上的な明るさと光とを有ち、安易で靜平な印象を與へます厭かれ易い色彩だとも言はれてをりますがその色感は極めて和やかで、快く、爽やかです。青が多くなれば冷たく沒刺戟になりますが、その冷たさは青のやうに哀しみと憂ひとを有たず、黄が多い場合は明るさと力とを有つて暖くなります。最も調和的統一的な色彩で、自然界にも最も多く、青春、希望、柔和、繁榮、悦樂、正義、博愛、名譽豊饒、多産等の明るい意味の象徴とされてをりま

す。靈魂の色と呼ばれ、赤の色の王に對して、色の女王と賞されてゐます。天使はこの色の裝ひをします。纖細で、音樂的で、空想的で、女性的であるため、裝飾上に於いても極めて汎く愛賞されます。光や熱を和げる目的には最も適合したいと色彩です。

橙色は黄に依つて人間性に近づけられた赤で、赤ほど反逆的な揚熱を有たず、黄のやうに神經質な光も含んでをりませぬ。赤を外方へ突き出さうとする性質を有つてゐるため、時として燃えた火焔の連想を呼びますが、仁慈、清淨、智欲、理想結婚、新家庭等の感色を與へるのを常例としてをります。聖フランシスは常にこの色の裝ひをしてゐます。裝飾上に於いては高貴で落ちつきをもつた親しみ深く好ましい色彩であるとされてをります。凡調な部室等に極く少量に用ゐられて、強い効果をあげることが能きるやうです。

紫は冷たい赤だと言はれてをりますが、青と赤とが、同分量に複合された時は無寒暖色となり、赤が多くなれば暖かくなる性質を有つてをります青によつて人間性から遠くされた赤ではありますが、黒の與へる感觸に似た表情を有ち、重々しく壯嚴な印象を與へるため、帝王の權力、高僧の威嚴等の象徴とされて、古來から彼等の衣服として用ゐられて來た誇りやかな歴史を有つてをります高貴な色彩ではありますが、殉教、忍屈、悔恨、悲痛、哀傷等を有つてゐるため、裝飾上での効果はあまりに私達の期待に沿はないのを例とします女性的で殉情的な薄紫以外には多く部室には用ゐられませぬ。

褐色は無感覺で、活潑な運動をしない後退的な色彩であるとされてゐますが、暖調で、快活な氣分を與へるのを普通としてゐます。如何なる色とも充分調和してゆかうとする性質を有ち、柔和で謙虚で愼ましい色感で私達を落ちつかせます。その澁さは色彩上に重要な位置を占めていゝものです。荒廢、自棄、老衰、蹉跌等の表象ともされますが、裝飾上には暖い上品な配色をして、棄て難い雰圍氣を釀成してくれます。

灰色は活動力を有たない二つの色彩から成立し

てゐます。一つは壁のやうに不動で亂調であるし他は亂調で而も底知らずの坑の如く不動の空虛であると、或る識者が斷言してをります。佗しく沈靜な氣分です。霧園氣は黄昏の有つものと同樣です。絶望、失意、哀傷、悲痛、逃避、嫌忌等の象徴とされてをりますが、澁味と上品さと深さとを有つてゐるため、裝飾上の効果は相當重いものがあります。性狀は白よりも黑に近く、色感は冷く暗らくならうとする傾向をもつてゐます。

色彩はその置かれたる場所に依つて、その美の表情を恣に變へ動かします。病的な落ちつきと歪んだ眩暈との中で畫かれたエドワルト・ムンクの繪の亂れと暗らさとは、主として彼の使馳した色彩の亂れを暗らさとです。彼の恐怖は色の彩恐怖です。色彩への充分な理解と愛とを有たないで、色彩の効果と約束とを過信し蔑視してはなりませぬ。調和と對照との賢き配分が必要です。室内裝飾家は先づ優れたる色彩家であることを要します色彩の感情とその効果的調律との一致融合のみがアニマル美を生みます。色彩は音響と同じく、極めて奏節的な活動をしてをります。住宅に於ける全らゆる美は、色彩のこの節奏的な活動と同じ波動を書きつゝ生活し、死別します。全らゆる室内に於いて床は濃く、壁部は薄く天井は極く薄く彩色しやうとする最近の傾向は喜ぶべき傾向です。光線のよく入らない室内は暖色で塗ることによつて明るくすることが能きます。また、暖色が最も永く變色しないでその美の効果を保つものです。薄綠、薄紫、薄黄等のやうな纖細な色彩は變色し易いものですが、住宅を大きく見せるためには、その外部の色彩を極めて薄くさり氣なく塗ることが必要です。黄、赤、橙色等は前進的な色彩であるため室内を小さく見せることに成功し、鼠、藍、綠等の寒色は後進的な活動をするため室内を大きく見せることに効果を有ちます。暖い情緒を惹き起したい冬の部室や陰鬱な部室には、黄や赤や橙色の少量を、明るすぎる夏の部室や廣散な部室には綠や青や灰色の適量を、それぞれの壁、カアテン、家具敷布等に用ゐらるべきものです。綠と橙色との優れて高尚な配置、薄紅と薄紫との邪氣なく和や

かな配合、黄と桃色との暖かで穏やかな配色青と白との爽やかで快揚な調和、或は灰色と青との雅く厭味のない調色等、時と場所と用途とに依つてそれぞれの色彩の有つ感情を充分誤算なく生かし働かせなければなりませぬ。色彩は極めて敏感に動かうとします。その醸成する雰圍氣は、極めて鉛妙に私達の魂にまで、全らゆる美の感情を送らうとします。高き鑑識と深き理解と、優しき同情とが、ここに求められなければなりませぬ。

言ふまでもなく、色彩はそのまゝ美の本質ではないかも知れませんが、美の天使であることは疑ひ得ませぬ。美から來る深き永劫の眞實を私達は多く色彩を通して聽きます美へ寄せたい共鳴の喜悦を、私達は多く色彩を通して寄せます。色彩の私達への心理的効果が唯單にその刺戟にのみないことは言ふまでもありませぬ。美は神の永劫と倶に輝きます。藝術は美と生死を倶にします。色彩は從つて、また藝術の天使でもあります。最も親しく美の本質と倶に輝くものは色彩です。古人が美と色彩とを混錯して考へてゐたことは決して無理ではなかつたと言へるでありませう。

我が荷ひし

柴にさしたり

冬の月



創作

踊る女の耳

柿の舍主人

今も、自分は決して變態性格者ではない。唯、單に氣まぐれな書室であつたに過ぎないのだ——時々氣嫌のいゝ時は自分の狹い書室でぼんやり考へ込んでゐる外には、或る歌劇の舞臺裝置をする仕事を毎日の仕事にしてゐる書家である友人が、こんなことを言つて初めから辯解し乍ら、筆者に話して聞かせたのである。

——おい。直ぐ行かう。汽車の時間の都合はいゝか知らん。

自分はこんなことを早口で言ひ乍ら、不意に書室の椅子から立ち上つてしまつたのだ。何だかやるせなくて、とてもやりきれない氣かしてゐた。

——どこへさ?——と、自分の相手をしてゐた槇尾が幾分度を失つて、今更ららしく自分の顏を

見初めた。

——停車場へさ。

——停車場へ？

——家を見にさ。

——家を見に？

彼がこの時妙な顔をしたからつて、自分は彼を不快がらうとはちつとも想はない。久しぶりで自分を訪ねてくれて、例の癖で大きく笑つて、これから愉快に話さうとし初めてから、未だ、コオヒイをたつた一度代へたゞけだつたのだから、彼が自分の擧動に吃驚したのは、當然だつたのだ。

——まあ、待て。今日はゆつくり繪でも見せてくれよ。——彼は落ちつかない風で、不氣嫌に言つた。

——繪なんかどうでもいゝさ。いゝものを見せるよ。耳を見せるよ。

——冗談は止せよ。

——まあいゝさ。家が見たくならないかい。——自分はちつとも不眞面目ではなかつたのだ——いゝ家があるんだよ。郊外へ出るんだ。新しい家がどんどん增へてゆく。大阪の街は嫌やだが、郊外は僕は好きだよ。草と大空との青いのもいゝんだが、新しい、小つぽけな、變な恰好をした、ペンキ臭い家が、どしどし建つてゆくのを見るのが僕はやたらに好きなんだ。知らない小徑をぶらぶら歩いてゆくと、不意に、威張つて新裝を凝した小さい木造の家にぶつかる。勿論、近頃流行の赤や青に安つぽく塗られた、どこの國の家とも見わけのつかないやうな變態な洋風住宅のことだがこんな小さい、木とペンキとで安易にできあがつた家をどうするつもりなんだ、と言ふ氣は初めはするんだが、すぐ、こんな小つぽけな家にでも想ひあがつて住んでゐる人間の、その稚氣が可愛いくいぢらしくなつて、僕は大いに愉快になるんだ。そんな家には、屹度のやうに、鷄が五六羽飼つてあつたり、狹い野菜畑がついてあつたり、今頃だとコスモスの花が咲かせてあつたり、晝は淋しいが一人きりで留守してゐなければならない新婚の若い妻君がをつたりするものなのだ。僕はそんな家を、決して立止らないで、遠くからや近くから

や、勝手な調子で勝手な氣持で、ぶらぶらと見て歩くのが實に好きなんだ。これな時には僕は決して鉛筆一本も懐にして行かない。帽子を輕く阿彌陀に冠つてゆくだけだ。こんは新しい郊外の風景は、決して、一寸した安易な面白さ位から繪にしてはいけない。色彩のトオンが錆びてないので、少女歌劇の背景のやうに甘くなつてしまふ。……まあ行かうよ。今日のことが、また、右の短篇の材料にならないとも限らないさ。

槇尾は諦めて席を立つことにした。彼は懐手をして自分について戸外へ出た。彼は近頃書き出した若い小説家なのである。

つい先刻、正午がすんだところだから、多分、隙いてゐるだらうと想つてゐたのに、停車場は、もう十分程もすれば改札し初めるとかで、大變混んでゐた。皆んなの耳が、今日は自分をうるさく憂欝にした。あとで話すが、近頃、自分は人間の耳に異常な興味を有ち初めてゐるのだ。

――ここまでだ。もう直ぐ汽車は出るらしいよ――槇尾が切符を買はうとして、訊いた。

これだけで、二人が行けるところまで行かう。

――自分は銀貨の大きいのを一個、ポケットから拾ひ出した。

汽車は出て、着いた。

大阪にはあまり遠くはない郊外である。

秋で、大空は海のやうにまつ蒼だつた。大氣は玻璃のやうに青ん澄んでゐたが、明るい太陽が周圍を氣儘にとり巻いて、秋はフランネルのやうに暖くかつた。

ビイル會社か何かの馬鹿氣て太い煙突が三四本あつて、牢獄の外廓と同じ色の不快な長い煉瓦塀が續いてゐて、その端れからが、輕い爪先き上りの青草のなだらかな小丘で、少い立木や、澤山の家等がその邊に在つた。二人は驛の賣店で買つたチョコレエトを噛み乍ら、明るい氣持で、決して急ぐのではない貸家探しを初めた。勿論、單に外から氣まぐれに見るだけのための家探しであるから、強ゐて空家や貸家でなくてもよかつたのである。實際にその家に住んでみやうと言ふのではなかつたから、内部はどうであつても、外部が明る

く鮮新で　能きたら幾分安つばく、きざできへあつた方が、その刺戟が強くてよかつたのである。

永劫に自分達と何等の捗りも有ちさうでない家が、二人の好奇心と批評との前を雑多に通り過ぎた。

――ごたごたしてゐるね。――槇尾は言つた。

――ごたごたしてゐる中から美を引きずり出さうとするのが、僕たちのつけめだ。

二人はその邊を氣持の動くまゝに歩いた。そして、丁度いゝ加減に疲れて、歩くのが少し嫌やになり初めた頃、一寸した木立の後方へ廻つて、素晴らしいものを自分は見付けた家である。青い木立の中に、飾らず装ひ過ない薄紅なのだ。その色感がなんとも言へないやはらかな和やかな感じなのだ、適度に薄い色を殆んど目立つ程の隈を探らないで、窓の空間だけを殘して全部に塗つてあるので、家全體が周圍の青の中から大きく浮いて出るやうなのだ。急いで　自分はその周圍に樂しんで歩いてゐた。都合のいゝことには、その家は未だその壁を塗つたゞけの程度の新築で、勿論、人は一人も居なかつた。やがて、その薄紅の素晴らしい壁だと想つたのは、單に壁の下塗りだけであつて、最後の仕上げには何だか他の色を塗られるらしいのを知つて、酷く失望もし腹も立てたが、とも角も、少時休むことにして、その家の中に入つた。少時、二人は憩んだ。

裏口の前の勾配をぐるりとつけられた小徑について廻ると、不意に豫期外の眼界が明けて、向方の方に低く何だか電車の停留所らしものが見つかつた。この家は、それでは、かなりな高所に、見晴らしよく建てられてあつたわけなのである。

二人はその停留所の方への細い小徑を下りて、やがて、改札口もない淋しい停留所の待合所へ疲れた腰を下ろした。槇尾は續けて二三度欠伸した自分もこの時には、槇尾にも秘密でこつそり求めてゐたものが心の印象に殘されてゐなかつたのでやり場のない倦怠にしきりに憶劫になり乍ら、なかなか來ない電車を待つてゐた。

――花房醫院と言ふのがあるんだね。この附近に。――槇尾が何の意味もないやうなことを、そ

の邊に掛つてゐた大きなペンキ塗りの廣告を讀み乍ら口に出した。

——英語及び獨語敎授つていふのもあるね。——自分もその邊へ目を遣り乍ら言つた。——うむいゝものを見つけたぞ。どこで、獨語を敎へるんだ。

——大正倶樂部附近、花房醫院へ申し込まれたし、順田、と書いてあるよ。

——うむ。この村なんだよ。獨逸語を人に敎えやうと言ふ人間がゐるのか。一寸行つて見ないか——自分はすでに立ち上つてゐた。——電車は未だ未だ來やしない。僕が獨逸語を敎はりたい人間になつて、須田氏に會つて來やうよ。

——うむ。——槇尾は微笑ひ出した。——どう行つて行くのだい。

——なあに、どうでもいゝ。その氣になつて行けば、わけはないさ。花房と言ふ醫者の家へ行つて、そこで須田氏の住所を聞いてゆくのだ。二軒の未知の家を見て樂しむことが能きるよ。この邊の村で一寸でも見られる家は、醫者の家位なものだらうよ。

不意の氣まぐれな想ひつきが、二人の疲れを少時忘れさせて呉たので、二人は、充づ大正倶樂部を探すためにその邊を歩きを初めた。單に大正倶樂部とだけで何の倶樂部だかわからなかつたために家の見當がつかなかつたが、人に訊ねて玉突場であることを突きとめ、直ぐ、その前の道へ出ることが能きた。そばに、かなり廣く植込みをとつた灰色に塗られた、田舍に不似合な大きい木造の二階建の洋風住宅が、一寸したヴェランダや色褪せた藤棚と一緒に自分を待つてゐた。こんな所に洋風の建物のあつた事がすでに二人を意外な滿足で明るくしたが、やがて、よく見廻して、その建物がかなり古いものらしいのを知ると、疲れがすつかりよくなつてしまつた程、自分は實に驚いてしまつた。感じは、丁度、中世時代の基督敎寺院を見てゐる感じとよく似てゐて、なんだか、國外へ追放された年老つた佛蘭西人が住んでゐてもよさうな樣子なのである。簡單な門に花房醫院と筆太に書かれてあつて、門から入口までの石疊の道は

少くとも二十歩以上はありさうである。

——入りにくい醫者だね。——槇尾は門で立ち停つてしまつた。

——行かうよ。こゝで訊いてみなければわからないさ。

自分は一人で入口まで進んだ。多分、自分は全く眞面目な顏付きをしてゐたと信じてゐるのだが直ぐ出て來た若い女が、叮嚀に束頭を下げて來意を訊いた。自分は彼女の意外に美しい表情を畫家らしい敏感さで素早く觀察し乍ら、獨語を習ひたいんだが須田さんの住宅を敎へてくれと依賴した

——あ。あなたが　獨逸語をおやりなさいますのですか。　女は直ぐに明るく微笑つた。——一寸　お待ち下さいまし。須田さんのお宅は私もよくは存じてゐないのです。——女は直ぐに姿をかくした。

一寸した廊下、一寸した病室らしいものが見えて、家の中は人が居りさうもなく靜かであつた。今度は書生の出て來る番かな、と、自分は幾分興覺めした失望した氣分で、ぼんやりとその邊を見てゐた。槇尾は仕方なしに自分の直く後方へ來て笑ひたいのを押へ兼ねてゐるらしかつた。

先の女と一緒に出て來たのは、自分の心配に背いて、これも亦充分美しいと言つていゝ程の若い女であつた。いよ〳〵槇尾の短篇の材料だと、自分は愉快になつて來た。二人とも當然看護婦らしいのであるが、普通に見るやうな唆情的な白いエプロンもかけず、巾廣い派手な帶を露骨に胸の上で廣げてゐた。ちつともヒステリカルではなく、看護婦にしては、上品すぎる容貌だつたと考へていゝ。

——私達もよくは知らないんですが。——と二人はかはるがはる初めた。——その前の小徑をずうつとお行きになりますと、廣い通りに出ますがそれを右へ折れて二三丁もいらつしやいますと、やはりお醫者樣で、伊東と言ふ家がございます。何でもその伊東樣のお向ひだとか言ふことです。小さい平家ださうで。

——その、獨逸語敎授の規定とか言ふやうなものをご存じないでせうか。お宅に申し込めつてい

ふ大きな廣告が停留所に出てゐますね。

——えゝ。——女達は微笑つた。——馬鹿らしいやうな人騒がせな廣告ですねわ。

——ざわざ行くの馬鹿らしいでせうか。——自分はますます愉快になつて來た。——あの前の小徑つて、あの門を出てあちらへですか。

——いゝえ。——女達は指を擧げた。こちらの門の方からおいでになれば近うございます。庭をお通り下さいまし。ご遠慮は要りません。門はあのコスモスのそばです。

で、自分達はその醫院の半分は荒れたまゝになつてゐる庭を通らせて貰つて、コスモスのそばの門から小徑へ出た。小さい池があつた。

——いゝものを見せて貰つたな。——槇尾は輕く昂奮してゐた。——後から出て來た女、可愛いゝ瞳をしてゐたね。

——可愛いゝ耳をしてゐたよ。——自分は微笑つて答へた。

——冗談は止せよ。耳の恰好なんかまで、もう見て來たのかい。

——本氣だよ。

——獨逸語があの醫院で習へるんだつたらな。この氣まぐれを本氣にしてもいゝとは想はないかい。

——想ふだらうね。——自分はあたりまへに答へた。實は、今もさう想ひつき出してゐるんだが、全く、あの家全體の感じもデリケエトでいゝよ。若い女なんかゞ二人も出て來さうな家には想へないんだが、やつぱり、出て來たつて、ちつとも不自然でないね。君の小説に書いてもいゝ氣分だね。

二人には、も早や須田先生は用はないのだが、今は、嫌やでも行くより仕方がないと言ふ氣がし初めてゐた。道はやゝこしくなく、直ぐ、伊東醫院の前へ出た。前の平家造りの家といふのは、これはまた、日本の重苦しい長い傳統をそのまゝ忠實に保守して來たにすぎない極く地味にでき上つた格子造りの古家で、小さい家であつたにかゝはらず、田舍だからか、かなり廣い植込みはあるし一寸した門もあつて、入口まではやはり十五六歩

はある位であつた。

こゝでも、案内を乞ふ役は自分が進んでした。出て來たのは、四十恰好の婦人である。

——今、花房さんで聞いて來たんですが、——自分は努めて獨逸語を實際習ひたいつもりであるやうに、自らに想ひ込ませ乍ら言ひ初めた。——須田先生のお宅はこちらでいらつしやいますか。

どんな男かわからないのに、先生と言つてみたのには、自分にもよほど可笑しく、笑ひ出すまいとする努力がかなり痛かつた。

——は、唯今、主人は居りませんが。——婦人は東京つ子らしい、明るい讃辯である。

震災後といふ言葉が最近では或る一種の觀念を日本で作つてしまつてゐるので、非常な便利な言葉であるが、この須田氏一家も震災後この地方へ移り住んだらしい口吻である。部室も外で見たよりは狹くて二つしかないらしく、家具もあまり置いてなかつたが、子供もゐなかつたやうである。

そこで、どんな話をしたりされたりしたかは今は大低忘れてしまつたが、何でも、英語は二十人程も會社員などが習ひに來るが、獨逸語は今のところ一人もなく、土曜日と日曜日とだけで、お禮は月に三圓下されば結構だとの話であつた。では明後日の土曜日の午前九時頃から來ますからと約束して、自分は外へ出た。

職業は自分が雜誌記者で、槇尾が銀行員だと想ひついたとほり言つてをいた。

——よくもあんなに眞面目くさつて口が利けたもんだ。——槇尾も自分の氣まぐれにはあきれてしまつたらしい。——二人で六圓づつの月收が增へたとあの妻君は本氣で信じてしまつてゐるよ。今夜は歸つて來た主人に僕達の話をして、幾分でも明るくなつたりするよ可愛さうに。

——どうだ。あの家へ本氣で獨逸語を習ひに行つてもいゝだらうか。面白い話でも聞けさうだらうか。

——止せよ。こいつは最後まで氣まぐれ者だ。あの妻君はなかなか氣まぐれどころかしつかりしてゐる。愼ましすぎて、冷たすぎた。

——僕の氣まぐれも案外眞面目なんだよ。もう

一度、花房醫院の前を通つてゆかう。あの家がずゐぶん氣に入つたよ。次から、不眠症はこゝまで來て直して貰ふことに決めた。

二人が再び花房醫院の前を能きるだけ樂しんで通り、もうその上の氣まぐれにも厭いて、疲れて停留所まで來た時は、すでに早い電燈が點く頃で空氣は、自分たちには少し冷た過ぎた。

電車は空いてゐた。で、他の誰にも聞かれないことに安心して、自分はとうとう次のやうな話を槇尾にして聞かせたのである。

——……僕の今日の氣まぐれには　君もずゐぶん閉口したらうが、惡くとつてくれるな。實は、僕は今日は他人の家なんかゞ見たくつて、君をわざわざ誘つて出たんぢやないのだ。耳が見たかつたんだよ。

耳つて、人間の耳さ。人間つて言ふものも妙なもので、かうして向ふに並んだ人達の顏を比べて見てゐると、鼻が低いのや、顏の長いのがあつたりはするが、その顏が美しいと言へば、どれもこれもが美しいと考へることも能きるし、また醜いと言へば、どれもこれもが醜くも見えて來る。がいづれにしても、そこには一樣に纏つた美と落ちつきとを見ることが能きるのだ。だから、人の顏をぼんやり見てゐると、僕はいつまでも面白くつて厭かないんだが、……人間の顏を書いたのを僕は今も四五枚手元に持つてゐるよ。……が、鼻なら鼻ばかりを、かう澤山、並べてよく見て見たまへ。鼻は單に鼻だけでは畢竟獨立の存在理由を有つてゐないのにも依るだらうが、とても妙だと言ふより仕方かなくなるに決つてゐる。初めはかつて可笑しくて笑ひ出したくなるんだが、やがて銘々の鼻が揃つて浮き出して、無遠慮に自分の方へ動きかけ崩れかゝつて來るやうに見え出すと、妙に不快になつたり、憂鬱になつたりするより仕方がなくなるよ。おしまひには、鼻が實に怖はくなつて鼻が惡魔の屍肉のやうに山盛りになつて、胸へ伸し懸つて來る惡夢を見たりするやうになる。そして、だんだん、澤山並べられた鼻を見なくとも君のその鼻一つだけで、充分、不眠症になるだけの恐怖を感じるやうになるし、世の中のものはす

つかり鼻のやうに見えて來て、死にたくなり出すよ。

僕の怖はいのは鼻ではなくて、耳なんだが、僕が耳で苦しい目に遭ひ初めたのは、君も知つてゐる、あのダンサアの汐月秋子が僕の劇團へはいつて來てからのことだ。秋子の耳が、今のところ、僕には世界中で一番怖ろしいんだ。そのかはり、又、一番その魅力も痛感してゐるんだが。

二月程前、秋子が『魔女』と言ふのを眞つ暗らな照明、眞の黑の背景の中で、踊つて評判だつたのを君も覺えてゐるだらう。丁度、あの初日の前の夜だつたが、秋子が激しく踊つたあとの上氣した顏の汗を拭き乍ら、僕に何だか話しかけたのだ。その時、不圖見るともなしに見てしまつたのが彼女の上氣して美しい右の耳だ。美しいつて實に、美しい耳だ。耳が活きて、輝いてゐる。あの日から、僕は今話した鼻の話し通りに、すつかり耳に嚇されてしまつて、今では、人の目や唇は見落しても、耳だけはどうあつても見落さなくなつたし、……さうだ。相手の耳の恰好なんかを念を入れて見乍ら話すやうな男は、多分、僕だけだらうが、……その目や唇や、その他のいろんなものまでが、耳に見えるんだから、耳は澤山見てゐるつもりなんだ、秋子の右の耳のやうな、あんなにまで美しくつて、デリケエトで、情熱的な耳は未だ見たことがないよ。

僕はその夜からすつかり秋子の耳が怖はくなつてしまつたのだ。で、夢は見るし、魔されるし、大變なんだ。で、僕は、どうとかしてこの怖はい耳から逃げたいと焦心るんだが、怖はいものは見たいもので、怖はくなればなる程、見たくもなつて、日中はどこかへ逃げ出してはゐても、日が暮れて、彼女のあの眞つ暗らい底のやうな舞臺で蜘蛛のやうに踊らうとする時刻になると、屹度、彼女の見えるところへ歸らなければならない、やりきれない、惱やましい絶望的な氣分になつてしまふのだ。でなければ、夢で彼女の耳に惱まされ揶揄されるし、見れば見るで、また酷い目に遭ふのことになるんだが。

これから、夕食を採ると直ぐ、僕は又彼女の耳

の魅力に惹つ張られて苦しみにゆくわけなんだが今では、彼女の華奢な身體全體が耳のやうに想へるのだ。彼女は僕には魔女で、耳のお化けだ。君も知つてる通り、秋子は舞踊がさう大してうまいと言ふ程でもない。どこかぎごちない感じがするのは事實だし、二十才に滿たない女としてはその線がかたすぎるし、時としてはだらしなく崩れてゐたりする。しかも、その秋子が、彼女の好きな黒い背景で黒い光線の中で、一人て、舞臺一杯を激しく跳びあるいて、勝手な踊りをしてゐるのを見ると、僕は　決つて、恐怖ともつかず嫌惡ともつかぬ、さうかと言つて執着だとも言つてしまへない、或る異樣な情感に胸を酷く痛められるのだ僕が彼女を愛してゐるからだと決めてくれてもいゝ嫌んでゐるからだと考へてくれてもそれでもいゝ。どうにかなるだらうよ！

どうだ、もうすぐ電車も大阪へ着くが、僕の夕食につきあはないか。少時を奇怪な耳の執心から自由にされて愉快に、暖いものでも食はうぢやないか。停留所の近くで、ココアのうまいのを飲ませる店を知らないか。

今日、僕が、家をあちらこちら見て歩いたのは大きな獨立した家のやうなものまでも、僕には耳に見えるかどうかを驗しに行つたのだ。薄紅の家は僕の年若い從妹の可愛いゝ耳に似てゐた。花房醫院には佛蘭西の老孃の色艶の未だ褪せきらない耳の感じが充分あつたね。須田氏の家は落ちぶれて貧しいユダヤ人の耳の感じだ。二人の看護婦なんか。僕の耳の女王に比べては、足の小指位の表情しかなかつたぞ。…

電車は澤山の無表情な耳を運んで大阪へ着いた午後六時に七分前だつた。劇場はすでに開幕されてゐる時刻だが、耳が踊る時間には未だ間があつたので、或るレストランの扉をあけた。

×　×　×

府事



◉大阪市幹線道路費補助

内務省では中川大阪知事から認可を申請して來た同府都市計畫第一期事業幹線放射道路十大路線敷設に伴ふ三千六百萬圓の起債及び國庫補助問題につき調査を取急ぎ中であるが右十大路線の敷設事業を大正十三年度から向ふ十箇年繼續とすることには内務省においても異存を挾まぬけれども財政緊縮の折柄府當局申請通りの國庫補助金工事費の半額交附が頗る至難であり假に國庫補助を交付するとしても單に名目のみに僅少額に過ぎないのと一面又三千六百萬圓といふ巨額の新規募債は政府の募債打切趣旨にも反する關係上その工事費財源の殆ど全部を都市計畫法の所謂特別稅及び受益者負擔金から捻出することゝし且國庫補助金は財源としての目標とせも起債額は申請原案の大部分を削減せしめるのが妥當だとふに内定したので内務省から島大阪府土木課長及び内藤事務官に招電を發したからこれ等關係者の上京次第前記内務省の意嚮の如く協定する筈

◉府の財政計畫樹て直し

目下内務省に内申中の大阪府都市計畫第一期事業たる幹線放射道路新設擴築に關する事業年度割並に財政計畫案に對し同省に於ては既に具概要の審査が行はれ其結果技術上の計畫に就ては殆ど何等支障なき模樣であるが、財政上の計畫に對しては五百萬圓の起債並に二十箇年間に交付を豫定せる國庫補助の關係が政府の財政緊縮方針に觸れることを免れない爲に特別稅の法定制限率を最大限度迄に增率を行ふか、その他の方法を講じて起債の如きは成るべく之を避けしめんとする意嚮を有し、且つ國庫補助も一部は之を認むるも殘の豫期する通り全部は之を認めない模樣で、是等の關係から財政計畫の一部樹て直しを免れない事情があるので同省より府に對して更に財政計畫に關する參考資料の提出を求め且つ内藤都市計畫課長の上京を促し來つたので同課長は府の明年度豫算査定の完了次第上京する筈である

◉擴大されたる都市計畫法

都市計畫法第二條に依り都市計畫法の適用を受けるのは人口十萬以上の都市又は大都市の近郊で人口增加の著るしい處といふことになつてゐるが、今回主務省は都計中央委員會の諮問を經て一當該市の發展の趨勢又は其の他の事情に

鑒み其の市に對し都市計畫の施設を必要とするもの

一、當該市及び同府縣に於て其の市に對し都市計畫法の適用を希望するもの

に對しては都市計畫法適用の方針となつた旨即ち何んな都市でも自由に都市計畫法が實施し得るやうに範圍が廣められたのである而して此の方針になつた理由は

都市の膨脹混雜を成行の儘にして置くのは都市經營上の一大禁物である、英國の如きは人口二萬以上、伊佛の如きは一萬以下でも人口增加率が年々一割以上十年續いたやうなところ獨米は總ての都市に都市計畫法を適用することにしてゐる、都市計畫は決して都市の改良ではなく都市の建設を使命とするものだからといふのである

◎坪百三十圓で立派な家

大阪府立西野田職工學校の模範職工園では最近九大教授山口博士の依頼に依つて阪急沿線雲雀丘に建設した住宅は實に皮肉な現象を示してゐる

即ち雲雀丘住宅地は大阪近郊に於ける最も完備せる住宅地として知られそしてその建築費は孰れの家屋と雖も坪百圓以内であるものであるとのことだ。

然るに職工園はこの住宅地の入口へ坪百三十圓の住宅を建築し而も他の五百圓のそれと劣らざるものを完成した。同住宅の設計監督の任に當つてゐた松本儀八氏は次のやうに語つてゐる。

この住宅は二十五坪の小さなものでありますが總經費四千圓この中には疊、建具、家具、カーテン、寢臺等に到る迄の經費を入れたもので、普通の計算に依ると三千二三百圓であります。職工園は成可く實用的なものを建てるのが目的で、施工時間、木材その他の材料に於ては眞心の導くまゝに親切にすることを第一義としてゐます。

今度の建築の如きは大阪近郊切つての贅澤な住宅の列んでる中にこんな安い家を建てたのですが、他の家と少しも遜色はないと私は思つてゐます。

◎建築書類作製業者の公認

建築法が施行されて手續が面倒になり建築書類製作業が市内で約百戸を數へるに至つた中、たゞ純技術家としての設計家もあれば三百式代書人もありその料金も一定せず設計圖面製作にしても坪一坪につき五十錢位から二圓、三圓、五圓といろ〳〵になり甚だしきに至つては設計變更に赤線一本引くのに五一圓、六十圓の料金を取つて然も一向役に立たない書類を作製するものがあるので重なる建築書類製作業者である所謂「工務所」經營者三十名が最近京都工務所協會をたて業の改善進歩を圖り一方府警察當局に交渉して取締規則を設けられるやう要求してゐたが府建築課及び保安課も工務所協會の希望を容れ工務所公認制度を採りその代り取締規則を發布し訝しい者を嚴罰に處すべく目下規則案につき審議中、近く府令發布の筈だと。

◎防火設備の財源

大阪市では關東地方の震災に鑒み防火水道計畫を企畫し水道部に於て之が設計並に財政計畫の立案に着手した該計畫の大要は全大阪市を地形により低地區、高地區の兩區域に分ち船場の如く市の中心地であつて高層建築物が聳立せる地域には高壓水道を敷設し島の内、土佐堀、新町、堀江方面の如く枝川に近接し水利の便に富む地域は河川を利用し得るやう唧筒場の設備を爲す、又高地區即ち市の東部並に河川利用に困難なる周圍部は適當の場所に約三千六百石の水を湛へ得る百坪の水槽三十六個（又は二十四個）を掘鑿し平時はプールとして市民の運動用に供し餘水は撒水に使用するのである、總て事業費總額は約二百萬圓であつて財源は主として起債に由り全市民に賦課する受益者特別負擔金を以て元利償還に當る計畫であつたが政府の緊縮方針の爲に起債は困難となつてゐるし又事業費の全額を特別負擔金の收入に據らんとすれば負擔が高率となるから市では設計を立案した儘手を下し得ぬ狀態に在るから本年度内に事業に着手する事は多分不可能であらうと。

◉編入後の大阪市新區政

大阪市の接續町村編入實施後の新市域に何個の區を設くべきかに就ては此程市當局に於て成案を得るに至り關市長及び加美助役から主務省の諒解を求むる事となつてゐる、其案によると新市域（東成、西成兩郡の全部を編入するものとして）を三區に分たんとするものであつて區域は左の如くつてゐる（第一區）現市域南郊の飛地を除いた西成郡の全部即ち中島、大道、豊里、新庄、西中島、北中島、神津、豊崎、中津、鷺洲、稗島、歌島、千船、川北、福、傳法の各町村（第二區）平野街道を境界とし生野村以北の東成郡全部即ち生野、鶴橋、小路、神路、中本、城東、榎本、鯰江、古市、榎並、城北、清水の各町村（第三區）平野街道以南の東成郡並に西成郡の飛地即ち天王寺、北百濟、田邊、平野郷、喜連、南百濟、長居、住吉、依羅、墨江、敷津、粉濱、玉出、津守、今宮の各町村、第一、第二の兩區は地勢並に交通の關係上區役所の出張所を一區毎に三箇所宛、第三區は同じく二箇所を設ける筈（現市域）の增區及整理を編入と同時に行ふ事に就ては可否の議論が分れてゐたが最近增區斷行論が優勢となり目下其方針の下に調査を進めてゐるが夫れによると現在の四區を七區若しくは八區に增區せんとするのであつて何れに由るかは未定であるが略左の如き方針の下に新區の區域を劃設せんとしてゐる。（八區案）現東區の大區（明治三十年の第一回編入實施以前の東區の區域）を一區として其殘りの東區と現南區を合したものを三區に分つ▲安治川以北即ち現北區の全部と現西區の一部を地形により東區西部の二區に分つ▲現西區の大區を中心としたもので一區を形式せしめその殘りの西區即ち安治川以南築港に附近を一區とす（七區案八區案では大區を除いた東區と南區の全部を合せたものを三區に分割せんとするが之を二區に止める、其他は八區案に同じ、因に理想的に區域の制定を行はんとすれば必然學區の區劃と衝突し其結果增區の實施を困難ならしむるから今回編入と同時に行ふ增區は學區の現勢を顧慮し其利害を相反せぬやうにし教育財產を分割する如きは成ふ限り避ける方針であると。

◉大阪都計地域案

大阪都計地域案は都計大阪地方委員會の特別委員會で可決を見たがこれがいよ〳〵內務大臣に依つて決定され內閣の認可を得る迄はなか〳〵時日を要するのであるが都計地域內の居住、商業、工業、未指定の各地域內に新に建築する者はそれ〳〵市街地建築物法に依つて制限を受けるのである然し從來から存在してゐる建築は如何なる影響を受けるかと云ふに

地域又は工業地域內特別地區の指定又は變更の際現に存在する建築物で法令に依て現在地に建築することを得ざる種種に屬するものは其指定又は變更の日から十年間にて其敷地又は建築物を基として原敷地を超えて增築へは改築せざること▲增加すべき建築面積は五割以內▲增加すべき床面積は十割以內と云ふ制限內で增築改築又は用途の變更を許されてゐる次に市街地建物法適用區域の設定若くは變更地へ若くは地區の指定若くは變更其他の場合に於て從來存在する建築物が其後新に建築せられたりせざれば建築物法又は同法に基き發する命令に違反する場合は府は相當の期間を指定し其建築物につき除却、改築、修繕、使用禁止、使用停止等の必要なる措置を命ずることが出來る此場合は市が損失を補償することになつてゐるそして補償金額に不服あるときは當事者は通常裁判所に出訴することが出來る

大體右の如く從來から存在してゐる建築物は地域制の制定と相關係せず十年間を限て其の儘增改築又は用途の變更を爲すことが出來るし又新に建築物の用途を定め又は他の用途に供しても各地域制の定むる制限に觸れなければ相變らず建築物を存續せしめて行くことが出來る。

◉都計と土地增價稅法

都市計畫に要する財源として內務省の立案に係る土地增價稅勅令案は目下大藏省で調査中であるが內務省の立案に依れば法人

所有の土地であつて永年賣買されない土地に對しては一定期間（十五年）を經過した時購入價額と時價を調査して其增價額に課稅することになりなれども個人の永年所有に對しては課稅の規程が設けられてない併し個人所有の土地であつても同一人が十五年二十年所有することが往々あるのであるから之に對する課稅規程も必要であると云ふ議論が大藏省内にあり從つて是等の點に就き大藏省は内務省と交涉を遂げ本年中に土地增價勅令案を公布する方針だと傳へられてゐる而して大阪市の土地增價稅の徵收見込額は年額約七十三萬圓であつて此算定の基礎は既住十ケ年に溯つて大阪市内に於ける土地の賣買件數並に購入價額と賣買當時の價額を調査しその增價額の率によつて豫算を作つたものであるが大阪市では單に個人若くは法人所有の土地を賣買した場合にその土地の增價額に課稅するのみで内務省の立案に規程してゐる法人所有土地で永年賣買されない土地に對し一定期間（十五年）を經過した時に於て購入價額と時價を對照して其增價額に課稅する規約に則つてゐないのみならず目下大藏省内に議論せられつゝある永年個人所有の土地に對しても又課稅する事が内務省の認むる所となつた曉には市の年額七十三萬圓の徵收見込額よりも遙かに增額する筈であるが右に就き木南助役は左の通り語る

土地增價稅の如きは有態に云へば決して公債の償還に充當すべき性質のものでない即ち市が年額七十三萬圓の課稅を豫算した當時と現在とを比較すると土地の賣買件數が非常に殖くなつてゐる從つて此儘で財界沈靜狀態が續けば或は豫算額だけ課稅し得ないであらう併し個人と法人とに拘らず永年賣買されない土地に對しその增價額に課稅するやうになれば幾分緩和されやうが市の方針は兎も角年額七十三萬餘の豫算を立てゝゐるのであるから豫算以上に徵稅し得ることになれば現在の稅率を低下する方針である云々

◉接續町村の建築取締

府建築課では市域に接續してゐる町村が何等の系統組織なく雜然として家屋が建築せられて來たから建築線は一定せず從つて道路網をなして居ないのて之れ等の各町村と協定を遂げて法規的でなく互讓的に道路網を完成し建築の整正を期することゝなつた

先づ市街地建築物法に依ると幅員九尺以上の道路に添うて其境界から一尺五寸後退して建築線を定めることになつてゐるが然るに接續町村では九尺以上の幅員を有する道路は殆んど稀であつて或街道筋其他主要な道路が漸く二間であるが大部分は六尺或は三四尺が非常に多い、その上郊外は地價が安いから家屋はドシ〳〵建築されて千船町の如きは年六百五十餘戸建築されて行く現況である

然して府の協定案なるものは

家の建て詰つてゐる町村内部の町村道に於ては町村が其道の中心を明示し其明示線から敷地の方へ四尺八寸後退せしめ假にこれが將來の道路の境界となるものと考へこれから尺五寸後退した處を建築線として此敷地に建築を許可する▲同一の町村道でも野原の中にある場合は將來町村道間の建築線に添ふ家屋が出來ないやうに設計をしないと許可しない▲町村道のない空地の處にある私道は適當に將來の道路計畫をたてないと其建築を認めない

右に關して府建築課の中澤技師は語る

土地區劃整理を行ふに先行して府と町村側と協定して隣接町村の家屋を取締ることゝなつたこれは鐵道、河川、堤防、運河等には緣り觸れなくて建築を取締り道路網を作ることが出來る地主相互間に十分に諒解して今回の協定に依て家屋を建築することを望みます尙從來からある町村道を尊重して道路網を作るのですから將來土地區劃整理を行ふ際にも大なる支障なきことゝ思ひます。

日本建築協會々報

日本建築協會々則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ入會申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其ノ目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會內ニ於テ其ノ言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セサルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其ノ他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其ノ旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ贊助員ニノミ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚ス ノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其ノ權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニモ之ヲ準用ス

第十條　脫會其ノ他ノ事由ニ依リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其ノ債務ヲ免カルヽコトヲ得ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　十名（理事長タル理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其ノ職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但シ會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但シ引續キ重任スルコトヲ得ス

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主事　二名

二　主計　二名

三　編輯　五名

四　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記ハ理事會ノ互選トス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トス但シ名譽書記ヲ置クコトヲ得

第十五條　本會ニ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其ノ職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ノ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但シ理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其ノ他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但シ緊急事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ開ク

第十九條　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

建築ニ關スル重要事項ノ議決

會誌ノ發刊

建築ニ關スル圖書ノ刊行

建築ニ關スル講演會ノ開催

建築ニ關スル展覽會ノ公開

建築ニ關スル親睦會

理想的建築ノ計畫

其ノ他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出スヘシ例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別贊助員ハ特別贊助員會年額金拾貳圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助員會年額金六圓本會ニ前納スヘシ但シ六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助員會費其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其ノ計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其ノ決算案ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



會報

一、神戸市に於ける聯合通俗講演會のこと

豫て御通知なり御案内なり致しました本年秋季大會を兼ねた神戸市に於ける建築學會との聯合通俗講演會は去る十八日午後六時より神戸高等女學校講堂に於て左の順序で擧行されました折柄の秋雨にも拘はらず聽衆無慮壹千餘名を算し内婦人の聽講者百餘名もありまして非常の盛會裡に午後十時無事閉會を告げました

開會の辭　日本建築協會　副會頭　工學博士　片岡　安君

貯藏と建築　建築學會々員　工學士　松井　清足君

古社寺建築に就て　日本建築協會々員　京都帝國大學教授　工學博士　天沼　俊一君

主として婦人の立場より觀たる住宅　日本建築協會々員　工學士　葛野壯一郎君

住　建築學會副會長　早稲田大學教授　工學博士　佐藤　功一君

閉會の辭　日本建築協會々員　神戸高等工業學校　教授　工學士　古宇田　實君

一、會誌表紙圖案審査員決定のこと

豫て懸賞募集致して居ります當協會發刊雜誌「建築と社會」の表紙圖案の審査員を今回左の諸氏に依囑することに決定致しまして夫々御承諾を得ました

石本喜久治氏　長谷部鋭吉氏
小川安一郎氏　葛野壯一郎氏
武田　五一氏　村野　藤吾氏
安井　武雄氏　古宇田　實氏
本野　精吾氏

此の外に左の役員全部を合し審査員は二十名と決定致しました

片岡　安氏　池田　實氏
中澤誠一郎氏　今林彦太郎氏
中村琢治郎氏　松本　禹象氏
佐藤　彰美氏　本多　二郎氏
伊藤　正文氏　田中　綱氏
谷口　躬兒氏

一、敎化委員會委員增員のこと

敎化委員會の事業も漸次進捗して繁多となり委員增員の必要を認め今回理事會より左の四氏に委員を指名依囑致しました

渡部　圭吾氏　内藤　太郎氏
波江　悌夫氏　下浦　光衛氏

一、建築職工敎化講習會開催のこと

今回建築業協會關西支部と本協會との聯合主催を以て建築職工敎化の目的で講習會を左の通開催することに決定致しまして現今準備中であります

期間　自十一月四日至十一月十八日二週間

會場　大阪市立桃園第一尋常小學校内

科目　1、假枠工科　2、鐵筋工科

3、混凝土工科

一、今回理化學研究所長並工政會理事長より理化學研究所に於て大正十三年度研究報告講演會開催に付左記事項周知方依頼がありましたから掲載致します

長岡博士水銀より金をとる

方法を始めて公開す

十一月一日より三日迄

理化學研究所では十一月一日より三日迄毎日午後一時より九時まで東京市丸の内東京府立商工奬勵館に於て大正十三年度研究報告講演會を催す筈で講演題目六十一に亘る中には目下學界で呼び物の長岡半太郎博士の水銀を變じて金となす道行等があり入場無料であるから聽講者は全國より多數參集する事と豫期される、右に付理化學研究所長大河内子爵は談る

長岡博士の世界的大發見の價値と其影響

理化學研究所長　大河内正敏子談

工學博士　子爵

理化學研究所の長岡半太郎博士が水銀を變じて金とする法を發見し今や世界の科學者界は一齊に驚異の目を以て其成行如何を注目してゐる事は既に世人の知る處である

由來我邦の如き天與の資源に乏しい國では國是として科學の研究を旺んにしその結果生れる發明發見を基礎として合理的に進歩的に産業の發展策を講究せねばならないのであるが、どうも從來我邦朝野の識者が此點に充分の力を注いでゐなかつた事は甚だ國家のために悲しむべき事である、吾々の信ずる所ではもし我國が二十年三十年の昔から「科學の研究とそれに基く産業の發達」を國是として進んでゐたならば今日の如く内治外交の行詰りを生ずる惧れもなければ又行政財政整理で四苦八苦する必要もなかつたに相違ない、然し今更過去を追ふ譯には行かないから、今日以後殊に此産業界沈滯の時局に善處するためには、是非共此際科學の研究を奬勵し、發明發見を保護し、其結果を産業上に應用して國運前途の展開向上を計らればならぬ

此の如き重大なる時機に當り、わが科學界の泰斗たる長岡博士が理化研究室に於てこの世界に誇るべき大發見をされた事は實に國家全體としての一大名譽として國民全般の銘記すべき出來事と云はねばならぬ、我邦の科學界も此數十年來長足の進歩を遂けたには違ひないが、未だ不幸にして世界的大發見、大發明と云はれる程のものがなかつたが、長岡博士今回の大發明は曾て歐洲の煉金術者が夢見てゐた處、乃至ギリシヤ來冦の哲學者の萬有一元論を解決するに足るものであつて、其の影響は金の産額と價格等の如き問題に止まらず、又純正科學上に止まらず、全學術界は勿論思想界、哲學界、産業界の全體に亘つて廣く且つ深きショックを與へ新紀元を作るものと斷言するを憚らない

而して長岡博士の研究はまだ〳〵永く續いて愈々驚くべき新事實を世界の學界に提供せらるべく、昨今早朝より夜間に至るまで傍目もふらずに更に進んだ研究に沒頭しておられる次第であるが、此際特に理化學研究所の大正十三年度研究報告講演會を開催する機會に於て同博士より親しく水銀を變じて金となす道程に付十一月一日より三日迄毎日一時間乃至一時間半宛講演される筈で、最後の三日目には其實驗方法を述べられる事になつてゐるどうか我學界の世界的光榮とも云ふべき大發見を遂げたる大學者の風貌に接して親しく其苦心の結果になる研究談を聽く人の一人も多からん事を希望する云々

一、工政會理事長より第二回研究所聯合理工科大講演會開催に付左記事項宣傳方依頼ありましたから是亦紹介致します

十一月大阪に於て

研究聯合大講演會開かる

さきに東京に第一回を催して空前の大成効を收めたる工政會主催の研究所聯合理工科大講演會は今回大阪で第二回を催す事となり、工政會主催、大阪市、大阪商業會議

所、大阪工業會、關西技術家聯合會等各團體協賛の下に、理化學研究所長大河内子爵を始め東西の各試驗所研究所の專門大家出席左の如き講演あるべく、會費二圓婦人の聽講をも歡迎する由、

第二回研究所聯合理工科大講演會（大阪）

▲十一月十一日（火）より十五日（土）まで五日間

▲每日午後五時開會、九時閉會

▲會　場　大阪市中の島大阪朝日新聞社樓上

▲會　費　二圓（申込と共に前金拂込の事）

▲申込期限　十一月五日迄（申込受附と同時に會員證送附）

▲申込所　大阪市北區中の島大阪朝日新聞社

講　演　同　堂島ビルデイング、中山文化研究所

同　曾根崎上三ノ一五五エンゼニヤリング社

□司會者

工政會關西支部幹事　阪田　成一君

◉第一日（十一月十一日、火曜）

1、開會の辭　司　會　者

2、產業國策と試驗、研究機關の使命

工政會常務理事　倉橋藤治郎君

3、液體燃料問題

燃料研究所長　吉村　萬治君

4、魚油の成分の研究

東京工業試驗所技師　第二部長　工學博士　辻本　滿丸君

5、アムモニア合成工業

臨時窒素研究所技師　工學博士　橫山　武一君

◉第二日（十二日、水曜）

6、大阪の化學工業と其の發展策

大阪市立工業研究所長　高岡　齊君

7、乾燥性油に就て

同　所技師工學士　岩本　義虎君

8、ベークライトの製造及び應用

同　工學士　庄野　唯衛君

◉第三日（十三日、木曜）

9、內燃機關に關する研究

理化學研究所長　工學博士　子爵　大河內正敏君

10、最近の營養學說

同　所研究員農學士　高橋　克巳君

11、未　定（特別講演）

工政會關西支部長　工學博士　片岡　安君

◉第四日（十四日　金曜）

12、大阪工業試驗所業務の現在

大阪工業試驗所長　工學博士　莊司市太郎君

13、電氣用炭素品製造に就て

同　所技師工學士　市瀨　元吉君

14、我國に於ける薄荷工業と合成薄荷の研究

同所技師第四部長　工學博士　篠崎英之助君

◉第五日（十五日、土曜）

15、航空原動機に關する研究

東京帝大教授航空研究所研究員　工學博士　栖原豐太郎君

16、我邦の將來の道路に對する要望と其對策

土木試驗所長　工學博士　牧　彦七君

17、無線電話に就て

電氣試驗所技師　工學博士　楠瀨雄二郎君

18、閉會の辭　司　會　者

主催　工政會

東京市麹町區大手町一丁目

大阪市北區曾根崎上三ノ一一五

一、終身賛助員逝去

終身賛助員池田勘藏氏は本年十月十五日逝去せらる洵に痛悼に堪へません本協會よりは弔狀を送り哀悼の意を表しました

會　合

○緊急理事會

△日　時　九月十九日午後五時三十分——七時

△會　場　本協會會議室

△出席者　片岡副會頭　池田理事長　中澤理事　松本理事　本多理事　伊藤理事　田中理事　谷口理事

△記　事　一、開會直に秘密會議に入り時餘にして終了散會す

○職工教化聯合委員會

△日　時　九月二十四日午後五時三十分―九時三十分

△會　場　大阪ホテル

△出席者　建築業協會關西支部委員側
清水組大阪支店　德政　金吾氏
長瀬組　丁野龜吉氏
安藤組大阪出張所　松丸盛一郎氏
久保田組　牧野氏
松村組　島田兼助氏
鴻池組　福永佐和吉氏
本協會教化委員側
古宇田委員長
小笠原委員　野呂　委員
酒井　委員　澁谷　委員
伊藤　理事　西谷　書記

△記　事　一、古宇田委員長より建築職工教化講習會開催計畫に付大體の具體案を示し小笠原委員之れが詳細説明をなす
一、夫より逐條的に協議をなし大體に於て贊成なるも建築業協會側に於ては條項中同會の例會に於て決議を經べきものもあるを以て後日幹事のみ會合して贊否を答ふることゝし會合日を十月二三日頃と約して會せり散

○材料委員會

△日　時　十月四日午後六時―七時三十分

△會　場　本協會會議室

△出席者　片岡委員長
小笠原委員　河合幾委員　谷委員　野村委員　松本委員　松井清足氏

△議　事　工業品規格統一調査會の諮問に係る木材規格の決議案に關する件
今回農商務省工業品規格統一調査會の諮問により木材規格の決議案に付大阪府産業部長並建築材料聯合調査會より本協會の意見聽會ありしを以て本委員會を開會したる旨委員長より述べられ本夕幸松井清足氏來阪出席ありしを以て同氏より右木材規格案に付大略説明あり次で協議に入り異議なきことに決し回答案作成の上理事會に報告後回答することと決したり

○職工教化聯合小委員會

△日　時　十月六日午後二時三十分―三時三十分

△會　場　建築業協會關西支部會議室

△出者席　建築業協會關西支部委員側
鴻池組　福永佐和吉氏
長瀬組　丁野龜吉氏
安藤組大阪出張所　松丸盛一郎氏
本協會教化委員側
小笠原委員

△記　事　建築業協會側より過日協議せし原案に對する修正案提出詳細説明あり種々協議の上教化委員會に諮りたる上決定することに決す

○教化委員會

△日　時　十月七日午後五時三十分――八時三十分

△會　場　本協會會議室

△出席者　古宇田委員長
井上委員　小笠原委員　野呂委員　酒井委員　澁谷委員　姫野委員

記　事　一、小笠原委員より建築業協會側幹事と交渉顚末に付報告し同會より提出の修正案に關し説明をなし協議の上決定す
一、古宇田委員長より分科會の經過報告あり夫より鐵筋「コンクリート」職工教化實施に付協議

決定の上理事會へ報告案を作成可決せり

一、野呂委員より從來春秋二回行ひ來りし講習會は今回職工教化講習會開催するを以て本秋に限り休講することの提案あり可決理事會に報告のことに決す

○理事會

△日　時　十月十五日午後五時——十時
△會　場　本協會會議室
△出席者　池田理事長　中澤理事　今林理事　中村理事　松本理事　本多理事　伊藤理事　小笠原敎化委員
△議　事
一、神戸に於ける講演會に關する件

中澤主記より講演會費の豫算書提出し詳細說明の上秋季大會費として支出を諮り原案通可決

二、會誌表紙圖案審査員の件

左記諸氏に依囑し役員十一名を合し審査員は二十名と決定せり

石本喜久治氏　長谷部鋭吉氏
小川安一郎氏　葛野壯一郎氏
武田五一氏　村野藤吾氏
安井武雄氏　古宇田實氏
本野精吾氏

三、敎化委員會委員增員に關する件

池田理事長より同會委員增員の必要を說明し左の四氏に指名依囑することに決す

渡部圭吾氏
内藤太郎氏
波江悌夫氏
下浦光衛氏

四、建築職工敎化講習に關する件

小笠原敎化委員より敎化委員會今日迄の經過に付報告あり而して今回職工敎化事業に着手し別紙報告書の通講習會開催の計畫案を作りたるを以て協賛ありたき旨を述べ報告書に付詳細說明あり了つて質問に入り後協議の結果時間割及豫算に付修正を加へ可決せり

尙細目に付ては委員に委任し重要事項は主記主計と協議の上決し理事會に附議せざることに決す

五、職員增員採用の件

一名增員のことに可決し採用は本人と尙交涉の結果とすることに決す

六、評議員制度を設くるの可否

七、役員選擧法を改正するの要ありや否

右二件は意見の交換をなし評議員制度を設くるの件に付ては具體案作成の上提議することに決す

八、會員詮衡

○聯合通俗講演會

△日　時　十月十八日午後六時——十時
△會　場　神戸市縣立神戸高等女學校講堂
△記　事

一、今回神戸高等工業學校開校式擧行を機とし建築學會日本建築協會神戸高等工業學校神戸高等女學校の二會二校の主催の下に建築學會と本協會と聯合して本講演會を開くことゝなれり

一、本日は朝來曇天にして正午過より降り出したる秋雨は暮方に至り尙劇しくなり聽衆の足を阻まれんかと吾人の心を寒からしむ當日本協會よりは中澤理事、伊藤理事、西谷、大和兩書記を從へ神戸高工高女兩校の關係職員と共に諸準備をなし午後六時古宇田實氏司會の下に片岡博士開會の辭を述べ左の順序にて講演を開始せり

開會の辭
工學博士　片岡安君
貯藏と建築
工學士　松井清足君
古社寺建築に就て

京都帝國大學教授　工學博士　天沼　俊一君

主として婦人の立場より觀たる住宅

工　學　士　葛野壯一郎君

住　早稻田大學教授　工學博士　佐藤　功一君

閉會の辭

神戸高等工業學校教授　工學士　古宇田　實君

一、本夜降雨の折にも拘らず聽衆無慮一千餘名婦人の聽講者百餘名稀有の大盛會裡に無事終了したるは欣喜に堪へざると同時に關係各位に謝する所なり

○新入會員及賛助員

地方會員の部

石井　宏彌君　東京府荏原郡上黒目氷川六〇六

特別賛助員の部

石川　安太君　北區堂島濱通一堂島ビルヂング東京電氣株式會社大阪出張所

普通賛助員の部

田中龜太郎君　滋賀縣蒲生郡安土村常樂寺七七四

田中　三一君　和歌山縣海草郡西和佐村出島七一

鈴木　定吉君　西區舟町農商務省倉庫大阪倉庫建築事務所

○退會賛助員

普通賛助員　松浦　松市君

同　福原安治郎君

同　谷口　惠一君

同　村上　秀二君

同　難波　經利君

同　泰君

同　平井　節雄君

同　倉畑　博君

同　久保　春治君

同　進藤　朔一君

特別賛助員　福山　七二君

○死去賛助員

終身賛助員　池田勘君（大正十三年十月十五日逝去）

住所勤務先異動

名譽賛助員の部

北條　時敬君　東京府北豐島郡王子町北宿一一八八

會　員　之　部

山下　茂一君　堺市熊野町東四丁三

近澤　武男君　下闕市山陽ホテル建築場橋本組出張所

佐藤　清八君　大阪府中河内郡高井田村字服部萬次郎君　大阪府東成郡天王寺村字芝口二七七八

井上　新二君　大阪府豐能郡岡町錦通三ノ一二一

中島　智喜君　大阪市東區内久寶寺町一ノ一五

地方會員の部

玉川　卓一君　大阪市西區江戸堀上通一ノ二五日本海上ビル大林組設計部

小林　利助君　東京府荏原郡大井町坂下二七七八

黒住福三郎君　鹿兒島市鹿兒島朝日新聞社建築場大林組出張所

櫃藤　要吉君　東京府豐多摩郡和田堀村萩久保九

朝香　茂君　東京市外大森町不入斗四九

一小澤太郎方

佐々木岩太郎君　松江市驛前通金山旅館方

横井　謙介君　大連市櫻町一一一

阪東　義三君　東京市芝區芝公園一四

特別賛助員之部

今井　完造君　兵庫縣武庫郡西灘村字味泥

普通賛助員之部

川久保梅次郎君　東京府荏原郡目黒町三田一七八

井下　清君　東京府荏原郡目黒町中目黒六六七

弓削兵太郎君　兵庫縣川邊郡小田村杭瀬弓

中野　利男君　東京市深川區扇橋町一ノ一　創工務所
八木　幸助君　大阪橋本組材料場内
工藤　覺二君　大阪市役所營繕課
吉田安太郎君　神戸市三宮町三ノ二二
秋吉鐵五郎君　東京市下西巢鴨宮仲二四五
鴻上　佐藏君　東京府荏原郡世田ヶ谷町三九
若宮　虎吉君　東京府北豊島郡南千住町地方大日本紡績株式會社橋場工場
高柳壽三郎君　大阪市西區八幡屋町九六
安田　繁藏君　大阪市北區澤上江町二ノ七二
足立　正雄君　兵庫縣朝來郡生野町口銀谷
永吉　國一君　大阪府中河内郡龍華村安中四季ノ里
中村　敬輔君　大阪府東成郡鯰江町三二八
原　　定君　赤松又吉方
牧田　暉君　大阪府西成郡千舟村足立方
渡　　寶幸君　大阪府東成郡天王寺村大正通一ノ一一四六
北森　竹松君　大阪市東區淡路町二、十五　銀行建築部大阪支部
吉村　繁一君　東京市日本橋區本銀町一ノ一二内藤建築事務所内
小野　五作君　神戸市水木通六ノ八〇三木吉藏方
高松　秀行君　大阪市南區天王寺大道一ノ二四一三　神戸市大日通五ノ八

○職員異動

薦田夏次郎氏十月二十日付を以て本協會書記就職

○住所並勤務先不明者

會員　高堂　德治　魚住　儀一
地方會員　廣瀨　孟
普通贊助員　伊東　武夫　同　戸山音次郎
同　太田　四郎　同　若林　俊一
同　吉本新之助　同植松與右衛門
同　久保　豊　同　政安　熊市
同　權藤　洗二　同　足立彌一郎
同　酒井紋之助　同　小枝　實
同　木越誠二郎　同　江藤　猛夫
同　石津　三吉　同　地福　勇吉
同　渡部　三郎　同　吉田榮次郎
同　田代　正熊　同　野々山政金
同　矢田部喜平　同　小林久之助
同　青木　立三　同　坂根　秋光
同　清原　佐市　同　茂木清太郎
同　田中　儀一

右住所或は勤務先御存じの方は本協會事務所へ御教示を願ます

寄贈圖書

郊外生活　四號　郊外生活社
住宅研究　十月號　文化建築社
工業評論　九號同　工業ノ日本社
工業ノ日本と人　十號　同　調會社
電氣評論　十月號　協會
都會人　第十光　都會人社
都會　第十八號　名古屋工業會
學士會月報　四三九號　學士會
建築世界　十號　建築世界社
朝鮮鐵道協會報　十月號　同　協會
日本美術協會報告　十四輯　日本美術協會
生活改善　二二號　生活改善同盟會
建築の普及　九月號　帝國工業教育會
朝鮮と建築　八月號　朝鮮建築會
工業之友　第一九七號　工手學校同窓會
セメント界彙報　第一〇號　日本ポートランドセメント同業會
建築畫報　九號同　建築社
住宅　十號　住宅改良會
庭園　八號同　協會
建築雜誌　十月號　建築學會
工政　十月號　工政會
經濟資料　東亞經濟調査局
中央建築　十月號　中央建築社
大阪時論　五號　大阪時論社
土木建築　十月號　土木建築社
建築新潮　十月號　洪洋社

役員及職員

副會頭　片岡安
理事長　理事　池田實
主記　理事　中澤誠一郎
同　理事　今林彦太郎
主計　理事　中村琢治郎
同　理事　松本禹象
編輯　理事　佐藤彰美
同　理事　本多二郎
同　理事　伊藤正文
同　理事　田中綱
同　理事　谷口廉兒

編輯係
江村郊邨
薦田夏次郎

庶務係
西谷節
鷺取陽

會計係
田村春松
大和榮衛

會員	三五七	會員(地方)	一五一
名譽賛助員	七八	終身賛助員	五六
特別賛助員	三一	普通賛助員	五一二
合計（十月二十日現在）	一一八五		

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	七拾五錢	貳錢
	十二册	九圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁ハ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

大正十三年十月廿八日印刷
大正十三年十一月一日發行　（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一

大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地
印刷人　大阪活版所

大阪市北區堂島濱通一丁目一番地
堂島ビルヂング
發行所　日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第七集第十一号　掲載広告一覧（掲載順）

ミドリ商会
日本エレベーター製造
大野正営業所
飾磨化学工業
大塚鉄工所
日本ペイント
浅野スレート販売
政正
特許エレベーター製作所
二和商会
南満鉱業大阪出張所
原田商会
福田製作所
石綿スレート
浅野スレート販売大阪出張所
浅野物産
山本東作商店

田村商会
建築金物商会
高田松太郎商店
駒崎化学建材研究所
金剛商会
HANKEN SEISAKUSYO
横河橋梁製作所
大平工業所
井筒政蔵商店
日本ホロタイル
鈴木商店
奥村重兵衛商店
日本アスベスト
湯浅蓄電池製造
日本セメント防水剤製造所
木下商店
野沢幸三郎商店

森川組
田中昌司商店
大福海上火災保険
大阪鉄管商会
桜興業
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所

国枝工務所
安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
増田清建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
岡部建築事務所
前田松本建築事務所
船越工務所
西原衛生工業所
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組

竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木工務店
正木工務店
岡本工務店
鴻池組営業所
有山組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店

銭高組
油脂化工社
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
須賀商会
大理石工業
栄進社
松尾
山本窯業商店
境川文庫
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
品川白煉瓦
日本木材工芸
高島屋呉服店
コルク工業
城口汚水処理研究所大阪支店
阿部鉄工所

ベニス工房
浜口商店
岩崎商業
小野田セメント製造
日本建築紙工大阪出張所
高田商会
セール、フレザー
星製薬
サカイブン建築鉄工所
関西ステインド硝子製作所
日本耐火スレート
日米板硝子
東京建鉄
大阪耐火リノリウム工業
日本工剤
内外土木建築材料
岡部商会
河村青写真調製所
日本トラスコン鋼材

山中商会
金属建材工作所
桐田商会
川崎工場
田中源太郎商店
極東板硝子工業
